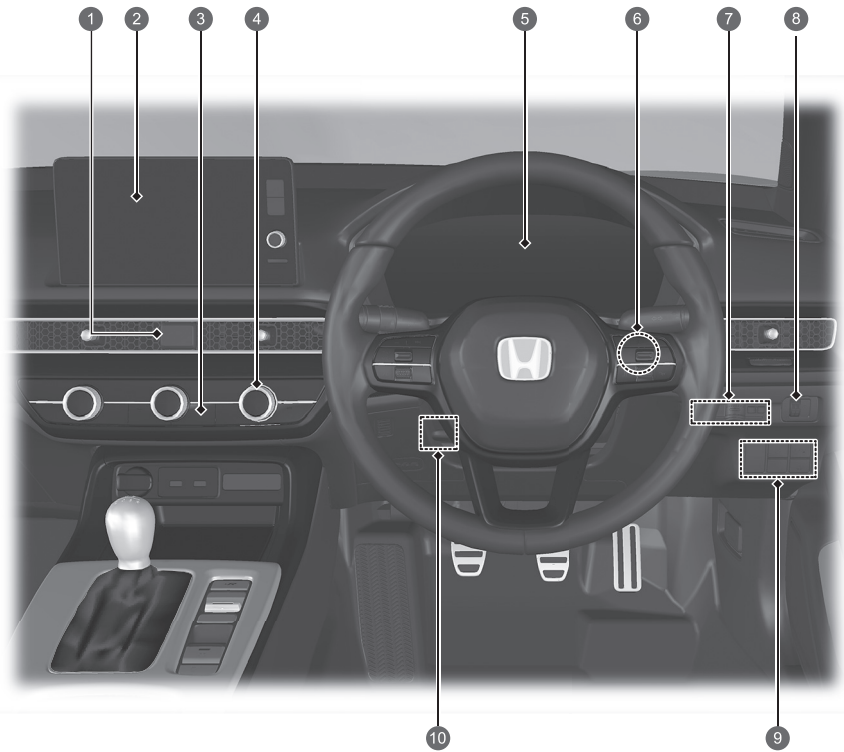
HONDA

CIVIC TYPE R

オーナーズマニュアル

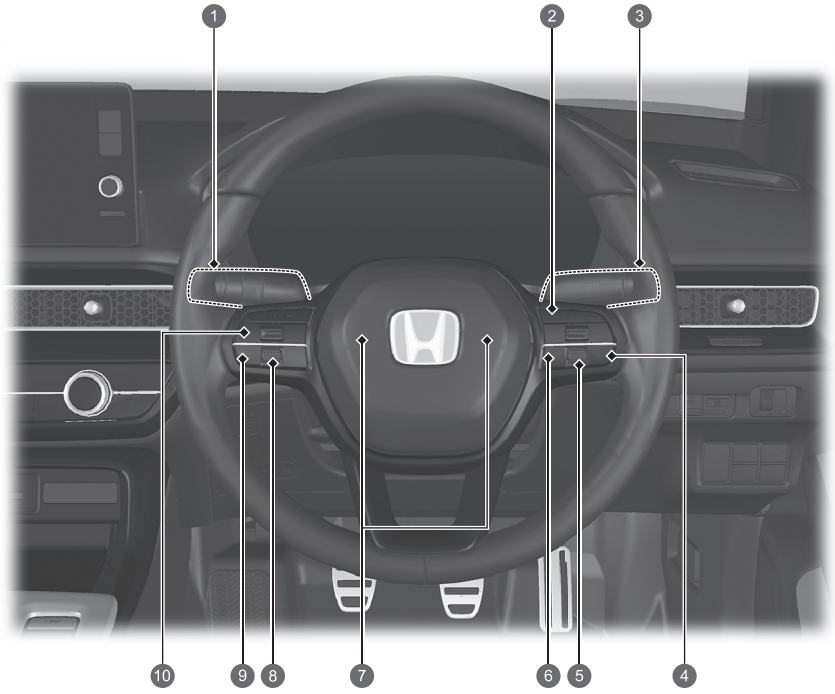
クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



❶ 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
❷ ナビゲーションまたはオーディオ※1
❸ リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ P. 157
❹ オートエアコン P. 184
❺ メーター P. 87
警告灯 P. 74
表示灯 P. 81
マルチインフォメーションディスプレイ P. 93, 99
❻ ENGINE START/STOP スイッチ P. 142
❼ ETC 車載器※2
❽ イルミネーションコントロールダイヤル P. 156
❾ (VSA OFF) スイッチ P. 214
安全支援情報スイッチ P. 221, 230, 240, 255, 247
パーキングセンサーシステムスイッチ P. 321
❿ ハンドル位置調節レバー P. 158

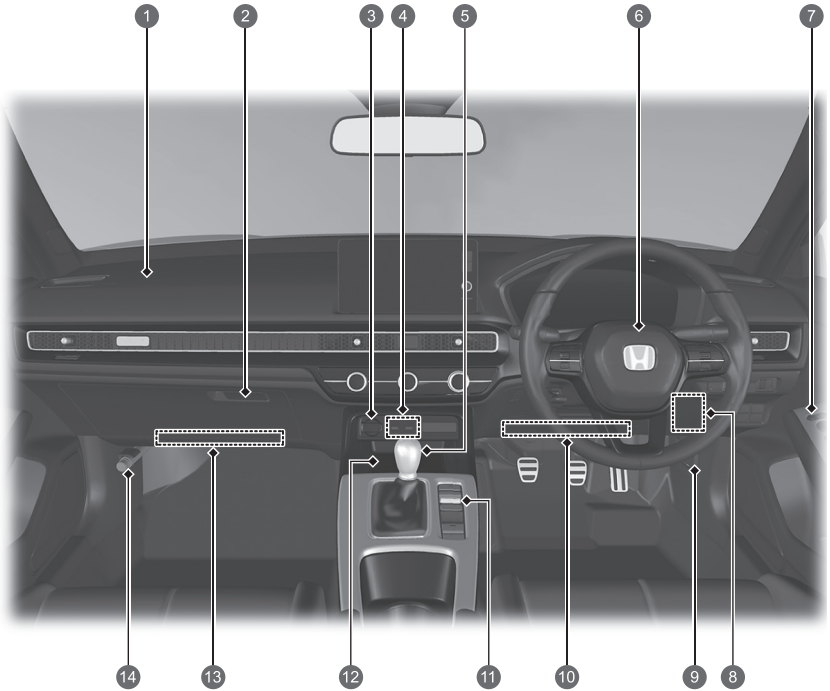
※1 : ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。
※2 : ETC 車載器については、同梱の取扱情報をご覧ください。



❶ ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 152
❷ アダプティブクルーズコントロール(ACC)スイッチ P. 262
❸ ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 145, 146
❹ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ P. 286
❺ ライトセレクターホイール P. 99
❻ ディスタンススイッチ P. 273
❼ ホーンスイッチ(周辺)
❽ レフトセレクターホイール P. 93
❾ 発話スイッチ※
❿ オーディオリモートコントロールスイッチ※

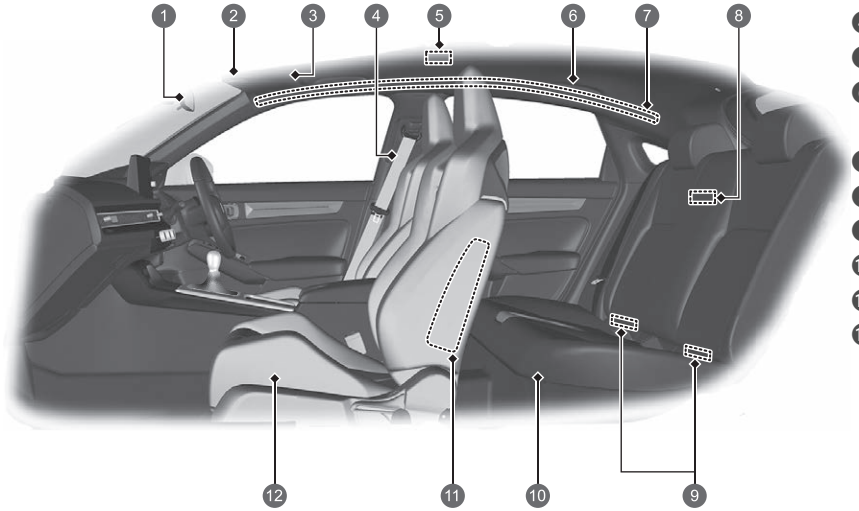
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ビジュアル目次



❶ SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 35
❷ グローブボックス P. 171
❸ アクセサリーソケット P. 177
❹ USB ジャック※
充電専用 USB ジャック P. 182
❺ チェンジレバー P. 201
❻ SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 35
❼ ドアミラー調節スイッチ P. 161
マスタードアロックスイッチ P. 132
パワーウィンドースイッチ P. 139
❽ 室内ヒューズボックス P. 413
❾ ボンネット解除ノブ P. 347
❿ 運転席ニーエアバッグ P. 39
⓫ +R スイッチ P. 206
ドライブモードスイッチ P. 205
パーキングブレーキスイッチ P. 309
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 313
⓬ ワイヤレス充電器* P. 178
⓭ 助手席ニーエアバッグ P. 39
⓮ 発炎筒 P. 381

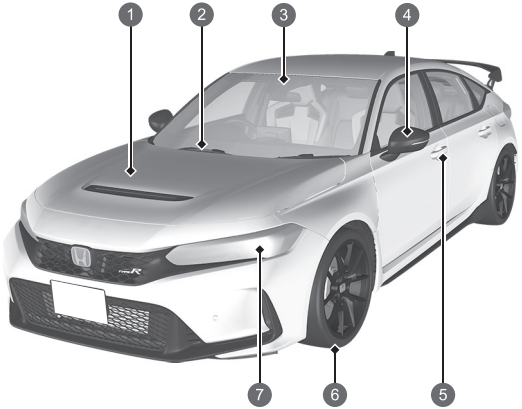
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



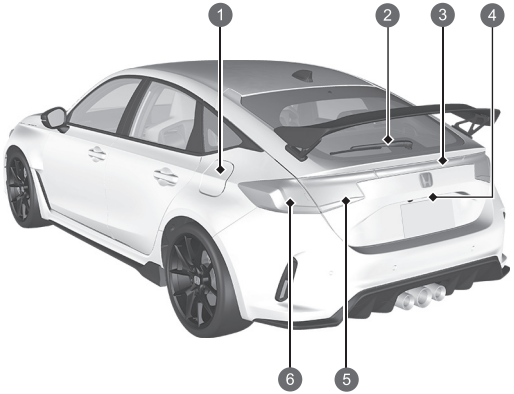
❶ ルームミラー P. 159
❷ マップランプ P. 170
❸ サンバイザー
バニティーミラー
❹ シートベルト P. 27
❺ 室内灯 P. 170
❻ グラブレール
コートフック P. 173
❼ サイドカーテンエアバッグシステム P. 45
❽ カーゴスペース照明灯 P. 357
❾ ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 63
❿ リヤシート P. 166
⓫ サイドエアバッグシステム P. 42
⓬ フロントシート P. 163

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



1. エンジンルーム内のメンテナンス P. 346
2. ワイパー P. 152, 359
3. フロントワイドビューカメラ P. 306
4. ドアミラー P. 161
   ドアミラーウィンカー P. 145, 351
5. ドアの施錠 / 解錠 P. 120
6. タイヤ P. 362, 382
7. ヘッドライト P. 146, 351
   車幅灯 / デイタイムランニングライト P. 146, 148, 351
   ウィンカー P. 145, 351



1. 給油のしかた P. 331
2. リヤワイパー P. 155, 361
3. ハイマウントストップランプ P. 356
4. テールゲートの開閉 P. 136
   番号灯 P. 146, 356
   リアワイドカメラシステム※
5. 後退灯 P. 355
   尾灯 P. 146, 356
6. 制動灯 / 尾灯 P. 146, 356
   ウィンカー P. 145, 352

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。
サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■車両特有部分について

●緊急通報 P. 421
●トラブルサポート P. 424

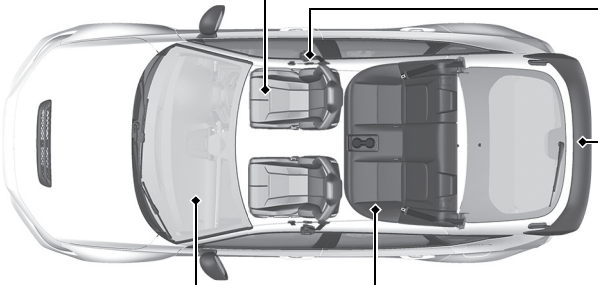
安全なドライブ P. 24



●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 25

●運転前にフロントシートの位置、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



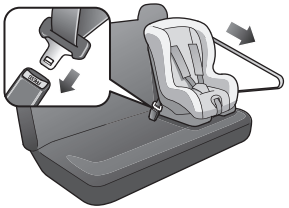
シートベルト P. 27

排気ガスについて P. 70

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動させないでください。

お子さまの安全 P. 52

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



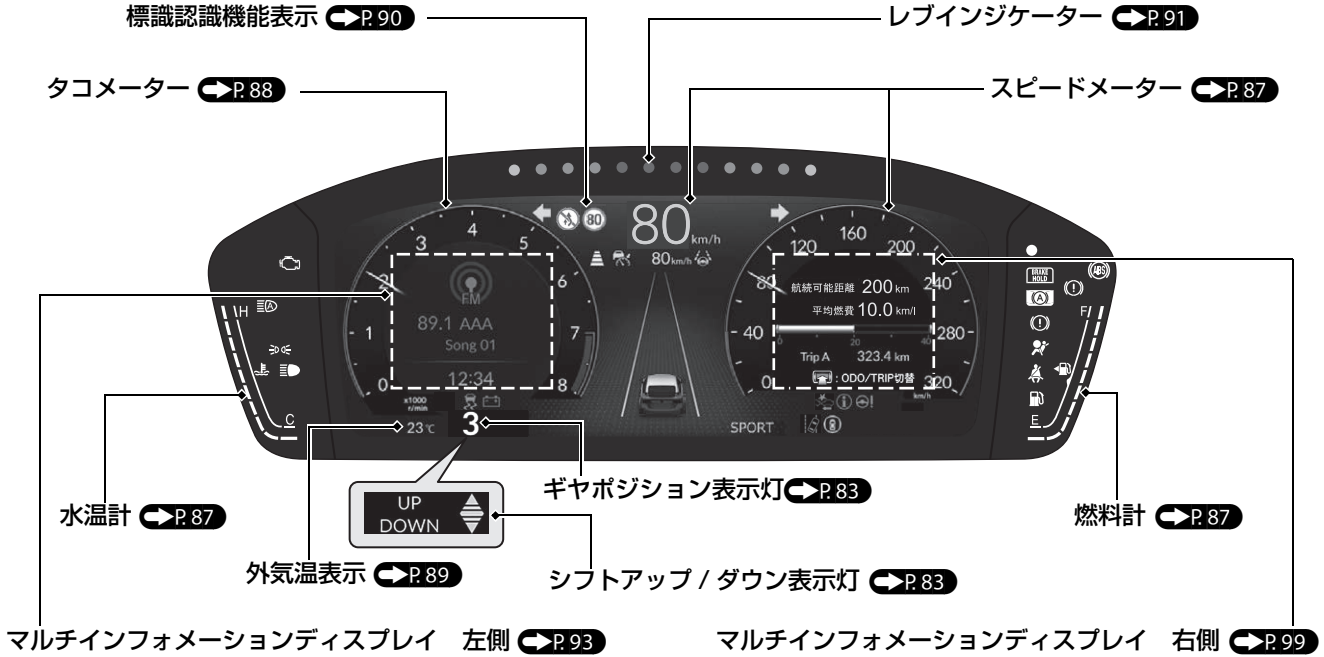
エアバッグ P. 35

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

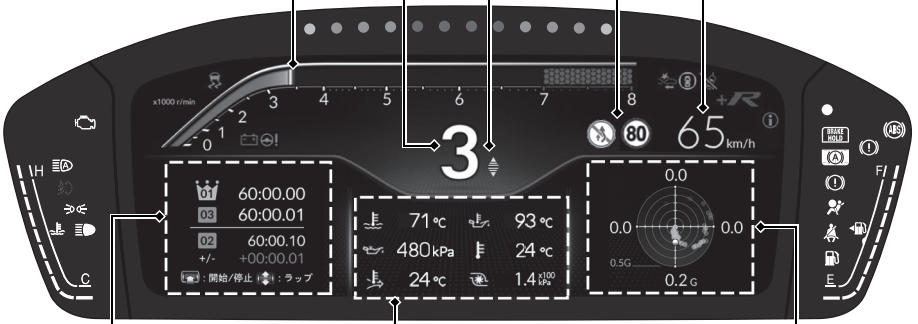
計器の見かた P. 71

警告灯 P. 74 ／表示灯 P. 81 ／メーター P. 87 ／マルチインフォメーションディスプレイ P. 93, 99

●メーターデザインを変更することができます。
メーターデザイン P. 117



●+R メーターのとき



シフトアップ / ダウン表示灯 P. 83

ギヤポジション表示灯 P. 83

タコメーター P. 88

標識認識機能表示 P. 90

スピードメーター P. 87

車両情報 P. 92

マルチインフォメーションディスプレイ　左側 P. 93

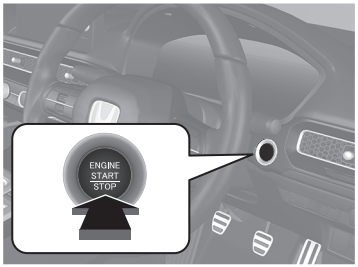
マルチインフォメーションディスプレイ　右側 P. 99

各部の操作 P. 118

時刻は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

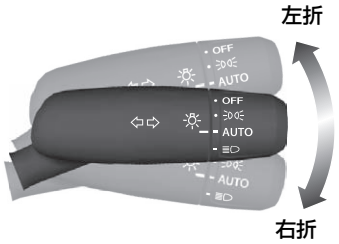
ENGINE START/STOPスイッチ P. 142

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



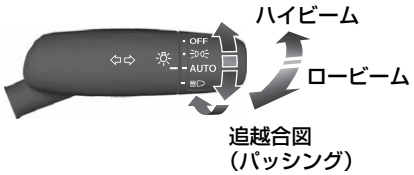
ウィンカー P. 145

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



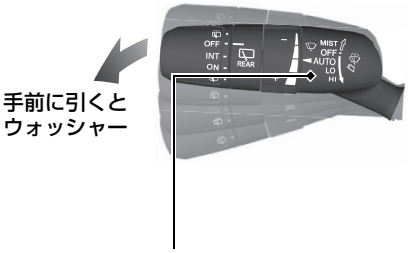
ライト P. 146

ライトスイッチ



ワイパー P. 152

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

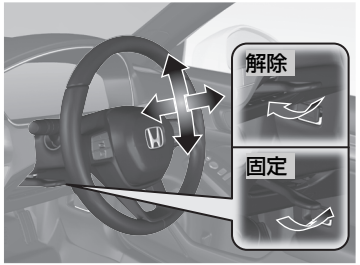


- OFF　停止
- AUTO　自動作動
- LO　低速
- HI　高速

ハンドル位置の調節

P. 158

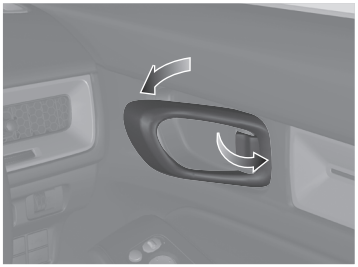
●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



運転席ドアハンドルでの解錠

P. 131

●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

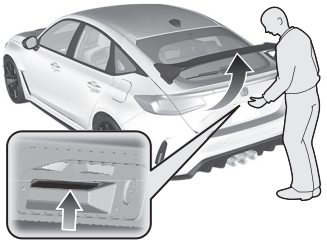


テールゲート

P. 135

●施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

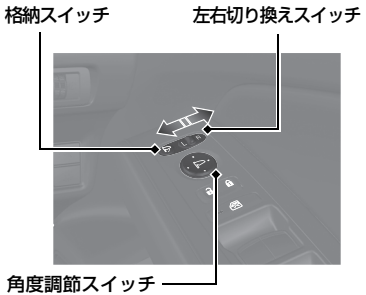
➡ Hondaスマートキーシステムでの施錠/解錠 P. 123



ドアミラー

P. 161

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



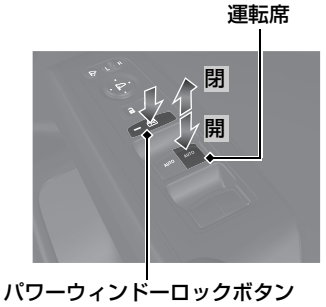
パワーウィンドー

P. 139

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

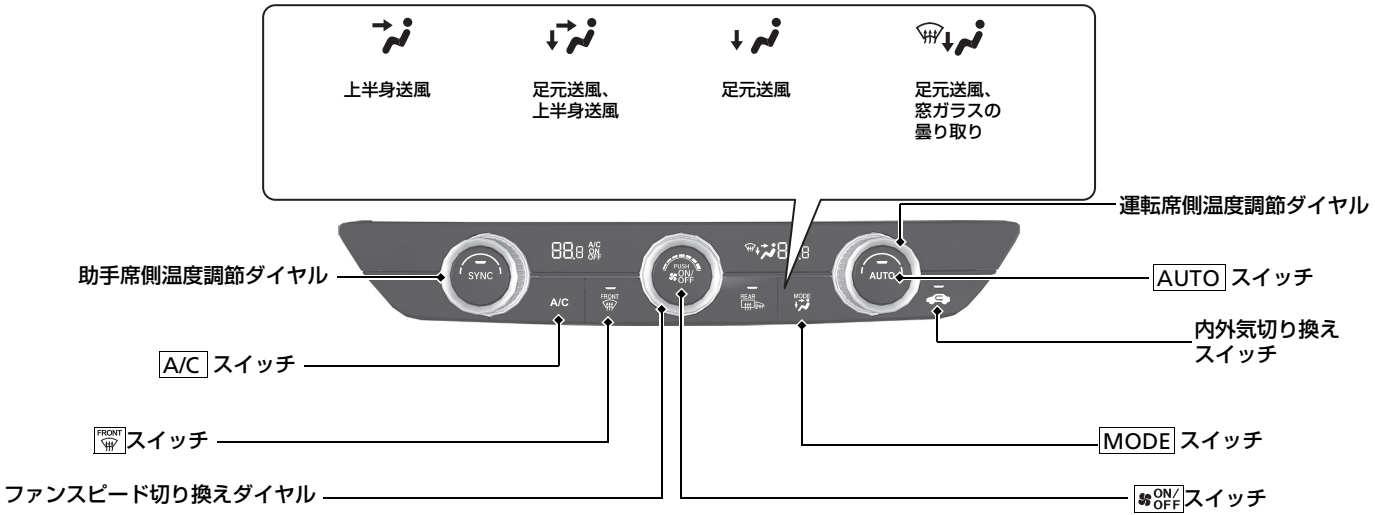
●パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。

●パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、運転席以外のウィンドーが非作動になります。



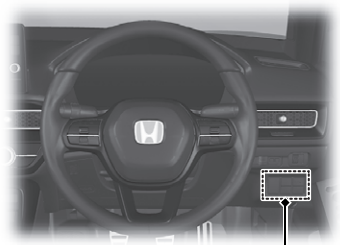
エアコン P. 183

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



運転 P.191

マニュアル車 P.201



CMBS の ON と OFF

P.230

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- エンジンを始動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS の ON と OFF を切り換えるには、安全支援情報スイッチを操作します。

VSA の ON と OFF

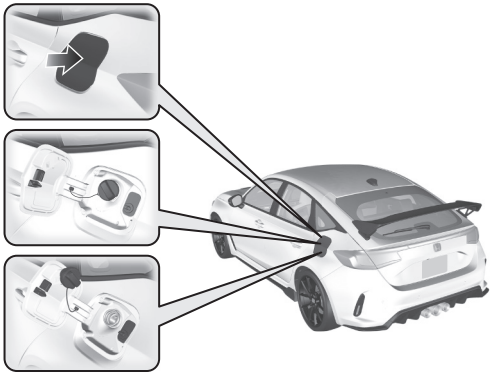
P.214

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P. 330

指定燃料：	無鉛プレミアムガソリン プレミアムバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：	47 リットル

1. 運転席ドアを解錠する。P. 123
2. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離すとリッドが少し浮き上がる。
3. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、キャップを開ける。
4. キャップをホルダーにかける。



Honda SENSING P. 223

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 227

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム P. 238

フロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 243

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 252

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

アダプティブクルーズコントロール（ACC） P. 260

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム（LKAS） P. 282

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

先行車発進お知らせ機能 P. 295

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 299

走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム P. 149

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション* P. 218

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

後退出庫サポート* P. 325

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパーのコーナーの低い位置にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

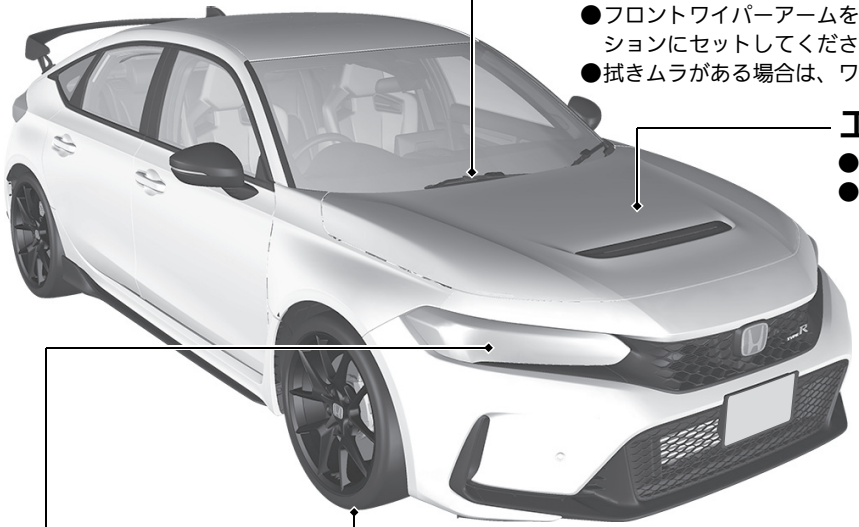
パーキングセンサーシステム P. 320

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイとオーディオ / インフォメーション画面で知らせます。

ドライバー注意力モニター P. 107

ドライバー注意力モニターは運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意力レベルを表示します。

メンテナンス P. 336



ワイパーブレード P. 359

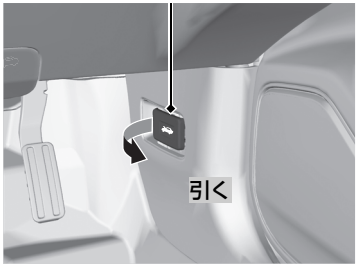
●フロントワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをメンテナンスポジションにセットしてください。
●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム P. 346

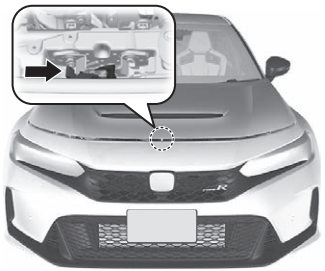
●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

ボンネット解除ノブ



❷ レバーを右に押してボンネットを開ける。



タイヤ P. 362

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤが必要です。

ライト P. 351

●後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 P. 411

万一の場合には P. 379

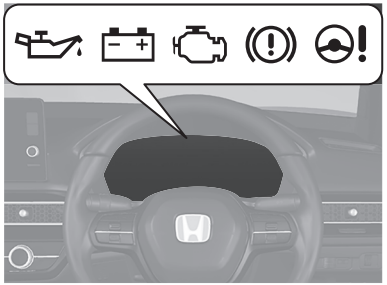
パンクした P. 382

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した P. 406

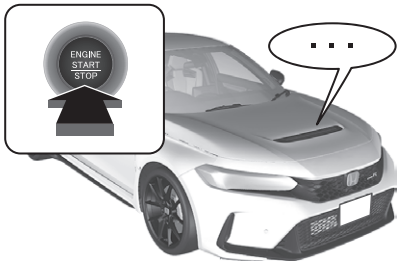
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

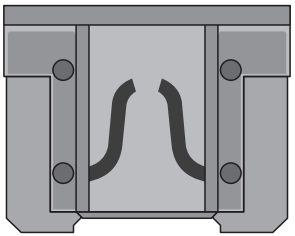
P. 398

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた P. 411

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P. 404

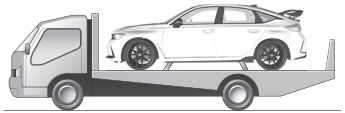
●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 418

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。



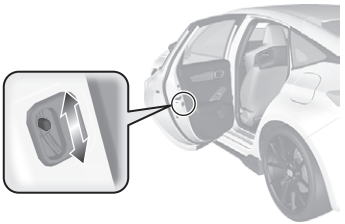
Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P. 317

Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリーモードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

施錠するには（降車時オートドアロック機能）P. 126

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • チェンジレバーがN以外になっていますか？
Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q プレミアム(ハイオク)ガソリン仕様車にレギュラーガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンが入手できないときはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能を発揮できません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。
各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません。)。

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ワイヤレスによるシステムアップデートについて

この車のアプリケーションは、お客様のオーディオ装置及び接続されたデバイス固有の Honda ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を定期的に Honda のサーバーに送信します。

車両および接続されたデバイス情報、車台番号、モデルタイプ識別番号、ハードウェアおよびソフトウェアの部品番号、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、設定言語、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ（アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス等）

お客様の個人情報
Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト（https://www.honda.co.jp/privacy/hm/）を参照してください。

取扱説明書表示機能について

取扱説明書を表示するアプリケーションが搭載されているオーディオ装置が装備されている場合は、ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を Honda の定める任意のタイミングで Honda のサーバーに送信します。

車台番号、オーディオ装置のシリアル番号、設定言語、取扱説明書バージョン、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ（アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス、表示ページおよび検索キーワード等）

お客様の個人情報
Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト（https://www.honda.co.jp/privacy/hm/）を参照してください。

※：取扱説明書表示機能は予告なくサービスを終了する場合があります。サービス終了の際は引き続き Honda ホームページの取扱説明書をご利用ください。
既に取扱説明書をインストールされている車両においては、工場出荷状態に戻さない限り引き続きご利用いただけます。

目次

安全なドライブ P.24

安全なドライブのために 25　シートベルト 27　エアバッグ 35
ポップアップフードシステム 49　お子さまの安全 52　排気ガスの危険性 70

計器の見かた P.71

警告灯と表示灯 72　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 87

各部の操作 P.118

時刻の設定 119　ドアの施錠と解錠 120　テールゲート 135　セキュリティシステム 137
ウィンドーの開閉 139　ハンドルまわりのスイッチ操作 142
ミラー類の調節 159　シートの調節 163　室内装備品 170　エアコン 183

オーディオ P.189

オーディオ装置 190

運転 P.191

運転の前に 192　運転操作 195　Honda SENSING 223　ブレーキ操作 309
駐停車操作 319　リアワイドカメラシステム 329　給油 330
ターボ車について 335

メンテナンス P.336

メンテナンスの前に 337　オイルモニターシステム 340　エンジンルーム内のメンテナンス 346
電球の交換 351　ワイパーブレードラバーの点検と整備 359　タイヤの点検と整備 362
Honda スマートキー 367　エアコンのお手入れ 369　清掃 371　アクセサリーと改造 377

万一の場合には P.379

工具、発炎筒 380　パンクしたとき 382　ジャッキの取り扱い 395　エンジンが始動しない 398
バッテリーがあがったとき 401　オーバーヒート 404　警告灯の点灯 / 点滅 406
ヒューズ 411　けん引 418　フューエルリッドが解錠できないとき 419
テールゲートが開かないとき 420　緊急時や車両トラブルのとき 421

資料 P.425

仕様 426　オープンソースライセンス 427

本書に記載されているイラストは代表例です。実際の車両と異なる場合があります。
車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 25
シートベルト
シートベルトについて 27
シートベルトの着用 31
シートベルトの点検 34
シートベルトのアンカーポイント 34
エアバッグ
エアバッグの種類 35
SRS エアバッグ 35
ニーエアバッグ 39
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 45
エアバッグシステム警告灯 47
エアバッグのお手入れ 48
ポップアップフードシステム
ポップアップフードシステムのしくみ 49
ポップアップフードシステムのお手入れ 51
お子さまの安全 52
乳幼児の安全 54
大きなお子さまの安全 68
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 70

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.131
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.163
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.163
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.31
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.35
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.52

安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
➔ **マルチインフォメーションディスプレイ右側** P.99

次ページに続く

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを上り坂の場合[1]、下り坂と平地の場合[R]にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.201
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

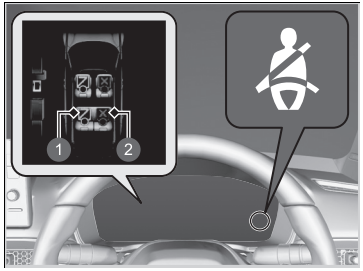
シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

次ページに続く

■シートベルトリマインダー





❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したり、リヤシートベルトを着脱すると、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。

運転中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

運転席および助手席



❶ シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナー

⚠注意

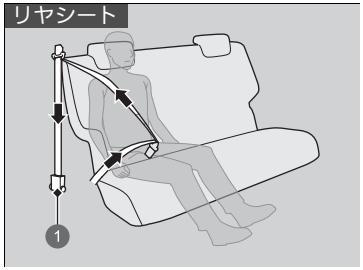
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、両側のシートベルトプリテンショナーが作動します。

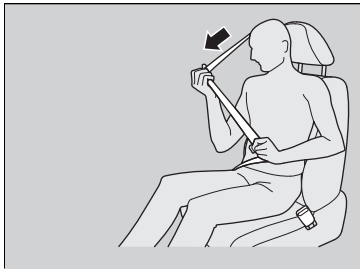
SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

次ページに続く

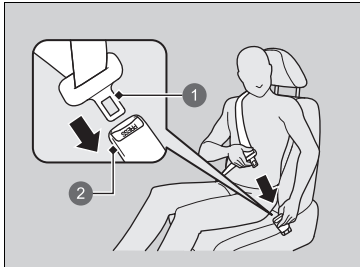


❶ シートベルトプリテンショナー

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

❶ タングプレート
❷ バックル

シートベルトの着用

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

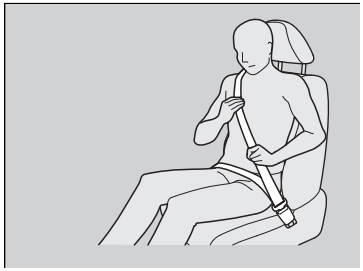
肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

シートベルトの着用

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

➔ **シートベルトについて** P.27
➔ **シートベルトの点検** P.34

ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

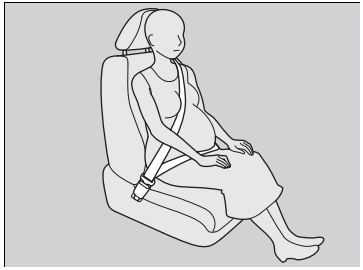
調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

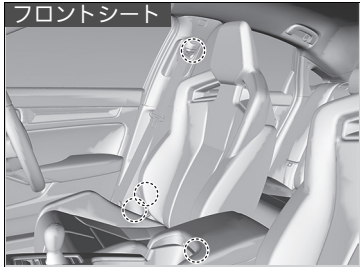
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

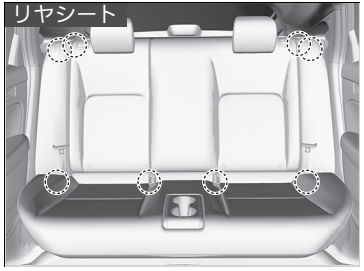
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **ニーエアバッグ**：ハンドルの下とグローブボックスの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

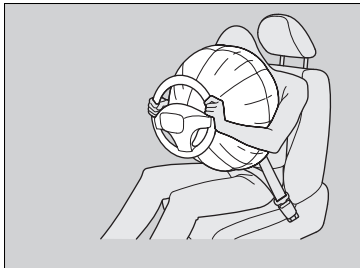
次ページに続く

エアバッグの種類

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。

車両データの記録 P.21

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

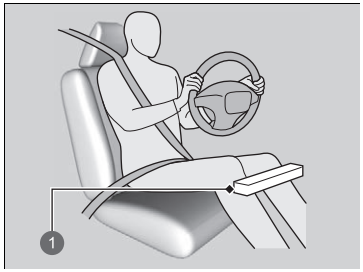
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

ニーエアバッグ

運転席、助手席それぞれの膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の衝撃緩和を補助します。

■格納場所



❶ 格納場所



❶ 格納場所

ニーエアバッグは運転席のハンドル下側、助手席はグローブボックス下側に格納されています。

どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

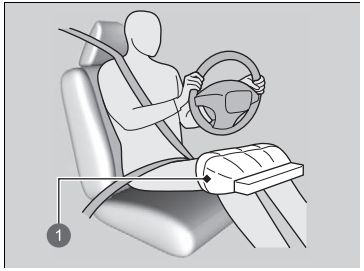
≫ニーエアバッグ

⚠注意

ニーエアバッグ格納部やその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーなどをつけたりしない。
ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときにものが飛んでけがをする原因になります。

次ページに続く

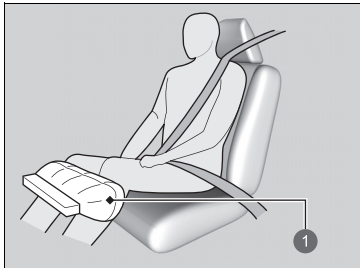
■作動のしくみ



❶ ニーエアバッグ

運転席または助手席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突がSRSエアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。



❶ ニーエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

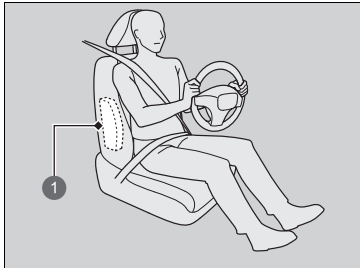
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

❶ 格納場所

▶サイドエアバッグ

⚠注意

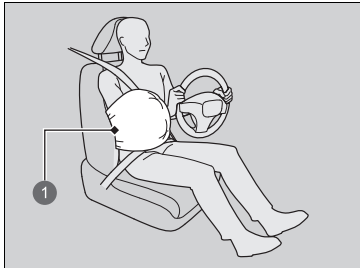
ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

❶ サイドエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

次ページに続く

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

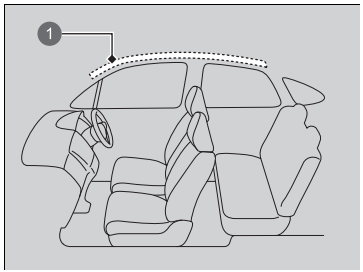
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



❶ サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

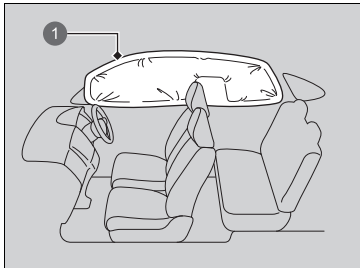
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

次ページに続く

■作動のしくみ



❶ サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.43

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

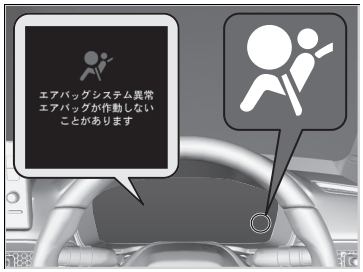
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

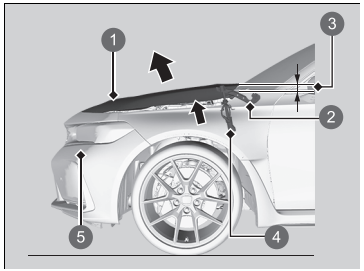
ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてエンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

■作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

パワーユニットは、左右のヒンジの車両前方に搭載されています。

❶ ボンネット
❷ ヒンジ
❸ 約 100mm 上がります
❹ パワーユニット
❺ 歩行者インパクトセンサー

»ポップアップフードシステムのしくみ

⚠警告

ポップアップフードシステムが作動したあとは、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。
冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動したあとはボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認したあと、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。
走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

次ページに続く

システムは以下の状況でも作動することがあります。
- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

システムは以下の状況では作動しないことがあります。
- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

≫ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

■ポップアップフードシステム警告表示



■パワーモードをON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

ポップアップフードシステム警告表示

⚠警告

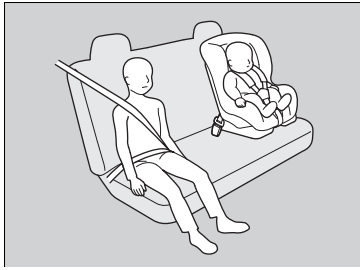
警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながることがあります。
異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。
ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

ポップアップフードシステムのお手入れ

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。

お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全を守るために

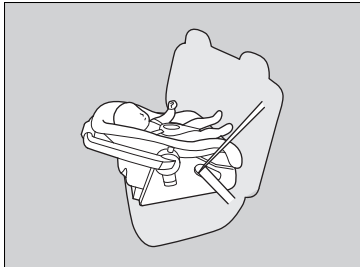
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

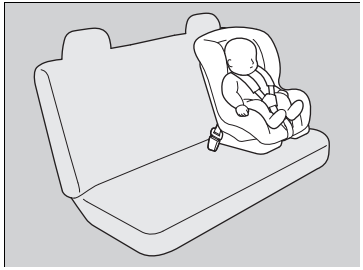
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

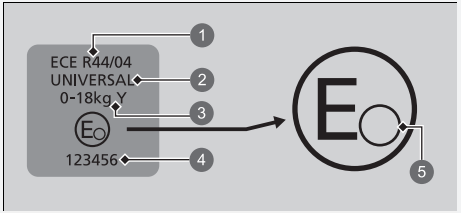
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

≫チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

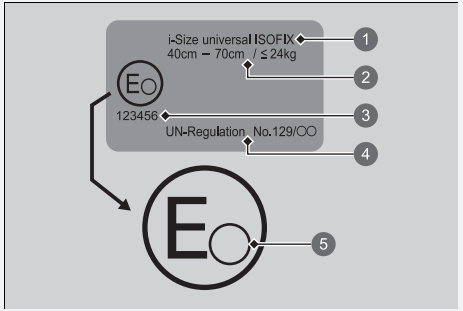
UN R44 認可表示(例)



❶ 法規番号
❷ カテゴリー
❸ 体重範囲
❹ 認可番号
❺ 国番号

チャイルドシートの選びかた

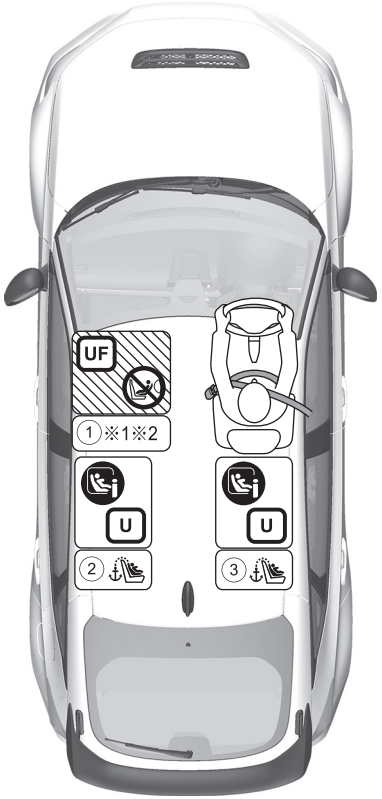
UN R129 認可表示(例)



❶ カテゴリー
❷ 身長範囲 / 体重範囲
❸ 認可番号
❹ 法規番号
❺ 国番号

次ページに続く

■シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
i-Size	i-Size　および　ISOFIX　チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1 • チャイルドシートは前向き取り付けのみです。
• シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2 ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節して下さい。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

次ページに続く

チャイルドシート装着に関する情報

			シートの位置及びシート位置番号		
	サイズグループ 重量 身長		①	②	③
			助手席※1	後席 (左側)	後席 (右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置 (有 / 無)	Group 0	Up to 10kg	無	有	有
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group Ⅰ	9-18kg	有※2	有	有
	Group Ⅱ	15-25kg			
	Group Ⅲ	22-36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置 (有 / 無)	≤ 150cm		無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置 (有 / 無)※3	Honda 純正 チャイルドシートリスト参照		有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具 (L1/L2)	—		無	無	無
搭載可能な最大の後ろ向きチャイルドシート固定具 (R1/R2X/R2/R3)	Group 0	Up to 10kg	無	R3	R3
	Group 0+	Up to 13kg			
	Group Ⅰ	9-18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具 (F2X/F2/F3)	Group Ⅰ	9-18kg	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具 (B2/B3)	≤ 150cm		無	B3	B3

※1 • チャイルドシートは前向き取り付けのみです。
• シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。

※2 ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節して下さい。

※3 記載のチャイルドシートは車両販売時点のHonda純正チャイルドシートです。最新のHonda純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

• サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

シート位置別チャイルドシート情報

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

次ページに続く

■推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0-9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
0 ＋ 13kg 未満 (0-2 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
Ⅰ 9kg-18kg (9ヶ月 -4 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (前向き)
Ⅱ , Ⅲ 15kg-36kg (4-12 歳)	Honda　ジュニアシート	汎用シートベルト固定

UN R129 適合チャイルドシート

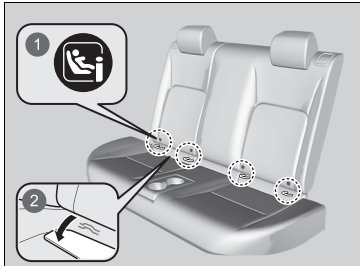
適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢 15 か月以上ー身長 100cm 以下		i-Size

▶推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

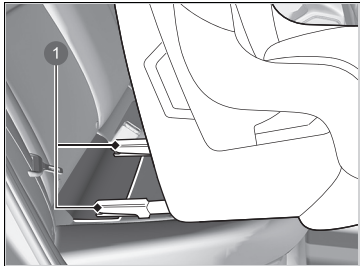
■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



❶ マーク
❷ カバー

1. マークの下にあるカバーをめくり下部取付金具を確認する。



❶ プローブ

2. プローブがカバーの上に載るようにチャイルドシートを置く。

次ページに続く

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

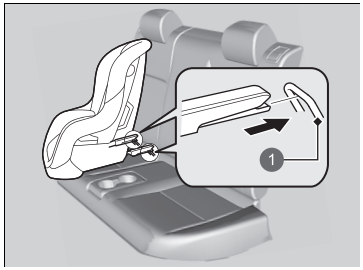
下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

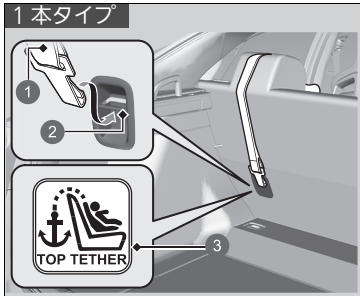
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



❶ 下部取付金具

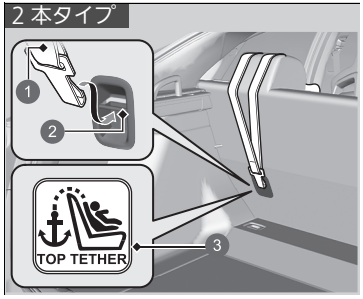
3. チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

1本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

2本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. カーゴエリアカバーをたたむ。
➡ **カーゴエリアカバー** P.175

5. トップテザーストラップをヘッドレストの上に通す。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

6. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

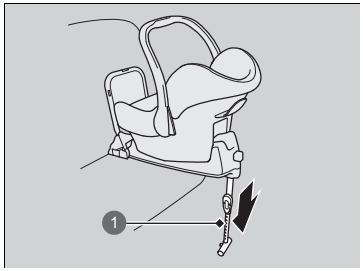
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

次ページに続く



❶ サポートレッグ

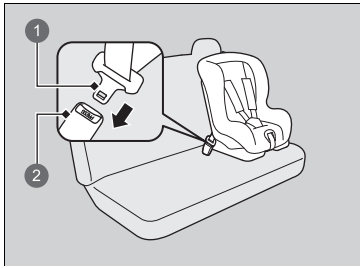
サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

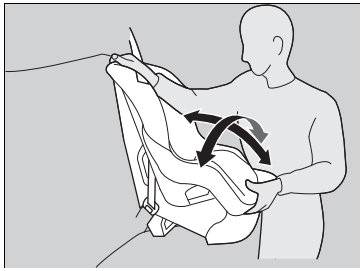
▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

■シートベルトでの取り付け



❶ タングプレート
❷ バックル

1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

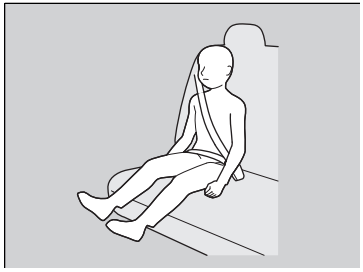
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

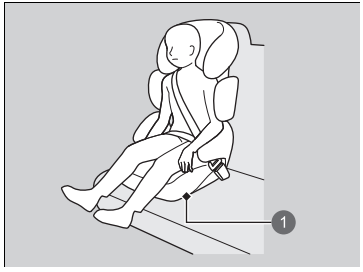
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合 P.69

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

≫一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。



計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯
警告灯 74
表示灯 81
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ
メーター 87
マルチインフォメーションディスプレイ 左側 93
マルチインフォメーションディスプレイ 右側 99

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。
点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従いHonda 販売店に連絡するなどして対処してください。

 ※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.74

 ※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ) P.74

 ※1 PGM-FI 警告灯 P.75

 ※1 充電警告灯 P.75

 シートベルト非着用警告灯 P.75

 燃料残量警告灯 P.76

 ※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 P.76

 ※1 エアバッグシステム警告灯 P.76

 ※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.76

 ※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 P.77

 VSA OFF 警告灯 P.77

 方向指示器 / 非常点滅表示灯 P.81

 ライト点灯表示灯 P.81

 ハイビーム表示灯 P.81

 ※1 オートハイビーム表示灯 P.81

 ギヤポジション表示灯 P.83

 シフトアップ表示灯 P.83

 シフトダウン表示灯 P.83

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

SPORT	SPORT モード表示灯	P.83
INDIVIDUAL	INDIVIDUAL モード表示灯	P.83
COMFORT	COMFORT モード表示灯	P.83
+R	+R モード表示灯	P.84
BRAKE HOLD ※1	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	P.84
Ⓐ ※1	オートマチックブレーキホールド表示灯	P.84
ⓘ	インフォメーション表示灯	P.84
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	P.84
	車間距離設定表示灯	P.85
○	イモビライザーシステム表示灯	P.82
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.82
※1	アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	P.77
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.85
※1	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	P.78
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.85
※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	P.78
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	P.85
※1	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	P.78
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	P.85
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	P.78
※1	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.79
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	P.86

※1 ：これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードが OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯。 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを ON モードから OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯。
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.408
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.408
		• 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• パーキングブレーキが故障して作動しません。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.408
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.407
	充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **充電警告灯が点灯した** P.407
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードが ON モードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 • 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.28

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 7.0 リットルになったときです。
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.317
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.409

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• VSA が作動しているときは点滅	—
		• VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.212
		• バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	**➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.212
		• +R モードのときに VSA OFF スイッチを長押しすると点灯	**➡ ドライブモードが +R モードのとき** P.215
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ACC システムが異常のときに点灯
		• バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.79
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.79
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	➡ **路外逸脱抑制機能** P.243

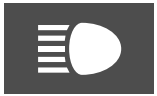
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯（オレンジ）	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。
		ブラインドスポットインフォメーション装備車 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーが汚れると点灯 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーの温度が高温になると点灯	• 安全な場所に停車してブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサー周辺の汚れをふき取ってください。 • 温度が下がるとシステムは復帰します。 ➡ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.218

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯（オレンジ）	• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• バンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	• 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **ソナーセンサー** P.308 ➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.238

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡ **電球の交換** P.351
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➡ **ライトの使いかた** P.146
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯	—
	オートハイビーム表示灯	• オートハイビームの作動条件がそろったときに点灯	➡ **オートハイビーム** P.149

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
表示灯 	イモビライザーシステム表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったんOFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますのでHonda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➲ セキュリティアラームシステム P.137

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ギヤポジション表示灯	• 1～6速のギヤポジションとNポジションを表示	• 非常に遅い動作でギヤチェンジをした場合、一瞬異なるギヤポジションが表示されることがあります。 ➡ **シフト操作** P.201 • Nポジションは、パワーモードをONモードにしてから 1 ～ 6 速のギヤポジションまたはRポジションに入れるまでは表示されません。 • 1～6速のギヤポジションは停車時は表示されません。 • 表示のON/OFFはオーディオ / インフォメーション画面のカスタマイズで変更することができます。 ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。
	シフトアップ表示灯	• シフトアップ推奨時に点灯	➡ **シフトアップ / ダウン表示灯** P.203
	シフトダウン表示灯	• シフトダウン推奨時に点灯	➡ **シフトアップ / ダウン表示灯** P.203
	SPORTモード表示灯	• ドライブモードがSPORTモードのときに点灯	➡ **ドライブモードスイッチ** P.205
	INDIVIDUALモード表示灯	• ドライブモードがINDIVIDUALモードのときに点灯	➡ **ドライブモードスイッチ** P.205
	COMFORTモード表示灯	• ドライブモードがCOMFORTモードのときに点灯	➡ **ドライブモードスイッチ** P.205

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	+R モード表示灯	• ドライブモードが+Rモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.205
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.313
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.313
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージは、警告が解除されるか、ライトセレクターホイールを回すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにライトセレクターホイールを回し、メッセージを再表示させることができます。 ➔ **表示の切り換えかた** P.99
	クルーズコントロール表示灯（ホワイト / グリーン）	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • RES/+/SET/- スイッチを押し、クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	➔ **クルーズモードへの切換え** P.277

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	車間距離設定表示灯	• アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯が点灯しているときに点灯	➔ **車間距離を設定するには** P.273
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	• スイッチを押すとホワイトで点灯 • ACC が作動するとグリーンで点灯	➔ **アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.260
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	• LKAS スイッチを押すとホワイトで点灯 • LKAS が作動するとグリーンで点灯	➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.282
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	• CMBS を OFF にしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.114
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	• 路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.114

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報表示灯（グリーン / グレー）	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS がすべて ON のときにグリーンで点灯 • いずれかが ON のときにグリーン / グレーで点灯 • すべてが OFF のときにグレーで点灯	**ブラインドスポットインフォメーション*** P.218 **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.227 **踏み間違い衝突軽減システム** P.238 **路外逸脱抑制機能** P.243 **歩行者事故低減ステアリング** P.252

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

■水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は H のマークにまで上がらない状態で走行します。

≫燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

少量給油(約5リットル以下)を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

≫水温計

水温計が H のマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。
ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。
➔ **オーバーヒート** P.404

次ページに続く

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

≫タコメーター

エンジンの限界回転数は、7,000rpm です。

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、燃料供給が停止されます。

エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーンに近づくと警告音が鳴ります。
警告音の ON/OFF を選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。
補正するには、オーディオ / インフォメーション画面の車両設定を使用します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

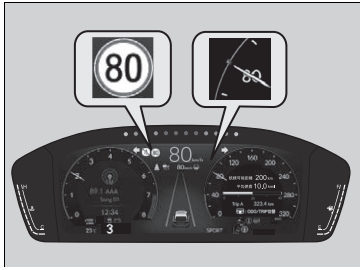
外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

次ページに続く

■標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➔ **標識認識機能** P.299



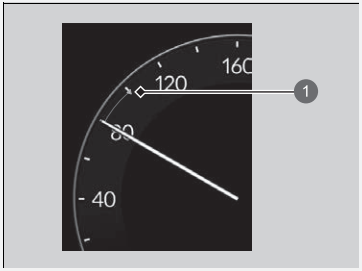
■アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS) 表示

アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)の現在の状態を表示します。

➔ **アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.260
➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.282

アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS) 表示

メーターデザインが「2 眼」または「バー」のとき、アダプティブクルーズコントロール(ACC)またはクルーズコントロールで速度を設定すると、スピードメーターに設定した速度の位置にマークが表示されます。



❶ 設定速度

■レブインジケーター

エンジン回転数に応じて外側から中央へと点灯していきます。

レブインジケーター

レブインジケーターの ON/OFF を選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

■車両情報

+R メーターのとき、以下の車両情報が表示されます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

- **エンジン水温**
- **エンジン油温**
- **エンジン油圧**
- **外気温**
- **エンジン吸気温度**
- **ブースト圧**
- **ステアリング舵角**
- **アクセルペダル開度**
- **ブレーキ圧**
- **クラッチペダル開度**
- **ヨーレート**
- **大気圧**

≫車両情報

車両情報は6項目選択して、表示することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

「エンジン水温」と「エンジン油温」は上限値を設定できます。上限値に達すると、オレンジに変わります。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ACC または LKAS を ON にしているときは、車両情報は表示されません。

マルチインフォメーションディスプレイ　左側

各種音楽メディアやハンズフリー電話の情報を表示します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■時計

時計を表示します。

≫時計

マルチインフォメーションディスプレイに表示される時計の ON/OFF を切り替えることができます。

➔ **表示設定** P.96

次ページに続く

■ストップウォッチ

ラップタイムの計測および過去の計測値、最速ラップを表示します。



■ラップタイムの計測

1. 左側の画面を「ストップウォッチ」に変更する。
   ➡ **表示コンテンツの切り替え** P.97
2. レフトセレクターホイールを押してストップウォッチメニュー画面を表示する。
3. 「ラップ計測」を選択し、レフトセレクターホイールを押してラップ計測画面を表示する。
4. レフトセレクターホイールを押して計測を開始する。
5. レフトセレクターホイールを押して計測を停止する。
   ▶ ラップごとの時間を計測するには、各ラップの最後でレフトセレクターホイールを回します。
   ▶ ストップウォッチメニュー画面に戻るには、レフトセレクターホイールを長押しします。

▨ストップウォッチ

この機能を使用して計測する場合は、安全な場所で行ってください。

ラップタイムは 00:00.00 - 99:59.99 まで表示することが可能です。

履歴は 20 回まで残すことができます。

Honda LogR でラップタイム計測をすると、マルチインフォメーションディスプレイに計測情報が表示されます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



■履歴の確認 / 消去

履歴を確認または消去するには、ストップウォッチメニュー画面の「履歴 / リセット」を選択し、レフトセレクターホイールを押します。

▶履歴を確認するには、レフトセレクターホイールを回します。

▶履歴を消去するには、計測停止時にストップウォッチ履歴画面でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択して押します。

▶ストップウォッチメニュー画面に戻るには、レフトセレクターホイールを長押しします。

次ページに続く

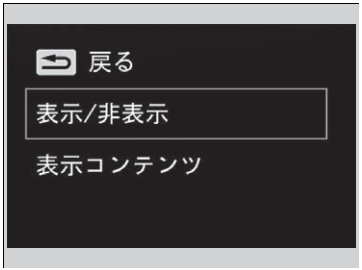
■表示設定

■オーディオソースの表示 / 非表示

オーディオソースの表示 / 非表示を変更することができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクターホイールを回し「表示　/非表示」を選択し、押して決定する。

▶表示設定

設定変更するときはパーキングブレーキをかけてください。



3. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。
▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

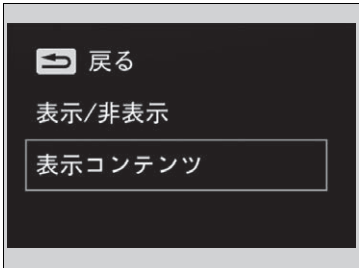
■表示コンテンツの切り替え

表示コンテンツを切り替えることができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。

次ページに続く



2. レフトセレクターホイールを回し「表示コンテンツ」を選択し、押して決定する。



3. レフトセレクターホイールを回して表示させたいコンテンツを選択し、押して決定する。

マルチインフォメーションディスプレイ　右側

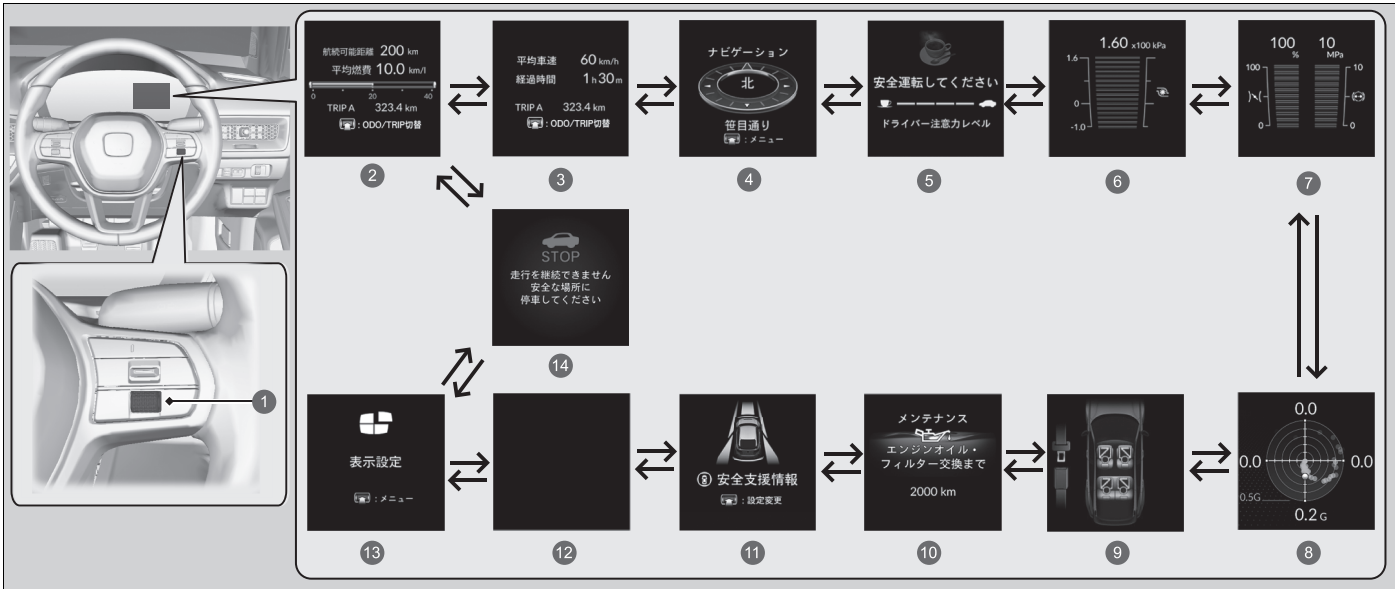
マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

➔**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された** P.406
➔**オーバーヒート** P.404

■表示の切り換えかた

ライトセレクターホイールを回すごとに画面が切り換わります。

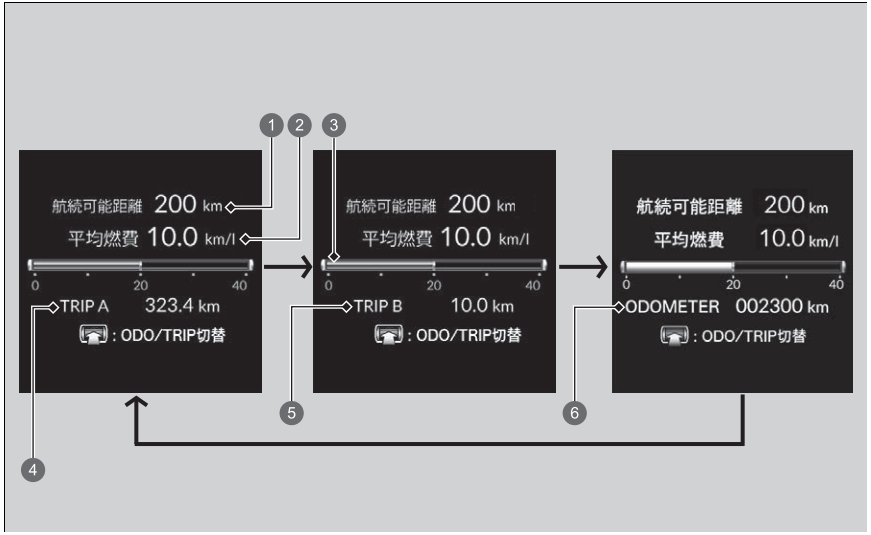
次ページに続く



❶ ライトセレクターホイール
❷ 航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター P.101
❸ 車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター P.104
❹ ナビゲーション P.106
❺ ドライバー注意力モニター P.107
❻ ブースト圧計 P.111
❼ アクセル開度計／ブレーキ圧計 P.111
❽ G メーター P.112
❾ シートベルト使用状況表示 P.113
❿ メンテナンス P.113
⓫ 安全支援情報 P.114
⓬ なし
⓭ 表示設定 P.116
⓮ 警告メッセージ P.117

■航続距離 / 燃費 / オドメーター/ トリップメーター

ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターのA、Bとオドメーターが切り換わります。



❶ 航続可能距離
❷ 平均燃費
❸ 瞬間燃費
❹ トリップメーターA
❺ トリップメーターB
❻ オドメーター

次ページに続く

■オドメーター
走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター
リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには
リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でライトセレクターホイールを長押しし、「リセット」を選択してください。トリップメーターが0.0にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■航続可能距離表示
燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■平均燃費表示
トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

■瞬間燃費表示
瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

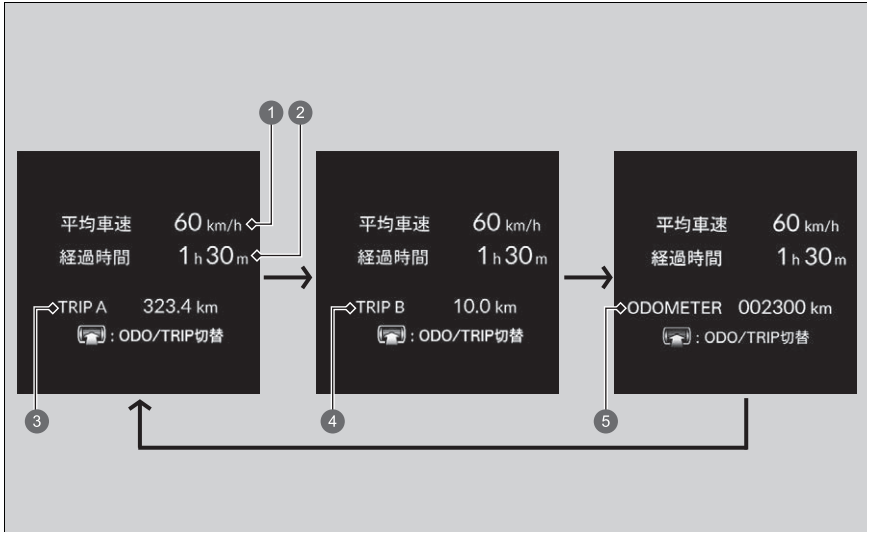
トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

次ページに続く

■車速 / 経過時間 / オドメーター/ トリップメーター

ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターの A、B とオドメーターが切り換わります。



❶ 平均車速
❷ 経過時間
❸ トリップメーターA
❹ トリップメーターB
❺ オドメーター

■オドメーター

➔ オドメーター P.102

■トリップメーター

➔ トリップメーター P.102

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

経過時間表示

経過時間表示は999時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

■ナビゲーション

■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

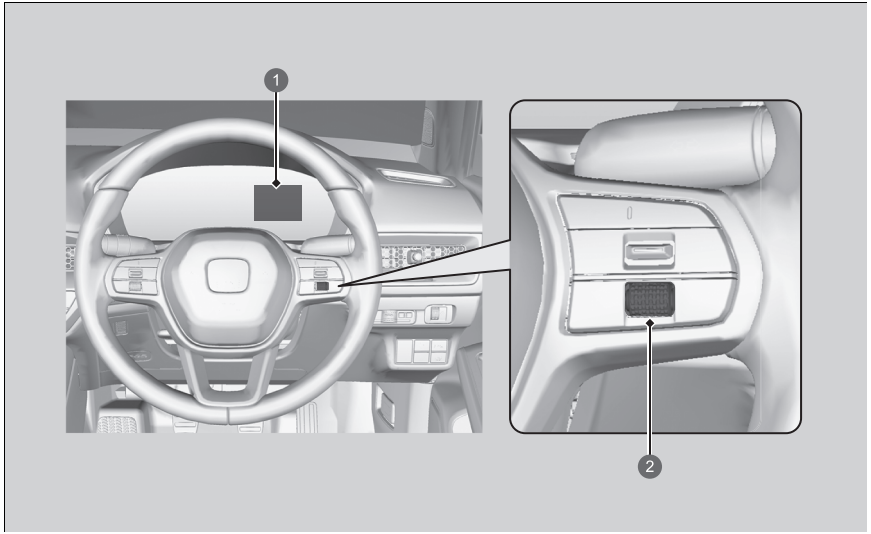
ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

»ナビゲーション

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターは運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意力レベルを表示します。



❶ マルチインフォメーションディスプレイ
❷ ライトセレクターホイール

ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターは、運転者の疲労や注意力を常時検知するものではありません。
ドライバー注意力レベルの表示に関わらず、疲労を感じたときは、安全な場所で十分に休憩をとってください。

次ページに続く



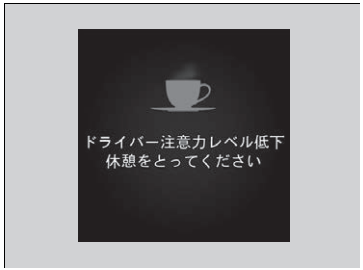
マルチインフォメーションディスプレイで
ドライバー注意力モニターを選択すると、
ドライバー注意力レベルを白い目盛りで表
示します。

表示の切り換えかた P.99

❶ ドライバー注意力レベル



注意力の目盛りが 2 になると「ドライバー注
意力レベル低下」が表示されます。



注意力の目盛りが 1 になると「ドライバー注意力レベル低下　休憩をとってください」が表示され、警報音とハンドル振動で運転者に知らせます。
このメッセージが表示されたら、安全な場所に車を停車し、十分に休憩をとってください。
ライトセレクターホイールを回すか、システムが運転を正常と判断するとメッセージが消えます。
運転者が休憩をとらず、システムが注意力低下を検知し続けた場合、15 分後にメッセージ表示、警報音、ハンドル振動により再度運転者に知らせます。
30 分未満の運転では、メッセージは表示しません。

次ページに続く

■ドライバー注意力モニターのリセット

次の場合にドライバー注意力レベルがリセットされます。

- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 停車中に運転者がシートベルトを外し、ドアを開けたとき

■ドライバー注意力モニターの作動条件

- 車速が 40km/h を超えているとき
- EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が消灯しているとき

■ドライバー注意力モニターが作動しない事例

- 車線維持支援システム（LKAS）のステアリングアシスト作動中
- 道路の状態が悪い（舗装されていない道路や荒れた道路など）
- 風が強いとき
- 車線変更や加減速を多く繰り返す走行をしているとき

■設定の変更

オーディオ / インフォメーション画面を使用してシステムの設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

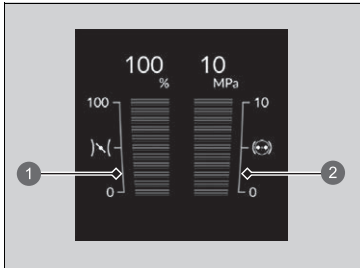
»ドライバー注意力モニターの作動条件

ドライバー注意力モニターが作動していないときは、ドライバー注意力レベル表示の目盛りがグレーになります。

■ブースト圧計

ターボのブースト圧を表示します。

■アクセル開度計／ブレーキ圧計



■アクセル開度計

アクセル開度を%で表示します。

■ブレーキ圧計

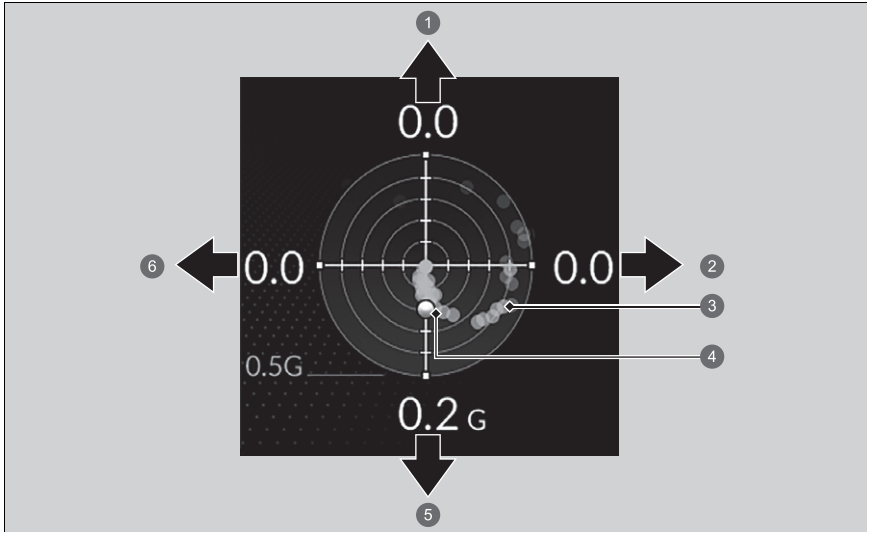
ブレーキ作動時のブレーキ圧を MPa で表示します。

❶ アクセル開度計
❷ ブレーキ圧計

次ページに続く

■ G メーター

走行時、車両にかかる荷重の強さ (G) と方向を表示します。



❶ 前進中に減速したとき／後退中に加速したとき
❷ 左に操舵したとき
❸ 軌跡(白色)
❹ 現在の荷重の強さと方向(黄色)
❺ 前進中に加速したとき／後退中に減速したとき
❻ 右に操舵したとき

G メーター

表示される荷重の強さ(G)の最大値を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■シートベルト使用状況表示

全席シートベルトの使用状況を表示します。

➔ **シートベルトリマインダー** P.28

■メンテナンス

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。

➔ **オイルモニターシステム** P.340

次ページに続く

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキの作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

▶安全支援情報

オレンジで表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、ライトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にライトセレクターホイールを押してON/OFF を切り換えます。

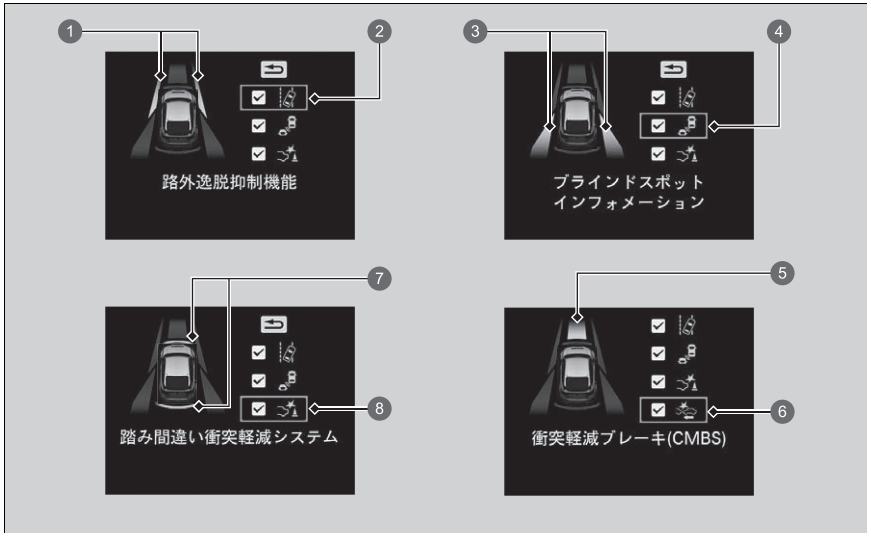
➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.218
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.227
➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.238
➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.252
➔ **路外逸脱抑制機能** P.243

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

➔ **路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)** P.78
➔ **路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯** P.78
➔ **路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)** P.85
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)** P.78
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)** P.85
➔ **安全支援情報 警告灯 (オレンジ)** P.79
➔ **安全支援情報 表示灯 (グリーン / グレー)** P.86

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ 路外逸脱抑制機能作動状態
❷ 路外逸脱抑制機能アイコン
❸ ブラインドスポットインフォメーション作動状態*
❹ ブラインドスポットインフォメーションアイコン*
❺ 衝突軽減ブレーキ作動状態
❻ 衝突軽減ブレーキアイコン
❼ 踏み間違い衝突軽減システム作動状態
❽ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

安全支援情報

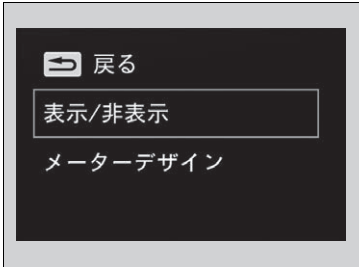
踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

リヤセンサーの OFF P.324

■表示設定

■機能の表示 / 非表示

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1.「表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。

2. ライトセレクターホイールを回し「表示　/ 非表示」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。

▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

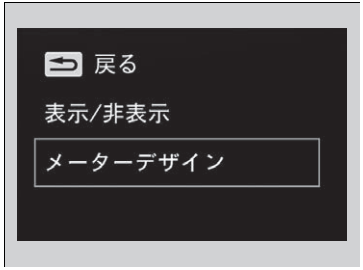
»表示設定

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

設定変更するときはパーキングブレーキをかけてください。

■メーターデザイン

メーターデザインを2眼タイプまたは、バータイプに変更することができます。



1. 「表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し「メーターデザイン」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回してお好みの設定を選択し、押して決定する。

メーターデザイン

「2 眼 / シンプル」または「バー/ シンプル」を選択しているときに、アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動すると、シンプルなメーター表示になります。

+R メーターのときは、設定を変更することができません。

■警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

警告メッセージ

複数のメッセージがある場合は、 ライトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻の設定 119
ドアの施錠と解錠
キー 120
Honda スマートキーの微弱電波 122
車外でのドアの施錠 / 解錠 123
車内での施錠 / 解錠 131
チャイルドプルーフ 133
衝撃感知ドアロック解除システム 134
テールゲート 135
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 137
セキュリティアラームシステム 137
ウィンドーの開閉 139
ハンドルまわりのスイッチ操作
ENGINE START/STOP スイッチ 142
方向指示器(ウィンカースイッチ) 145
ライトの使いかた 146
オートハイビーム 149
ワイパー/ ウォッシャー 152
イルミネーションコントロール 156
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 157
ハンドルの調節 158
ミラー類の調節 159
シートの調節 163
フロントシート 163
リヤシート 166
アームレスト 169
室内装備品 170
エアコン
エアコンの吹き出し口 183
オートエアコンの使いかた 184
オートエアコンのセンサー 188

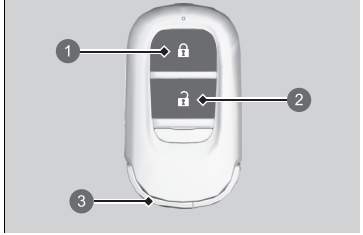
時刻の設定

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キー

この車には、以下のキーが付いています。

Honda スマートキー



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン
❸ 内蔵キー

キー

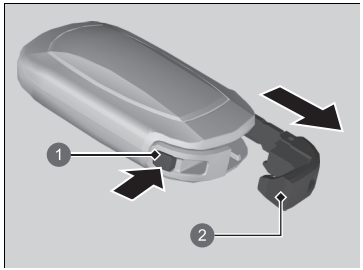
すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
イモビライザーシステム P.137

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■内蔵キー



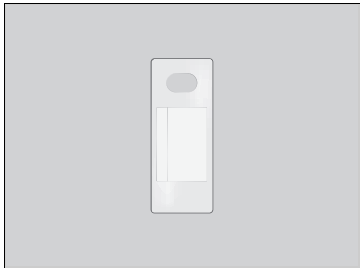
❶ ボタン
❷ 内蔵キー

Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.399

キーナンバータグ

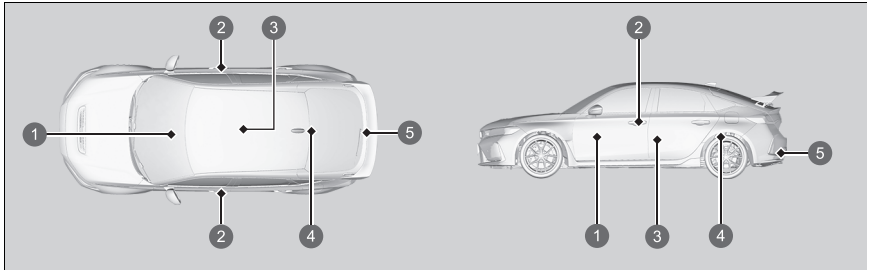
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



❶ 車室内発信機(インストルメントパネル下)
❷ 車室外発信機(前席アウターハンドル内)
❸ 車室内発信機(センターコンソール後ろ)
❹ 車室内発信機(フロア下)
❺ 車室外発信機(リヤバンパー内)

▶Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

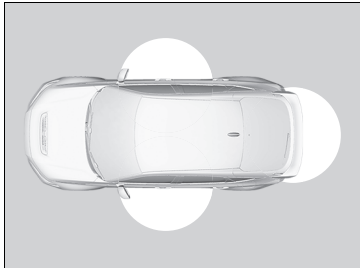
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケーターが2回点滅し、電波の受信が停止します。

Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ドアロックセンサー、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠や解錠ができます。

施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

➔ **室内灯** P.170

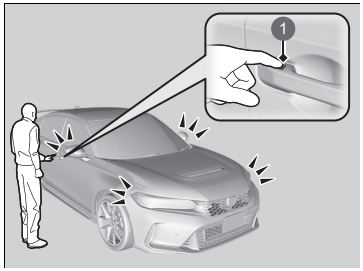
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Hondaスマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

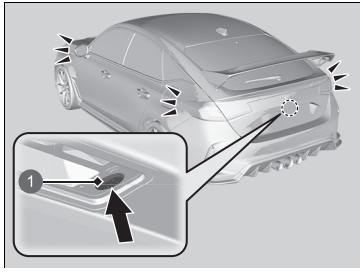
パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

ドア、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。

次ページに続く



❶ ドアロックセンサー



❶ ロックボタン

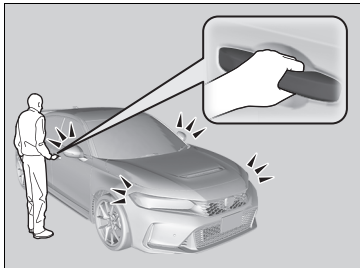
■施錠するには

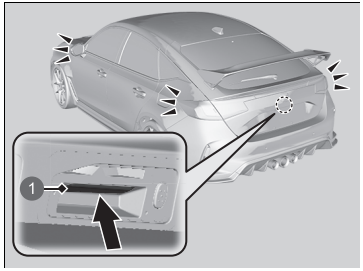
運転席ドア、助手席ドアのドアロックセンサーに触れる、またはテールゲートのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもドアロックセンサーやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作やロックセンサーでの施錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートオープンスイッチを押した直後はドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。





❶ テールゲートオープンスイッチ

■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

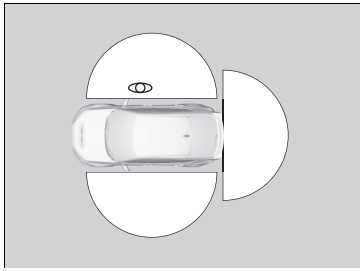
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、オーディオ / インフォメーション画面を使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

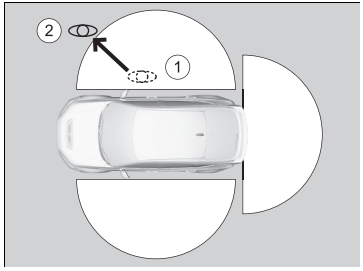
次ページに続く



オートロック機能の作動範囲

■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドア、テールゲート、フューエルリッドが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。



Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

≫施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、オーディオ / インフォメーション画面のカスタマイズ機能で設定を変更してください。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドア、テールゲートを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
  ▶警告ブザーは鳴りません。
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
  ▶警告ブザーが鳴ります。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、テールゲート、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

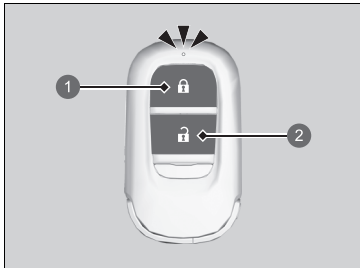
オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをカーゴスペース内に置いたとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。
Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

次ページに続く

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン

■施錠

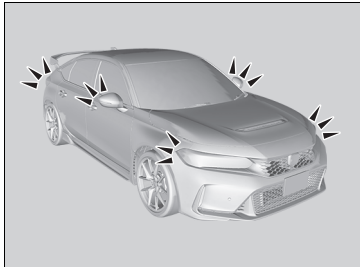
施錠ボタンを押します。

1 回目：

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内)：

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。



■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

≫キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

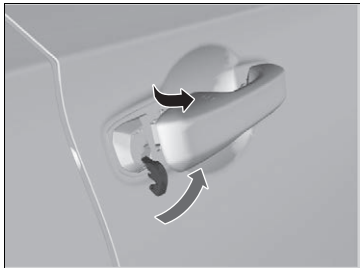
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➔ **電池交換のしかた** P.367

■キーを差し込んでの解錠

Honda スマートキーのボタンで解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

鍵穴はドアハンドルを引いた裏側にあります。

➡ **電池交換のしかた** P.367



ハンドルの下にあるキーシリンダーに内蔵キーを挿入し、回します。

キーを差し込んでの解錠

運転席ドアにキーを差し込んで解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に解錠されます。

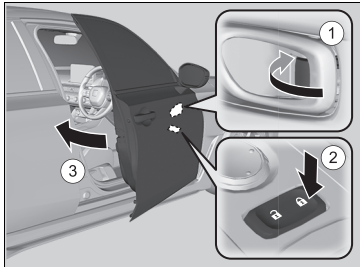
Honda スマートキーのボタンで施錠できないときは、下記を参照してください。

➡ **キーを使わない施錠** P.130

次ページに続く

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(①)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(②)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(③)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

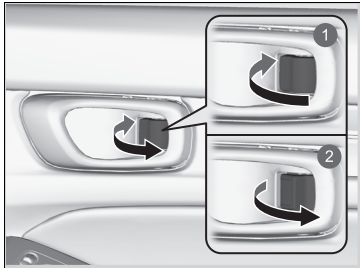
» キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

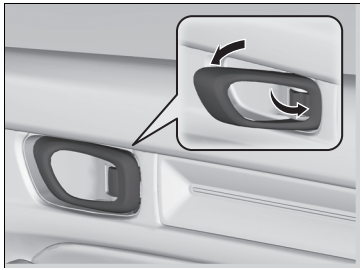
■解錠するには
ノブを引き出します。

❶ 施錠
❷ 解錠

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠



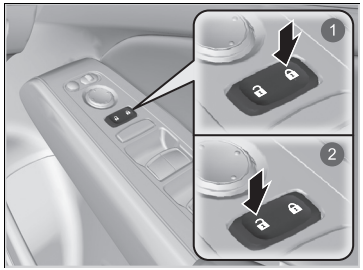
運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

次ページに続く

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

❶ 施錠
❷ 解錠

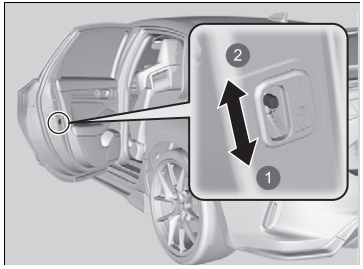
≫マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席または助手席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

❶ 施錠
❷ 解錠

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  一酸化炭素について P.70

テールゲート開閉時の注意

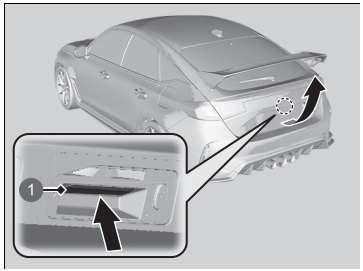
⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

テールゲートの開閉

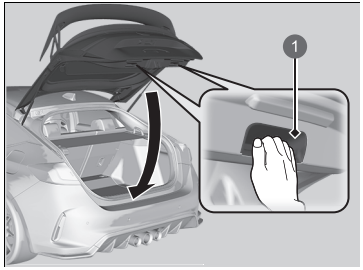


❶ テールゲートオープンスイッチ

解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠
P.123



❶ インナーハンドル

テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

テールゲートの開閉

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートオープンスイッチでテールゲートを解錠することができます。

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとエンジンの始動はできないシステムです。

ENGINE START/STOP を押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

▶▶セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンをONにしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

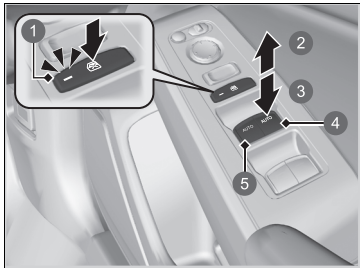
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

次ページに続く

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



❶ パワーウィンドーロックボタン
❷ ウィンドーを閉める
❸ ウィンドーを開ける
❹ 運転席用スイッチ
❺ 助手席用スイッチ

■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

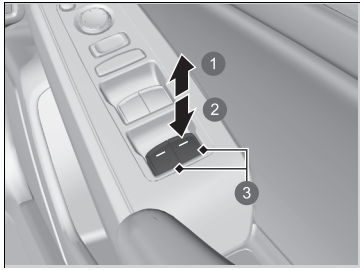
パワーウィンドーの開閉

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

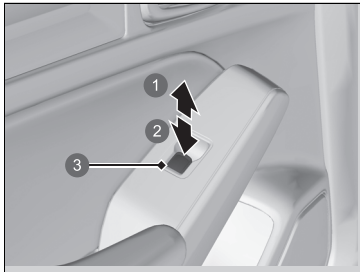
故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

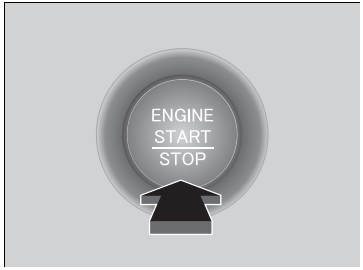
❶ ウィンドーを閉める
❷ ウィンドーを開ける
❸ 後席用スイッチ



❶ ウィンドーを閉める
❷ ウィンドーを開ける
❸ 後席用スイッチ

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



Honda スマートキーを携帯し、クラッチペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を押すと OFF モード→アクセサリーモード→ ON モード→OFFモードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード：
車両の電源が OFF の状態です。
アクセサリーモード：
オーディオなど一部のアクセサリーが使用できます。
ON モード：
すべてのアクセサリーが使用できます。

»ENGINE START/STOP スイッチ

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

■パワーモードオートオフ機能

パワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

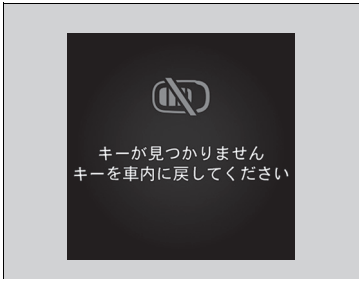
■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

次ページに続く

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときにHonda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

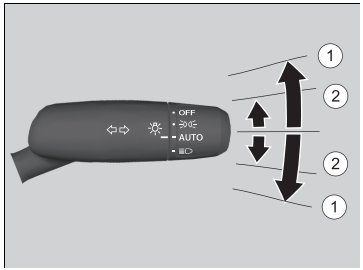
窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■①: 方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■②: ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が 3 回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

オーディオ / インフォメーション画面でワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

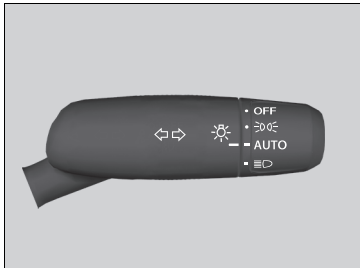
方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

➔ **表示灯** P.81

ライトの使いかた

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのときに、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを≡Dにします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを≡DOにして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを≡Dにしたあと、 AUTO にします。

ライトの使いかた

ライト類が点灯するとメーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.81

ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを≡Dにしたままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

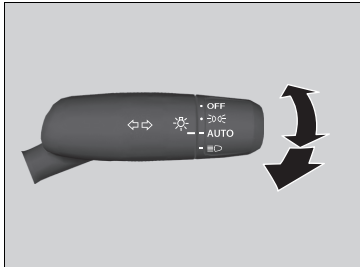
ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：
パーキングブレーキをかけて停車しているときにライトスイッチを OFF にして手を放します。
▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

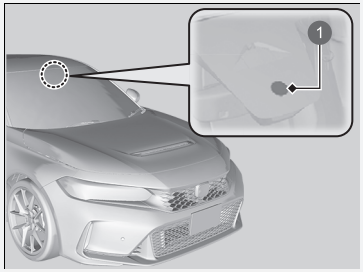


■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。
▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

»ヘッドライト・車幅灯

照度感知センサーは、図の位置にあります。



❶ 照度感知部

次ページに続く

■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

■デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを OFF にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。
車両を発進させると再び点灯します。

»デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトと車幅灯は光源を共用しています。

デイタイムランニングライトは車幅灯よりも明るく点灯します。

車幅灯を手動点灯させたときはデイタイムランニングライトは点灯しません。

デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

■オートハイビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Dに回したあと、 AUTO に戻す

次ページに続く

オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントワイドビューカメラ** P.306

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

オートハイビーム

オーディオ / インフォメーション画面でオートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム	ロービーム
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がいない • 前方に街灯などの光が少ない	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す

  このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを≡Dに回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ハイビーム / ロービームの自動切り換え

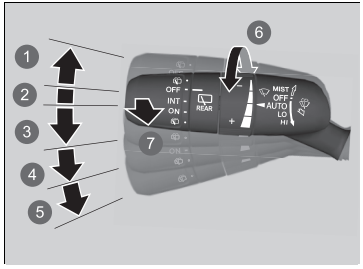
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



❶ **MIST**:(レバーを操作している間作動)
❷ **OFF**: 停止
❸ **AUTO**: 自動作動
❹ **LO**: 低速(普通の雨量のとき)
❺ **HI**: 高速(雨量が多いとき)
❻ センサー感度の調節
❼ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、AUTO、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

フロントワイパーアームを起こす際は、ワイパーメンテナンスポジションへ動かしてから、ワイパーアームを起こしてください。
➡ **フロントワイパーアームの起こしかた** P.359

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパー/ ウォッシャー

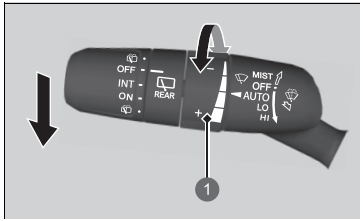
ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

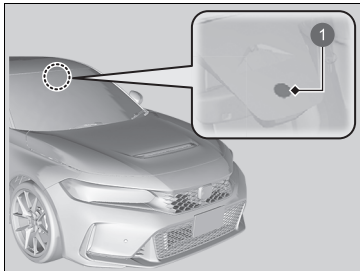
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

次ページに続く

■オートワイパー



❶ リング
ー: 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。
＋: 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。



❶ 雨滴検知センサー

レバーを AUTO の位置にするとワイパーが1回作動し、その後は自動作動に切り換わります。

フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

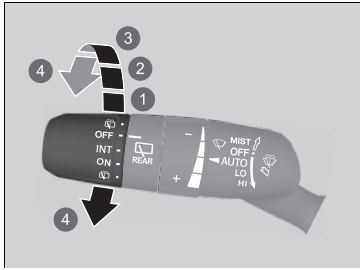
ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。
レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。

≫オートワイパー

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー



❶ **OFF**：停止
❷ **INT**：間欠作動
❸ **ON**：低速作動
❹ ：ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

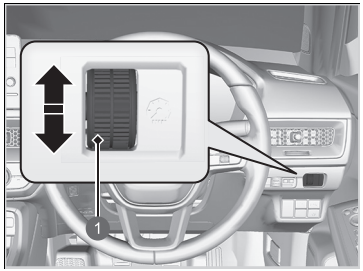
スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを R にするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーの作動モード	リヤワイパーの作動モード
間欠作動	間欠作動
低速作動 高速作動	連続作動

イルミネーションコントロール



❶ イルミネーションコントロールダイヤル

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

■手動で明るさを調節する

メーター内の明るさを手動で調節することができます。

明るくする：ダイヤルを上に回す

暗くする：ダイヤルを下に回す

▶ 周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。



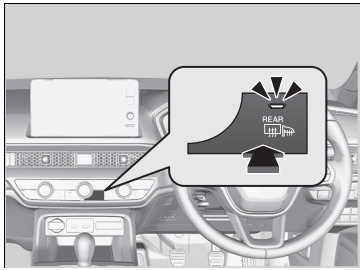
■明るさ調節表示

イルミネーションコントロールダイヤルを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

イルミネーションコントロール

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

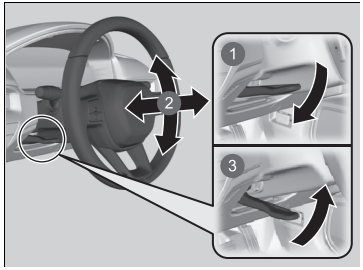
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 調節
❸ 固定

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

≫ハンドルの調節

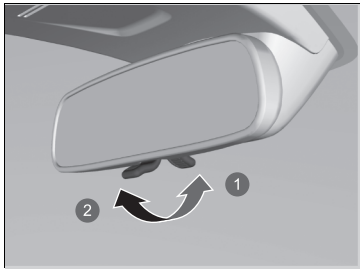
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー*



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

❶ 昼
❷ 夜

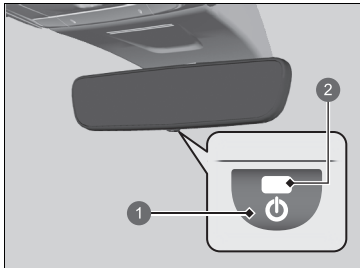
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

» ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

■自動式防眩ミラー*



❶ オートミラースイッチ
❷ 表示灯

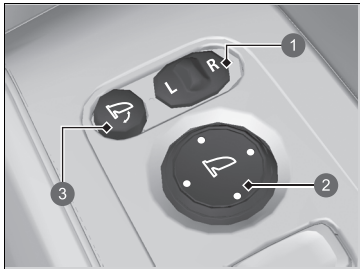
夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ON にすると表示灯が点灯します。

≫自動式防眩ミラー*

シフトポジションを R にしているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ドアミラー



❶ 左右切り換えスイッチ
❷ 角度調節スイッチ
❸ 格納スイッチ

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

次ページに続く

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

■格納するとき

- Hondaスマートキーの施錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯し、ドアのドアロックセンサーに触れてください。

■元の位置に戻すとき

- Hondaスマートキーの解錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯しドアを解錠してください。

≫オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オーディオ / インフォメーション画面を使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

フロントシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

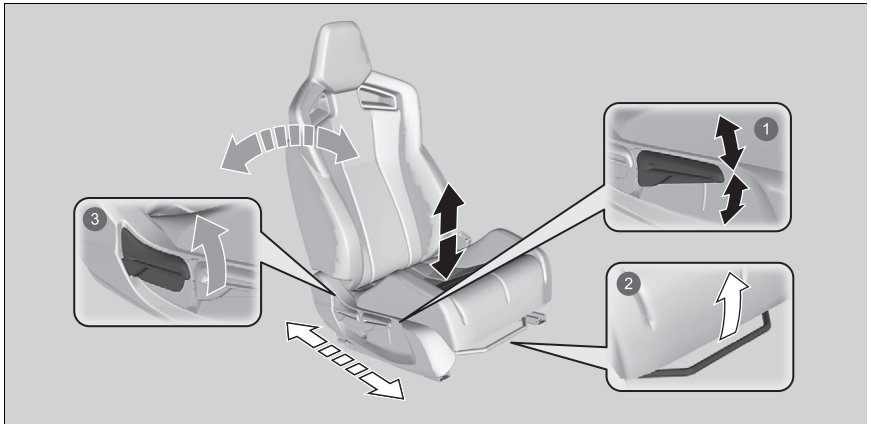
フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

次ページに続く

■シートの動かしかた



❶ 高さの調節（運転席）
レバーを繰り返し引き上げ / 引き下げし、高さを調節

❷ 前後位置の調節
レバーを引き上げながら、前後位置を調節

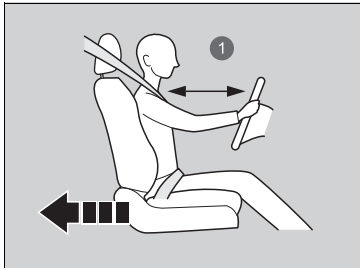
❸ 背もたれの角度調節
レバーを引き上げながら調節

▶シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

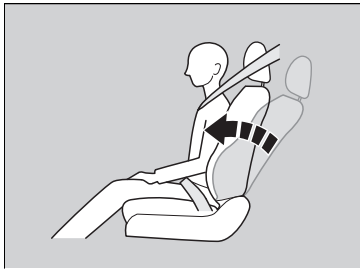
■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

❶ 十分な距離をとる



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

» フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

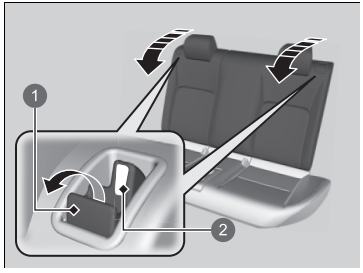
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■背もたれの倒しかた



❶ レバー
❷ タブ

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

≫背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

背もたれを固定するときは、レバーのタブが下がりロックされるまで後ろに倒してください。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードをONモードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードをOFFモードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

リアシートリマインダー

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

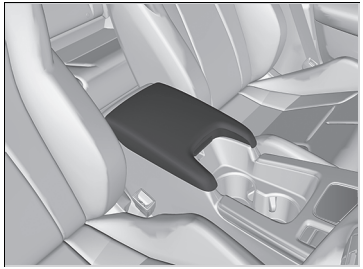
後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

アームレスト

■フロントシートアームレスト



アームレスト

⚠警告

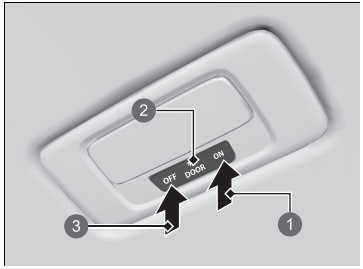
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



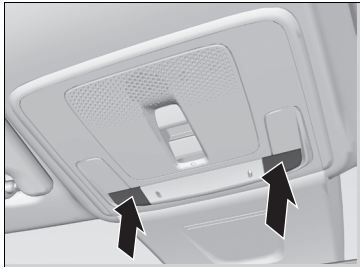
❶ ON
❷ ドア連動
❸ OFF

■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

■マップランプスイッチ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

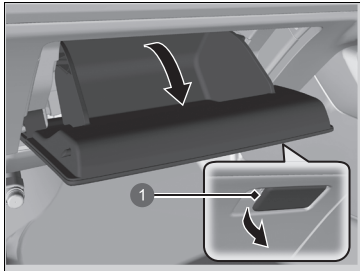
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

バッテリーがあがるおそれがあるため、エンジンを停止しているときは、室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

収納装備

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

❶ ノブ

グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。

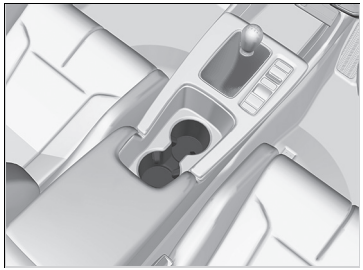
❶ ノブ

センターコンソールボックス

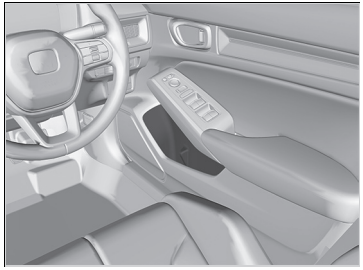
アームレストとして使用することもできます。

次ページに続く

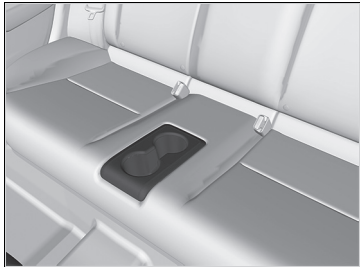
■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。



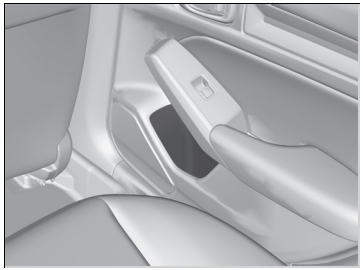
■リヤシート用ドリンクホルダー

ドリンクホルダー

⚠注意

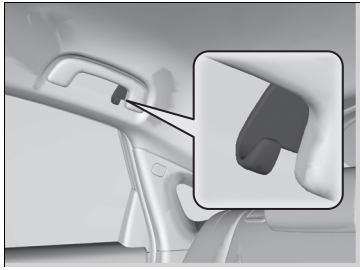
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

■コートフック



リヤシートの運転席側のグラブレールに付いています。

»コートフック

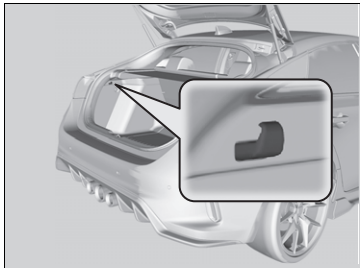
⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

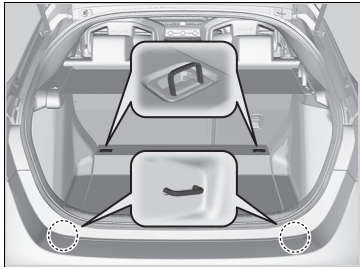
次ページに続く

■コンビニフック



軽い荷物をかけておくのに便利です。

■カーゴフック



カーゴフックは市販のカーゴネットを使用して、収納したものを固定しておくときに便利です。

≫コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

≫カーゴフック

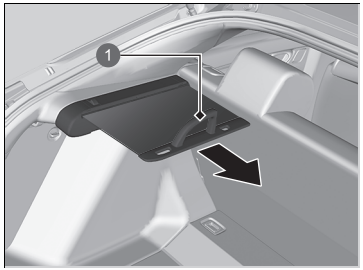
⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

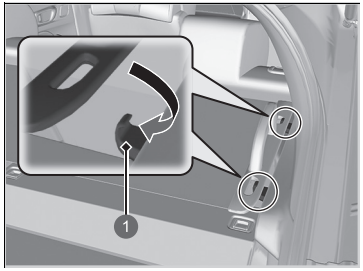
アドバイス

重い荷物はできるだけ前に積んでください。
荷物を積むとき、荷重が1か所に集中しないように配置してください。

■カーゴエリアカバー



❶ ハンドル



❶ フック

カーゴエリアカバーを使用すると、カーゴスペースを覆うことができます。

■カーゴエリアカバーを引き出す

カバーのハンドルを持ち、両端をフックにかけます。

収納するときはフックから外し、静かに元に戻します。

▶カーゴエリアカバー

⚠注意

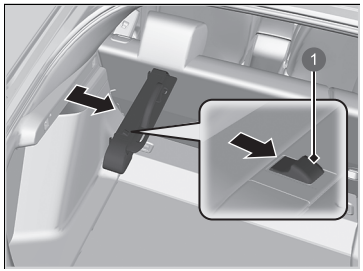
走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

カーゴスペースに荷物を置くときは、リヤシートの背もたれの高さを越えないようにしてください。
後方視界を妨げるばかりでなく、急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

カーゴエリアカバーの損傷を防ぐため、以下のことをお守りください。

- カーゴエリアカバーの上にものを置かない
- カーゴエリアカバー本体に強い力をかけない

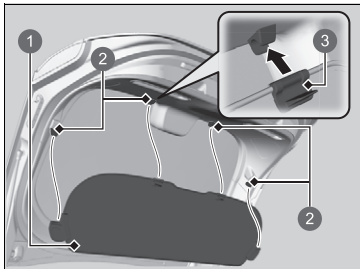
次ページに続く



❶ レバー

■カーゴエリアカバーケースを取り外す

カーゴエリアカバーケースのレバーをスライドさせ、手前に引きながら取り外します。



❶ 拡張カーゴエリアカバー
❷ ガイド
❸ タブ

■拡張カーゴエリアカバー

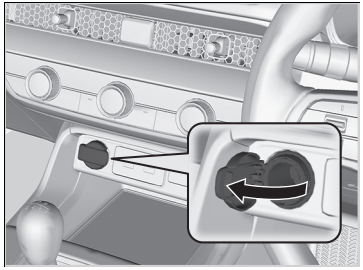
拡張カーゴエリアカバーをテールゲートの裏側のガイドに取り付けます。

▶ タブが手前側になるように取り付けてください。

取り外すときは拡張カーゴエリアカバーをガイドから外します。

その他の室内装備品

■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモード、または ON モードのときに使用できます。

■フロントコンソール

カバーを開けて使います。

»その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

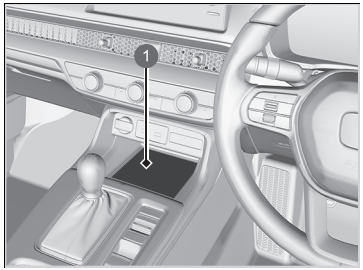
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

次ページに続く

■ワイヤレス充電器*



❶ ワイヤレス充電器

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。
ワイヤレス充電規格 Qi に適合した機器をワイヤレス充電器の充電エリアの上に置くことで充電できます。

≫ワイヤレス充電器*

⚠警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至る恐れがあります。

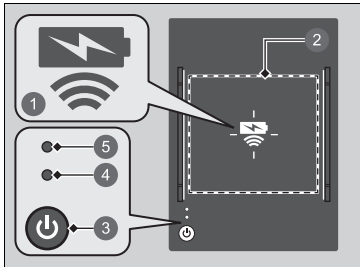
- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

この装置は消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で使用してください。
バッテリーの容量が低下し、エンジンの始動に影響することがあります。

ワイヤレス充電を行う際は、対応機器に付属の取扱説明書もお読みください。

ワイヤレス充電器は最大15W充電に対応していますが、機器や条件によって充電の電力は変化します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ マーク
❷ 充電エリア
❸ 電源スイッチ
❹ インジケータ (グリーン)
❺ インジケータ (オレンジ)

電源スイッチを長押しすることで、電源のON/OFF が切り替わります。

▶電源が ON のときはインジケーター(グリーン)が点灯します。

ワイヤレス充電器が ON のとき、対応機器を充電エリアに置くと、充電を開始します。このとき、インジケーター(オレンジ)が点灯します。

▶対応機器の充電面を下にして、充電エリアの中央に置いてください。

充電が完了すると、インジケーター(グリーン)が点灯します。

▶対応機器によっては、充電完了後もインジケーター(オレンジ)が点灯し続ける場合があります。

ワイヤレス充電器*

⚠注意

ペースメーカ(植え込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)およびICD装着のお客様は、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に植込み部位を近づけない。

充電によりペースメーカおよびICDの動作に影響を与える恐れがあります。ご使用になる前に医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

充電中に充電エリア内に磁気記録メディアや精密機器などを置かない。

磁気の影響により、クレジットカードや ETC カードなどのデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器は故障するおそれがあります。

“Qi” 及び、マークはワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC) の登録商標です。

ワイヤレス充電器上の対応機器が充電状態のときに、Honda CONNECT ディスプレイの画面上にマークが表示されます。

次ページに続く

✤ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■充電できないときは

次の表に基づき、対処してください。

インジケーター		エラー原因	対処方法
グリーン & オレンジ	同時点滅	対応機器と充電エリアの間に異物がある	対応機器と充電エリアの間にある異物を取り除く。
		充電エリアから対応機器がずれている	充電エリア中央の㛎マーク付近に置き直す。
		ワイヤレス充電器内部の温度上昇	一旦充電を停止し、しばらくたってから充電を開始してください。
オレンジ	点滅	ワイヤレス充電器の故障	Honda 販売店へご相談ください。

≫ワイヤレス充電器*

次のような場合は充電できないことがあります。

- 対応機器が満充電
- 対応機器が高温になっているとき
- テレビ塔や発電所、ガソリンスタンドなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ワイヤレス充電に対応していないカバーやアクセサリーが対応機器に取り付けられている

充電エリアに対応機器の充電面を接地できない形状、サイズの機器には本機能を使用できません。また、機器によっては、正常に作動しない場合があります。

充電するときは、同時に複数の機器を充電しないでください。

充電中や充電直後は、充電エリアと対応機器が温かくなりますが、異常ではありません。

次のような場合、充電を一時的に停止することがあります。その後、自動的に充電は再開します。

- Honda スマートキーシステムへの影響を避けるため、すべてのドアを閉めたとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

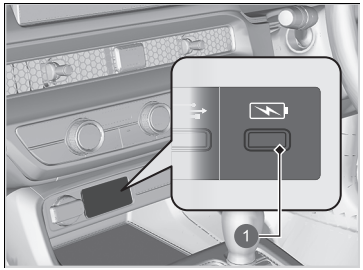
ワイヤレス充電器*

対応機器が高温になり、対応機器のバッテリー保護機能が作動した場合、充電速度が著しく低下し、または、充電停止する場合があります。
バッテリー保護機能が作動する温度は対応機器によって異なります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■充電専用 USB ジャック



❶ USB ジャック

■フロントコンソール

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック(2.5A)に接続します。

▶充電専用 USB ジャック

接続した機器を車内に放置しないでください。

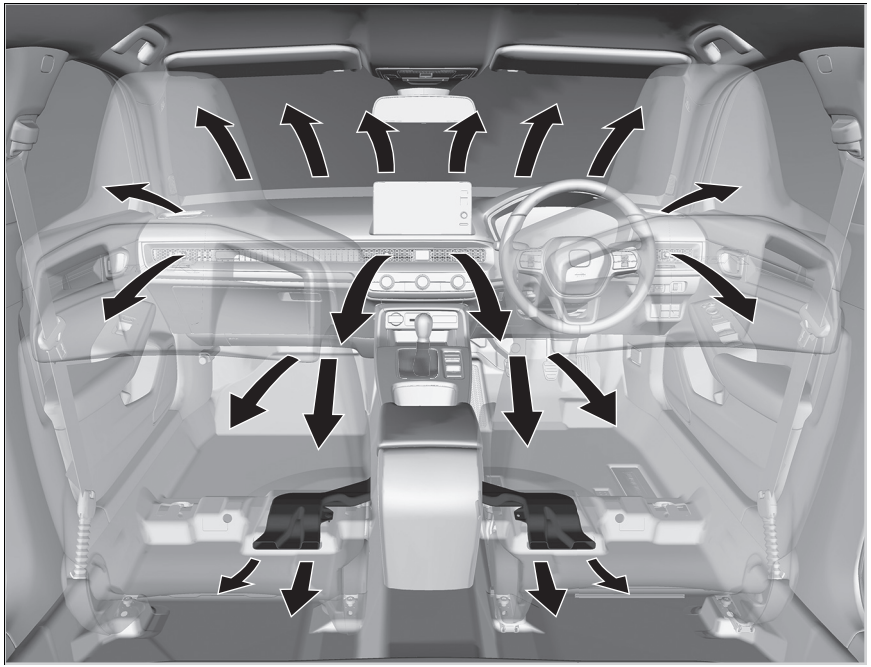
接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。

USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

エアコンの吹き出し口



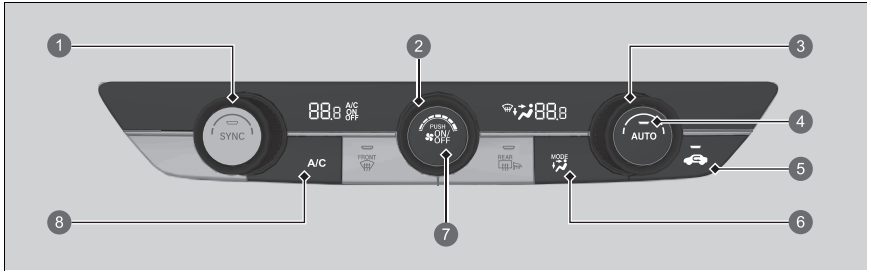
オートエアコンの使いかた

エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。



❶ 助手席側温度調節ダイヤル
❷ ファンスピード切り換えダイヤル
❸ 運転席側温度調節ダイヤル
❹ AUTO スイッチ
❺ 内外気切り換えスイッチ
❻ MODE スイッチ
- 上半身送風
- 足元送風、上半身送風
- 足元送風
- 足元送風、窓ガラスの曇り取り

❼ ON/OFF スイッチ
❽ A/C スイッチ

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

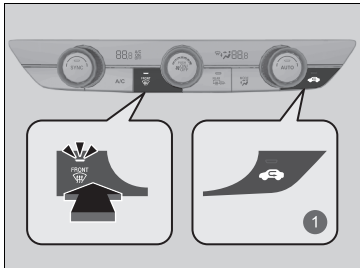
- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。
AUTO ではないとき、暖房中に A/C を押して A/C ONにすると除湿暖房となります。

次ページに続く

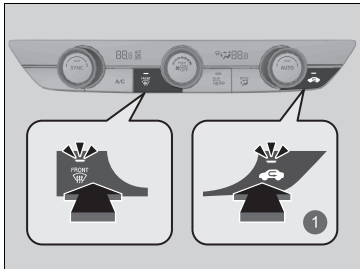
■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



❶ 外気導入(表示灯消灯)

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



❶ 内気循環(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。
2. を押す。

▶前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

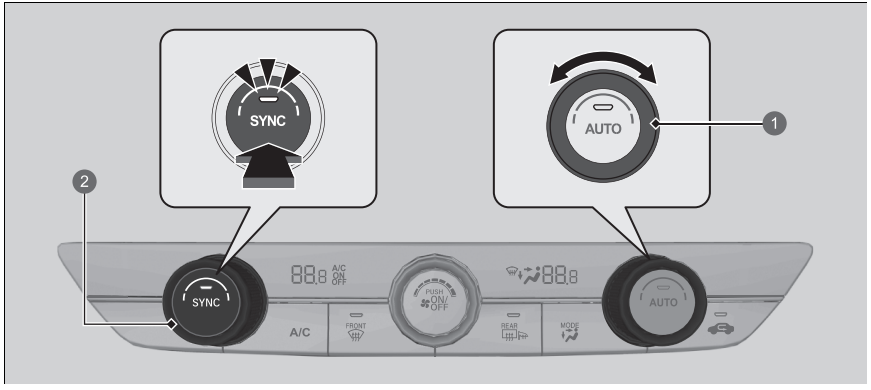
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■連動作動(シンクロ)モード

エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節ダイヤルで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC を押すか、助手席側の温度調節ダイヤルを操作します。



❶ 温度調節ダイヤル(運転席側)
❷ 温度調節ダイヤル(助手席側)

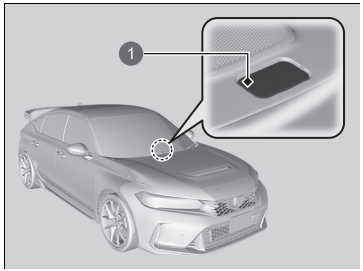
連動作動(シンクロ)モード

FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

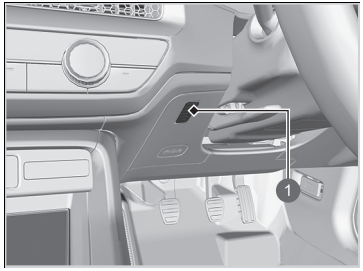
連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

❶ センサー



❶ センサー



オーディオ

オーディオに関する情報は、
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に 192
運転操作
エンジンの始動 195
走行時の注意点 198
シフト操作..... 201
ドライブモードスイッチ 205
VSA(ビークルスタビリティアシスト)... 212
アジャイルハンドリングアシスト 216
リミテッドスリップデフ(LSD)..... 217
ブラインドスポットインフォメーション*..... 218

Honda SENSING
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 227
踏み間違い衝突軽減システム.....238
路外逸脱抑制機能.....243
歩行者事故低減ステアリング.....252
アダプティブクルーズコントロール(ACC) 260
車線維持支援システム(LKAS).....282
先行車発進お知らせ機能.....295
標識認識機能.....299
フロントワイドビューカメラ.....306
ソナーセンサー 308
ブレーキ操作.....309

駐停車操作 319
パーキングセンサーシステム 320
後退出庫サポート* 325
リアワイドカメラシステム 329
給油 330
ターボ車について..... 335

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➲ **タイヤの点検と整備** P.362
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。
- フロントバンパーダクトに泥、枯葉などが詰まっていないか？
  ▶冷却性能低下につながる可能性があります。

»車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  車内での施錠 / 解錠 P.131
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  シートの調節 P.163

車内での確認項目

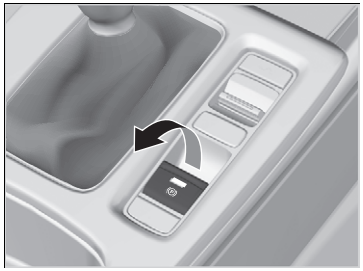
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

次ページに続く

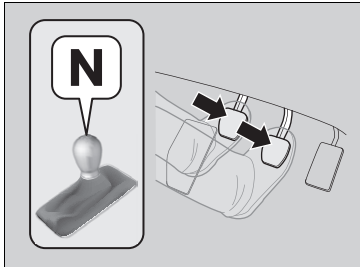
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.159
  ➔ **ハンドルの調節** P.158
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.31
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.74

エンジンの始動



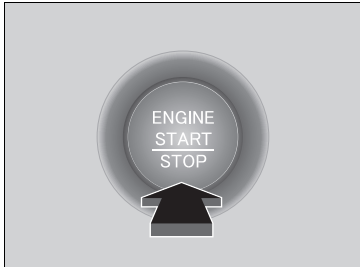
1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約30秒間点灯します。



2. チェンジレバーが N (ニュートラル)であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。

▶思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。



3. アクセルペダルを踏まずに、ENGINE START/STOP を押す。

エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

次ページに続く

エンジンの始動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。
Honda スマートキーの電池が切れたとき P.399

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、エンジンが始動しないことがあります。

エンジンがかからない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。
イモビライザーシステム P.137

■発進時の操作

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. チェンジレバーを N (ニュートラル)にする。

2. ENGINE START/STOP を押す。

≫ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラー、アンダーカバー、フロントバンパー、リヤディフューザー、サイドシルを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 減速帯を乗り越えるとき

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

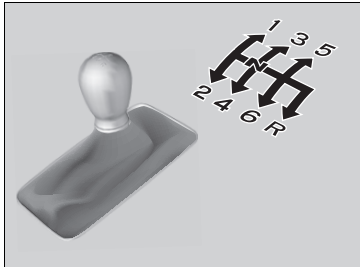
≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

シフト操作

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



≫チェンジレバーの操作

シフトダウンする際は、タコメーターのレッドゾーンに入らないように適切な車速で操作してください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。
そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

アドバイス

車が完全に止まらないうちは R に入れないでください
トランスミッション破損の原因となります。

チェンジレバーには金属パーツを使用しています。気温の高い日に長時間屋外で駐車するときは、チェンジレバーが高温になっているおそれがあるので操作の前に注意してください。気温が低い日はチェンジレバーは冷たくなります。

次ページに続く

■レブマッチシステム

レブマッチシステムとは、変速操作に合わせてエンジンの回転数をコントロールし、変速ショックを低減するシステムです。

➔ **ドライブモードスイッチ** P.205

■制限事項

次の条件では、レブマッチシステムが動作しないことがあります。

- ダウンシフト時システムがオーバーレブ回転に至ると判断したとき
- 低回転で 1 速ずつダウンシフトするとき
- 高いギヤ段から 1 へのダウンシフト
- システムがシフトアップ後にアイドリング回転に至ると判断したとき
- クラッチペダルがしっかり奥まで踏み込まれていないとき

数秒間クラッチペダルを踏み続けたときはレブマッチシステムが停止することがあります。

≫レブマッチシステム

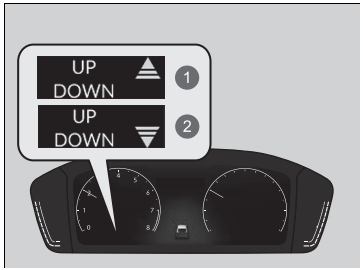
レブマッチシステムの ON と OFF を選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

変速中にアクセル操作があった場合は、アクセル操作を優先します。

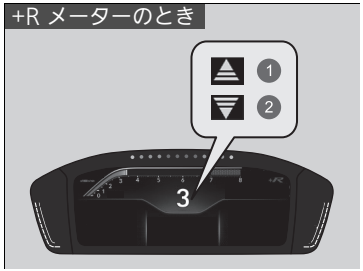
運転中に以下の表示が出た場合、システムの異常が考えられます。レブマッチシステムは機能しませんが、通常の変速操作は可能です。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。



■シフトアップ / ダウン表示灯



❶ シフトアップ表示灯
❷ シフトダウン表示灯



❶ シフトアップ表示灯
❷ シフトダウン表示灯

ACC が作動しているとき、オーバーレブやエンストを防止するためインジケーター点灯によりシフト操作を促す機能です。
シフトアップ表示灯：シフトアップ推奨時に点灯
シフトダウン表示灯：シフトダウン推奨時に点灯

シフトアップ / ダウン表示灯

シフトダウン表示灯は、下り坂などでエンジンブレーキのためのシフトダウンを促すものではありません。

シフトダウンをする際は、適切な車速で操作してください。

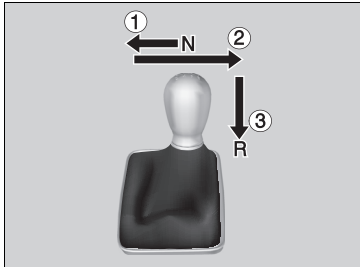
2から1へのシフトダウン表示灯の点灯はありません。

シフトアップダウン表示灯が表示されなくても、道路や交通状況に応じて変速が必要な場合があります。

次ページに続く

R に入らないとき

一度 N (ニュートラル)へ戻し、 1 、 2 側へ倒してから R に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。



1. パーキングブレーキをかけてパワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする。
2. クラッチペダルを踏み込んで、チェンジレバーを R にする。
3. クラッチペダルを踏み込んだまま、エンジンを始動する。

R に入らないとき

この操作を毎回しないと R に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ドライブモードスイッチ

選択したモードに応じた走行性能へ車両を制御します。
選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

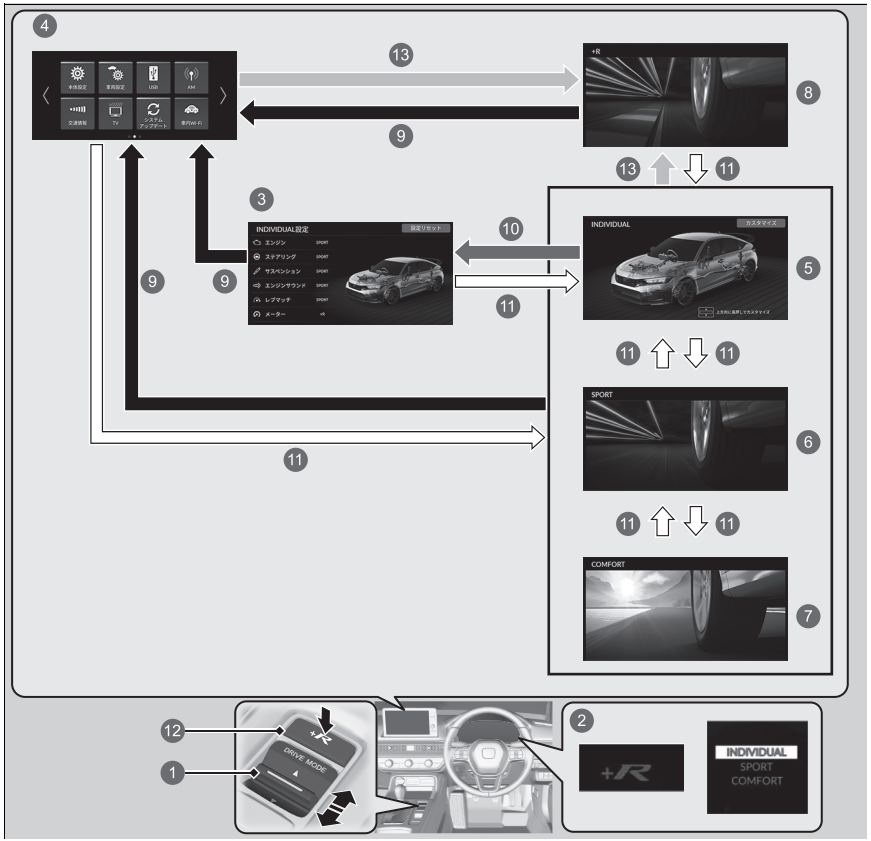
ドライブモードスイッチ

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。
また、車両に異常があるときなども下記のメッセージが表示され、モードの変更ができません。



次ページに続く

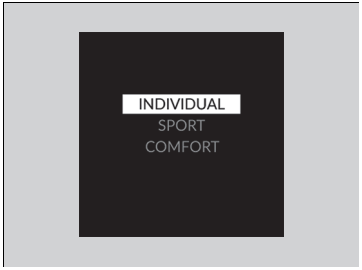
■ドライブモードの選択


4
13
9
+R
8
13
11
3
INDIVIDUAL設定
10
INDIVIDUAL
カスタマイズ
5
9
9
11
11
11
SPORT
6
11
11
COMFORT
7
11
12
1
DRIVE MODE
2
+R
INDIVIDUAL
SPORT
COMFORT

❶ ドライブモードスイッチ
❷ ドライブモードスイッチまたは +R スイッチでモードを変更するとメーター上の画面が変わります。
❸ INDIVIDUAL 設定画面
❹ オーディオ / インフォメーション画面
❺ INDIVIDUAL モード
❻ SPORT モード
❼ COMFORT モード
❽ +R モード
❾ BACK または HOME ボタンを押す
ドライブモードスイッチを上か下に押してから数秒後にオーディオ / インフォメーション画面に戻ります。
❿ ドライブモードスイッチを上に押して保持するか「カスタマイズ」を選択する
➡ **INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ** P.211
⓫ ドライブモードスイッチを上か下に押す
⓬ +R スイッチ
⓭ +R スイッチを押す

次ページに続く

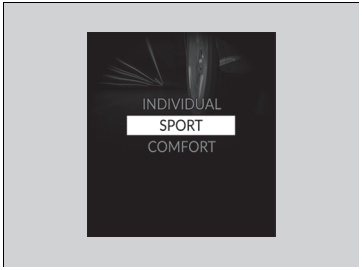
■ INDIVIDUAL モード



各カテゴリーをご希望の設定に個別でカスタマイズできます。

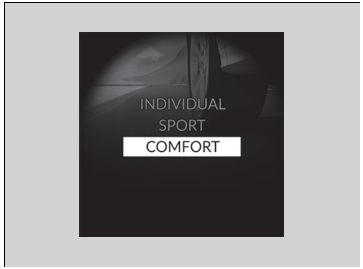
INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ P.211

■ SPORT モード



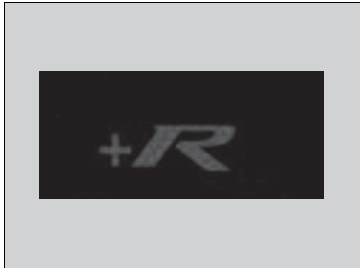
運転操作に対しての応答性を高めたモードです。

■ COMFORT モード



快適性を高めたモードです。

■ +R モード



運転操作に対しての応答性を最大化したモードです。
VSA の一部の機能を完全に停止することができます。

➔ **ドライブモードが +R モードのとき** P.215

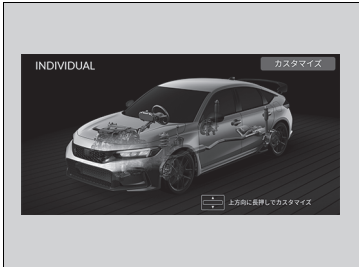
次ページに続く

■再度パワーモードを ON にしたときのモード

再度パワーモードを ON にしたときのモードは、以下のとおりです。

パワーモードを ON にする前のモード	パワーモードを ON にしたときのモード
INDIVIDUAL モード	INDIVIDUAL モード
SPORT モード	SPORT モード
COMFORT モード	COMFORT モード
+R モード	+R モードを選択した状態でパワーモードを OFF モードにし、再度パワーモードを ON にしたときは +R モードを選択する前のモードになります。

■ INDIVIDUAL 設定のカスタマイズ



1. INDIVIDUAL モードにする。

2. ドライブモードスイッチを上に押して保持する、または「カスタマイズ」を選択して INDIVIDUAL 設定を開く。

▶ オーディオ / インフォメーション画面の「車両設定」から選択することもできます。

ドライブモードの選択 P.206

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



3. カテゴリーを選択します。

4. ご希望の設定を選択します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.317

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.318

▶VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

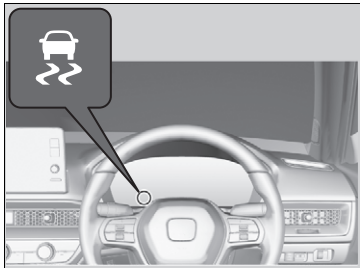
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

+R メーターのとき



VSA（ビークルスタビリティアシスト）

新雪やぬかるみから脱出したいときに、OFF で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

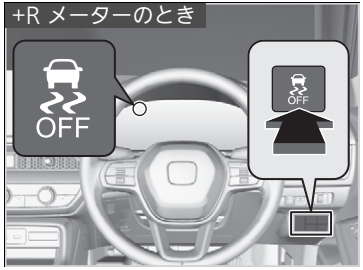
次ページに続く

■ VSA の ON と OFF



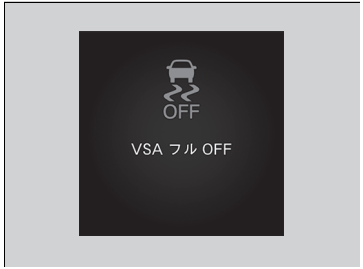
VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。



前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

■ドライブモードが +R モードのとき



VSA OFF スイッチを押し続けるとブザーが鳴り、その後もう一度ブザーが鳴ると VSA の機能が完全に停止します。

▶ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

VSA の機能を復帰させるには、VSA OFF スイッチを押します。ブザーが鳴り VSA が +R モードになります。

VSA が OFF モードのときにドライブモードを +R モード以外にすると、VSA の機能が完全に復帰し、VSA OFF 警告灯が消灯します。

ドライブモードが +R モードのとき

VSA のモードを OFF モードにしても通常のブレーキ性能やカーブでの安定性は確保されていますが、VSA によるトラクション性能や安定化の制御が停止されます。

VSA を停止させると、TCS 機能も停止します。

VSA と TCS が停止している状態での走行は、お勧めしません。

VSA の機能を完全に停止させた場合、ACC または LKAS は使用できません。

VSA の機能を完全に停止させた場合、CMBS と踏み間違い衝突軽減システム、歩行者事故低減ステアリング、路外逸脱抑制機能は作動しません。

運転中は一部の VSA の機能の完全停止はできません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

リミテッドスリップデフ(LSD)

■ LSD のしくみ

LSD は駆動力を左右輪に最適配分し、有効に伝達するための装置です。
LSD の特性として、旋回時に振動を感じることがあります。

リミテッドスリップデフ(LSD)

アドバイス

タイヤは左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると LSD に悪影響をあたえます。

ブラインドスポットインフォメーション*

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション*

⚠警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

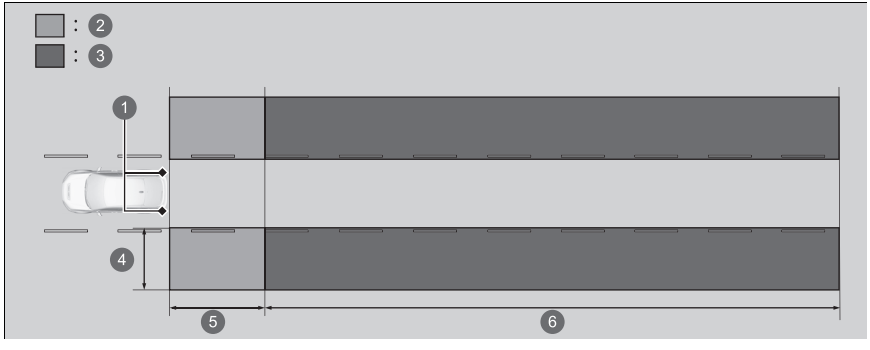
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったとき
- 検知範囲内を他の車両が走行しているときに警告灯が点灯しないことが続くとき
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うとき

リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うと、再度システムが調整を行うまでは検知範囲は工場出荷直後の状態(検知範囲 1)になります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動条件

自車の車速が約 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。



❶ レーダーセンサー：リヤバンパーコーナーの内側にあります
❷ 検知範囲 1
❸ 検知範囲 2
検知距離
❹ 側面から約 0.5 ～ 3m
❺ リヤバンパーから約 3m 後方
❻ リヤバンパーから後方約 3 ～ 25m(接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。)

工場出荷直後の検知範囲は検知範囲 1 です。路側に設置物があり、交通量のある直線道路を一定時間走行することで、システムが調整を行い、検知範囲が広くなります(検知範囲 1 と 2)。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

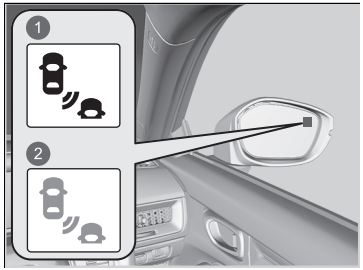
ブラインドスポットインフォメーション*

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

他の車両が検知範囲内を走行している場合でも、以下のように作動することがあります。
- ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■システムが車両を検知したとき



❶ 点灯
❷ 点滅

ブラインドスポットインフォメーション警告灯：両側のドアミラー内にあります。

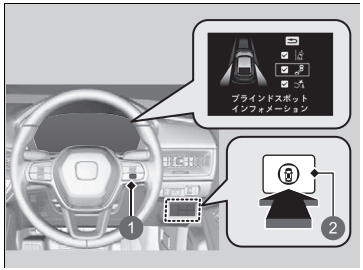
ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から接近してきたとき
- 約 20km/h 以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：
ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向に方向指示器(ウィンカー)を操作したとき

▶ 警報音は 3 回鳴ります。

■システムの ON と OFF



❶ ライトセレクターホイール
❷ 安全支援情報スイッチ

以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報スイッチを押す。

2. ライトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。

▶切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▶システムがONになると、チェックマークが表示され、の色が緑色に変わります。 システムが OFF になると、チェックマークが消え、の色が灰色に変わります。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイから「安全支援情報」を選択することもできます。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイ右側** P.99

警報音の設定をカスタマイズすることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

■ブラインドスポットインフォメーションの条件と制限

以下のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などによりシステムが干渉を受けたとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ(CMBS) ➔P.227
- 踏み間違い衝突軽減システム ➔P.238
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.243
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.252
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.295
- 標識認識機能 ➔P.299
- オートハイビーム ➔P.149
- ブラインドスポットインフォメーション* ➔P.218
- 後退出庫サポート* ➔P.325
- パーキングセンサーシステム ➔P.320
- ドライバー注意力モニター ➔P.107

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- アダプティブクルーズコントロール(ACC) ➔P.260
- 車線維持支援システム(LKAS) ➔P.282

Honda SENSING

⚠警告

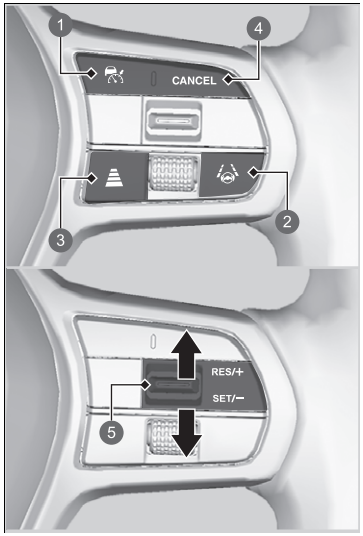
Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



❶ スイッチ
アダプティブクルーズコントロール(ACC)の待機状態の設定を行います。

❷車線維持支援システム(LKAS)スイッチ
車線維持支援システム(LKAS)の待機状態の設定を行います。

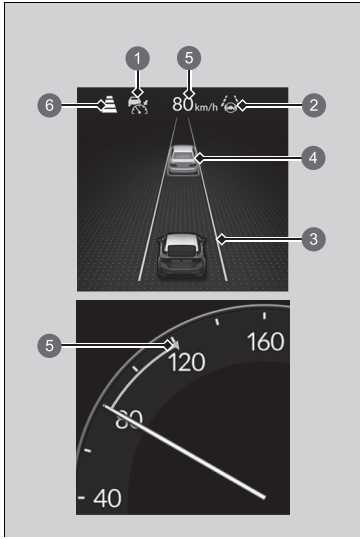
❸ディスタンススイッチ
ACC の車間距離設定を行います。

❹CANCEL スイッチ
ACC の解除を行います。

❺RES/+/SET/- スイッチ
ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

■メーターの表示

ACC および LKAS の現在の状態を表示します。



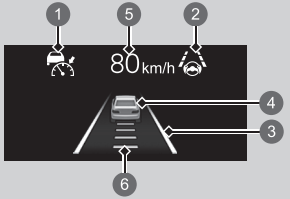
❶ACC の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❷LKAS の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❸LKAS の検知状態
- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態
- オレンジの線：
  点灯した側の車線逸脱を検知

次ページに続く

+R メーターのとき



❹ACC の前走車検知状態

+R メーターを使用していないとき

- 制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン
- 制御対象外車両アイコン：グレー

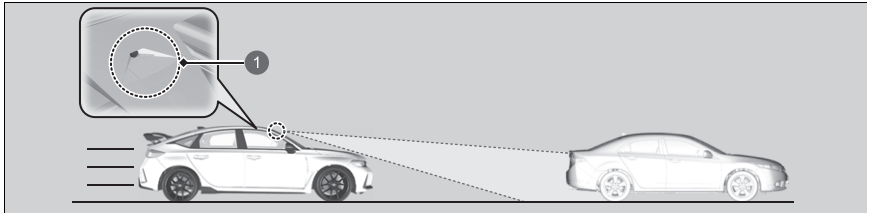
❺ACC の設定車速

❻ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ
▶ フロントガラスの上部にカメラを装備。

自車の車速が約 5km/h 以上になるとカメラが前方の車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

次ページに続く

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。
➔ **エンジンの始動** P.195

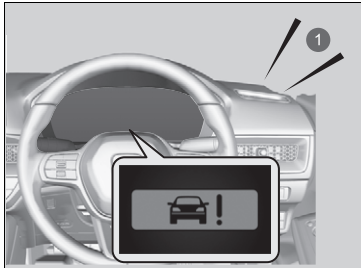
このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.306

VSA の機能を完全に停止させた場合、CMBS は作動しません。

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



❶ 警告音

以下の方法により、CMBS が衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告音による警告が発生します。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

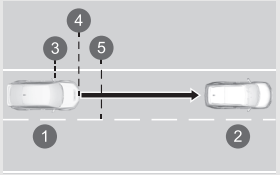
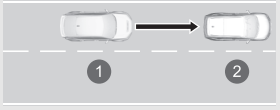
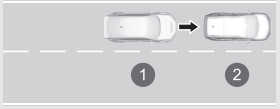
遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

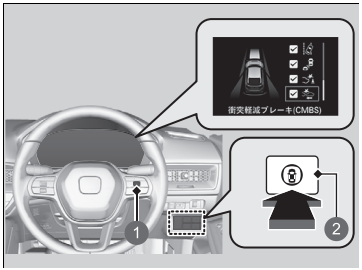
車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

❶ 自車
❷ 車両
❸ 遠め
❹ 標準
❺ 近め

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



❶ ライトセレクターホイール
❷ 安全支援情報スイッチ

以下の操作で CMBS の ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報スイッチを押す。

2. ライトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。

▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▶ システムがONになると、チェックマークが表示され、の色が緑色に変わります。 システムが OFF になると、チェックマークが消え、の色が灰色に変わります。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

エンジンを始動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

マルチインフォメーションディスプレイから「安全支援情報」を選択することもできます。

マルチインフォメーションディスプレイ 右側 P.99

■ CMBS の条件と制限

次のような場合、カメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

≫自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車、または横向きの車両が停止しているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両(タンクローリーなど)が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

次ページに続く

■その他検知、作動できない事例

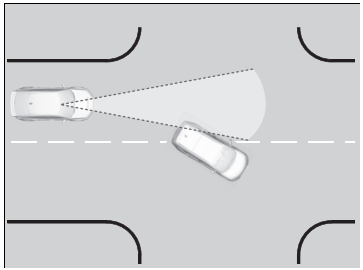
- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※をしながら、前方の車両（二輪車含む）、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき

※：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

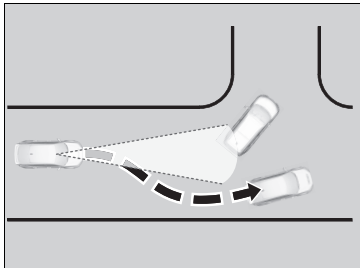
■衝突の可能性が高くない場合の作動について

衝突の可能性が高くなくても、以下のとき CMBS が作動することがあります。また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき

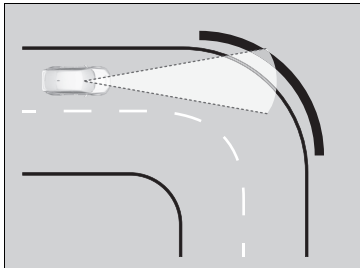


- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合

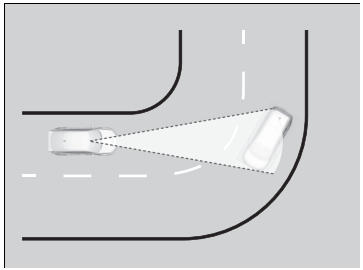


次ページに続く

- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(バイクを含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき

- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム

フロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

≫踏み間違い衝突軽減システム

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況で見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

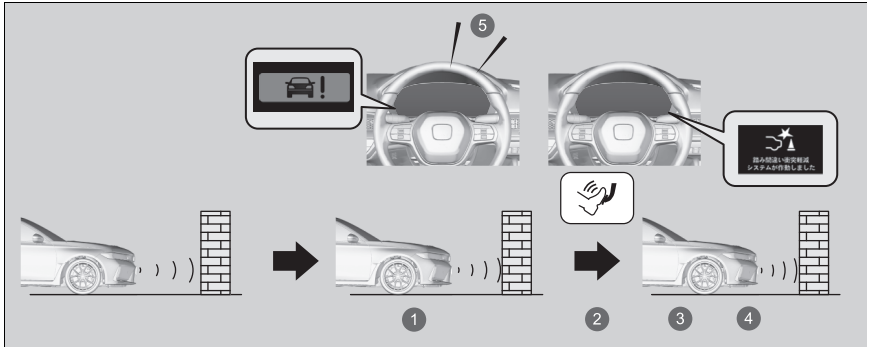
踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。
縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

VSA の機能を完全に停止させた場合、踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ制御を解除します。
ブレーキペダルを踏んだままにしてください。

■システムの作動

約 2km/h ～約 10km/h で走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。
➔ **リヤセンサーの OFF** P.324

▨踏み間違い衝突軽減システム

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。
エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。
➔ **エンジンの始動** P.195

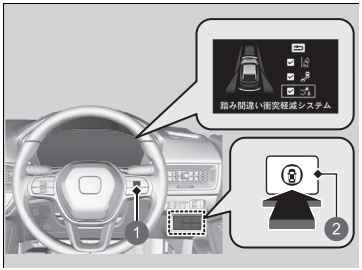
ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **ソナーセンサー** P.308

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動するおそれがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。
➔ **リヤセンサーの OFF** P.324

次ページに続く

■システムの ON と OFF



❶ ライトセレクターホイール
❷ 安全支援情報スイッチ

以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報スイッチを押す。

2. ライトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。

▶ 切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▶ システムがONになると、チェックマークが表示され、の色が緑色に変わります。 システムが OFF になると、チェックマークが消え、の色が灰色に変わります。

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイから「安全支援情報」を選択することもできます。

マルチインフォメーションディスプレイ 右側 P.99

バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。

ON にならないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■作動解除の条件

踏み間違い衝突軽減システムが作動してから、一定時間経過したとき

■踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

作動解除の条件

踏み間違い衝突軽減システムが一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。
作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

踏み間違い衝突軽減システムは、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。
(例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)

次ページに続く

■その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

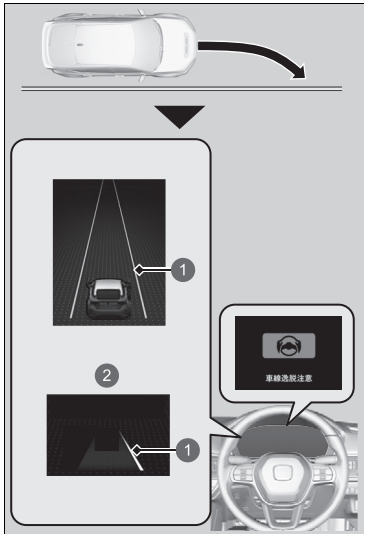
■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



❶ 車線表示(オレンジ)
❷ +R メーターのとき

このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

次ページに続く

▶▶路外逸脱抑制機能

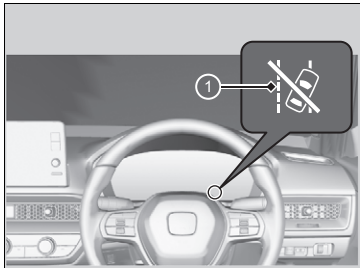
⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

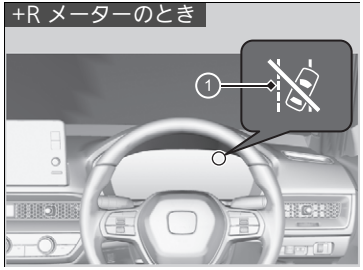
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

+R メーターのとき



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

≫路外逸脱抑制機能

エンジンを始動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントワイドビューカメラ** P.306

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.248

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

路外逸脱抑制機能

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。
車線維持支援システム(LKAS)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



VSA の機能を完全に停止させた場合、路外逸脱抑制機能は作動しません。

次ページに続く

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき
- 白線(黄線)の場合
  車速が約 60km/h ～ 120km/h のとき
  ▶ 対向車両が走行している場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき

システムの作動条件

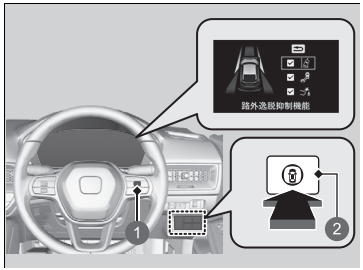
路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)、路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

警告灯 P.74

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



❶ ライトセレクターホイール
❷ 安全支援情報スイッチ

以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報スイッチを押す。

2. ライトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。

▶切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▶システムがONになると、チェックマークが表示され、の色が緑色に変わります。 システムが OFF になると、チェックマークが消え、の色が灰色に変わります。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用してシステムの設定を変更することができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチインフォメーションディスプレイから「安全支援情報」を選択することもできます。

マルチインフォメーションディスプレイ 右側 P.99

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例
- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

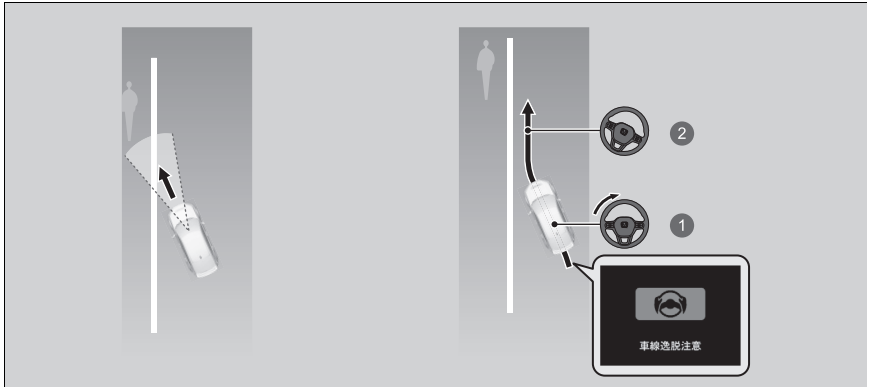
■その他、作動できない事例
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。
路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

≫歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

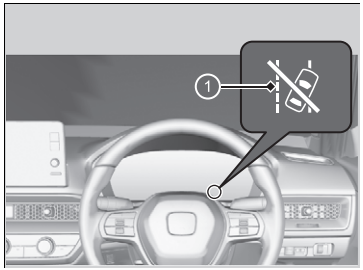
取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

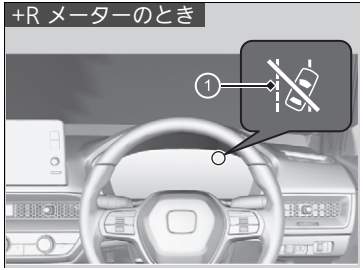
エンジンを始動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.306



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

+R メーターのとき



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.256

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

VSA の機能を完全に停止させた場合、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

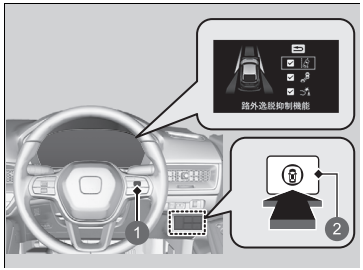
次ページに続く

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムの ON と OFF



❶ ライトセレクターホイール
❷ 安全支援情報スイッチ

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
以下の操作でシステムの ON と OFF を切り換えてください。

1. 安全支援情報スイッチを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し、を選択してホイールを押す。
▶切り換わると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
▶システムがONになると、チェックマークが表示され、の色が緑色に変わります。 システムが OFF になると、チェックマークが消え、の色が灰色に変わります。

エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用し、路外逸脱抑制機能の設定を変更することができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチインフォメーションディスプレイから「安全支援情報」を選択することもできます。
➡ **マルチインフォメーションディスプレイ右側** P.99

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

アダプティブクルーズコントロール(ACC)

ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。
ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：
ACCシステムは、チェンジレバーが2速以上のときに使用することができます。

アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

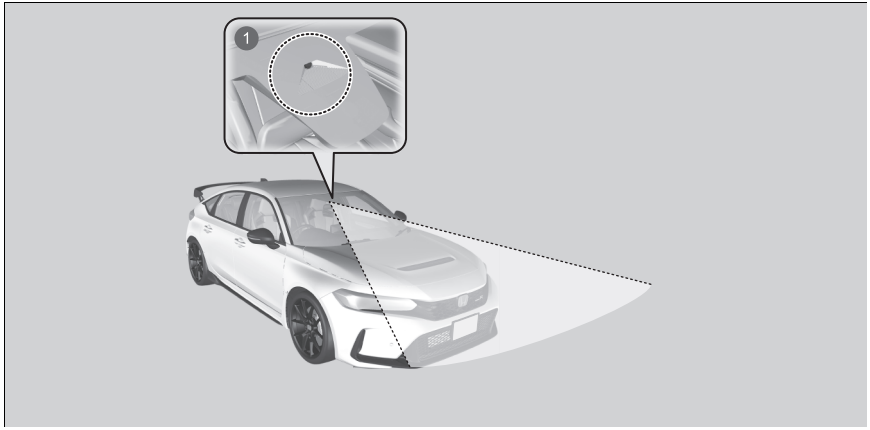
ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

ACC は、補助システムとして使用してください。ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

使用上の注意：
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。



❶ フロントガラス上部にフロントワイドビューカメラを装備

ブレーキペダルを踏んでいるときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

アダプティブクルーズコントロール(ACC)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

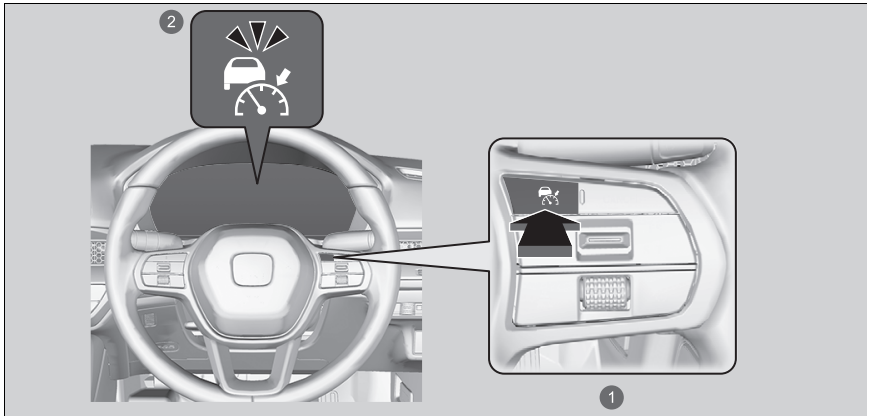
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.306

エンジン回転数が上がったときは、シフトアップをしてください。エンジン回転数が下がったときは、シフトダウンをしてください。
クラッチペダルを踏んでから5秒以内にシフトチェンジすれば、設定した車速を維持できます。

バッテリー再接続後、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

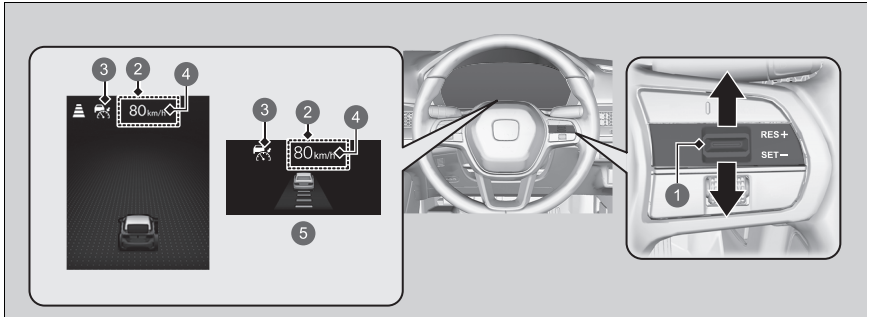
次ページに続く

■システムを作動させるには



❶ ハンドルの スイッチを押す
❷ メーター内に (ホワイト)が点灯し、ACC が操作可能になります。

■車速をセットするには



❶ RES/+/SET/- スイッチ
❷ ACC 作動開始時に点灯
❸ (グリーン)
❹ 設定車速(ホワイト)
❺ +R メーターのとき

車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

ACC を使用すると Straight Driving Assist(直進保舵支援機能)が作動します。これはEPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

車速をセットするには

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

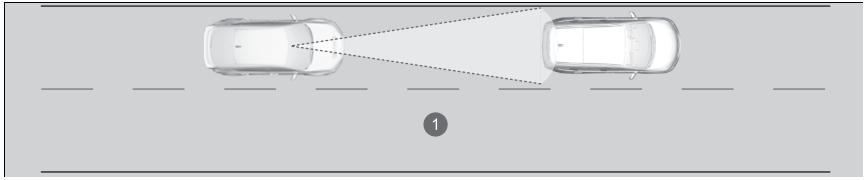
VSA の機能を完全に停止させた場合、ACC は使用できません。

次ページに続く

■ ACC の作動

■先行車がいるとき

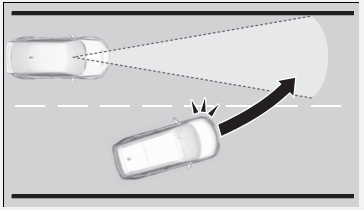
ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



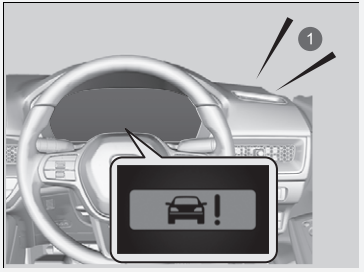
❶ ACC の検知範囲：120m

▨ACC の作動

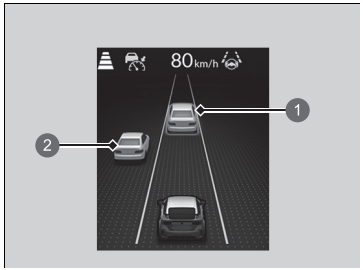
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



❶警告音



設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

❶ ACCの作動検知範囲に入ると車のアイコンが表示されます。
❷ ACCの作動検知範囲外の車などのアイコンが表示されます。

- 制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン
- 制御対象外車両アイコン：グレー

ACCの作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

制限：
安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

ACC の条件と制限 P.269
車間距離を設定するには P.273

次ページに続く

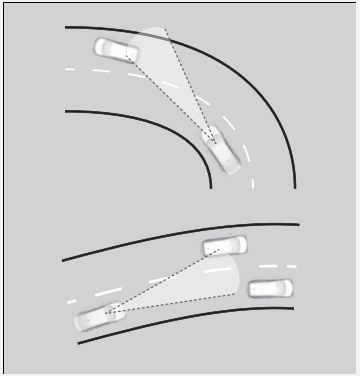
+R メーターのとき



❶ ACCの作動検知範囲に入ると車のアイコンが表示されます。

ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車がいないとき



先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行いますが、設定した車速を超えてしまう場合があります。

+R メーターのとき



❶ メーターに実線の車のアイコンが表示されます。

次ページに続く

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■ ACC の条件と制限

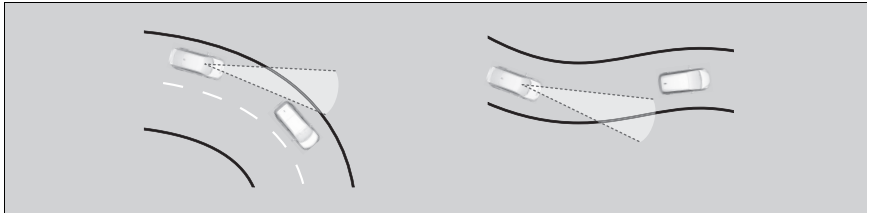
一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。
➔ フロントワイドビューカメラ P.306

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

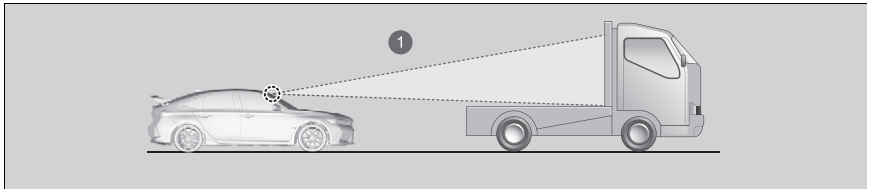
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

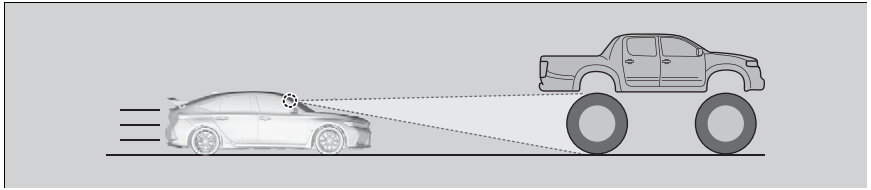
■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



❶ トラックの上部を検知

- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき

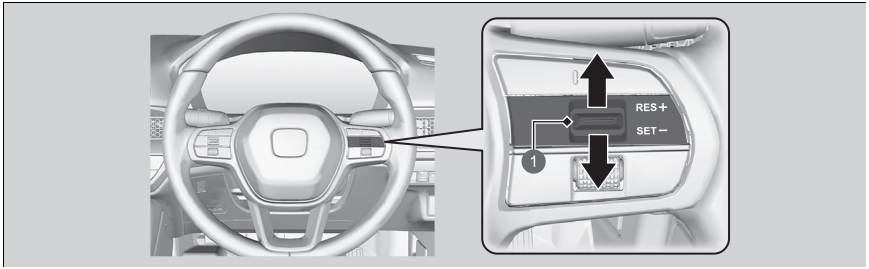


- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+/SET/- スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



❶ RES/+/SET/- スイッチ

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

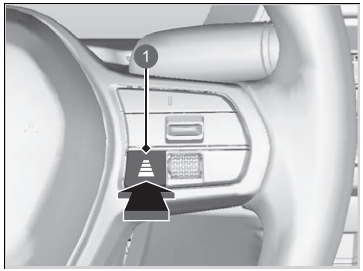
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

»設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、RES/+/SET/- スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

■車間距離を設定するには

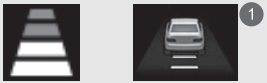
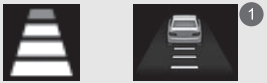
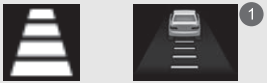


ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

❶ ディスタンススイッチ

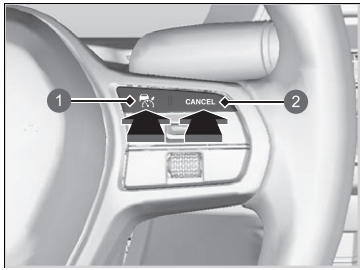
次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 27m	約 33m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

❶ +R メーターのとき

■解除するには



❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶メーター内の(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
- 5 秒間以上クラッチペダルを踏み続ける
  ▶メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

■ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または 衝突軽減ブレーキ（CMBS）や踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき

次ページに続く

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあと、RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速（グレー）で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

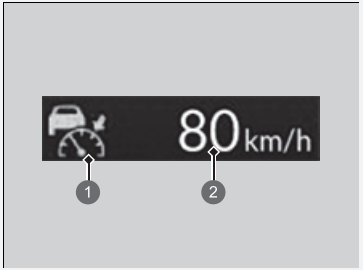
また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速（グレー）の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- スイッチを押して ACC を OFF したあと
- 車速が 30km/h 未満のとき

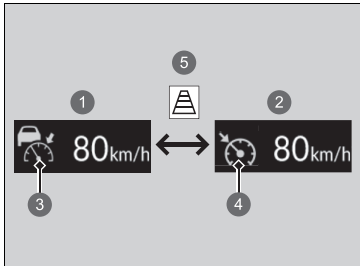
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- シフトアップ / ダウン表示灯が点灯し、チェンジレバーを操作をしないで約 10 秒経過したとき
- エンジン回転数がタコメータレッドゾーン以上で運転したとき
- エンジン回転数が 1,000 回転以下になったとき
- 走行中 N（ニュートラル）を継続したとき
- クラッチペダルを踏まずに N（ニュートラル）にしたとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

解除するには



❶ （ホワイト）
❷ 解除前の設定車速（グレー）

■クルーズモードへの切換え



❶ ACC ON
❷ クルーズモード ON
❸ (ホワイト)
❹ (ホワイト)
❺ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。
マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。
同時に、メーター内の(ホワイト)が(ホワイト)に変わります。
再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、ACC に戻ります。

クルーズモードへの切換え

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

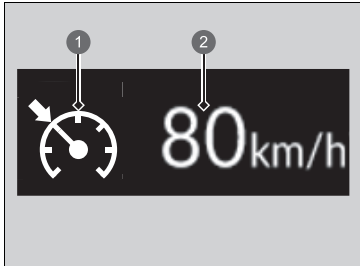
以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- スイッチが OFF のとき

クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押して ON にし直すたびに、ACC に戻ります。

次ページに続く

■車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、 RES/+/SET- スイッチを上か下に押します。
RES/+/SET- スイッチを上か下に押して離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに(グリーン)と設定車速が表示されます。

❶ (グリーン)
❷ 設定車速

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

クルーズモードを使用するとStraight Driving Assist(直進保舵支援機能)が作動します。
これはEPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

■車速を調節するには

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

次ページに続く

■解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- 5秒間以上クラッチペダルを踏み続ける
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

▶解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

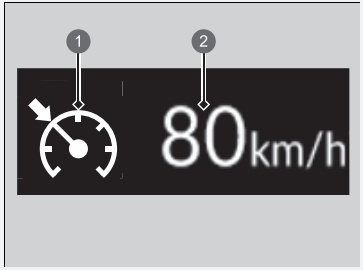
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。 RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、 RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
- スイッチで OFF 操作をしたとき

解除するには



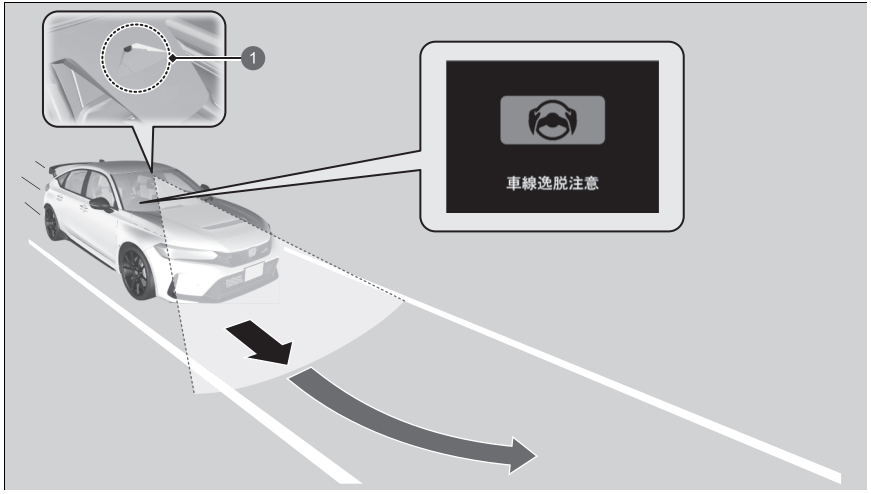
❶ (ホワイト)
❷ 解除前の設定車速(グレー)

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

▶車線維持支援システム(LKAS)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

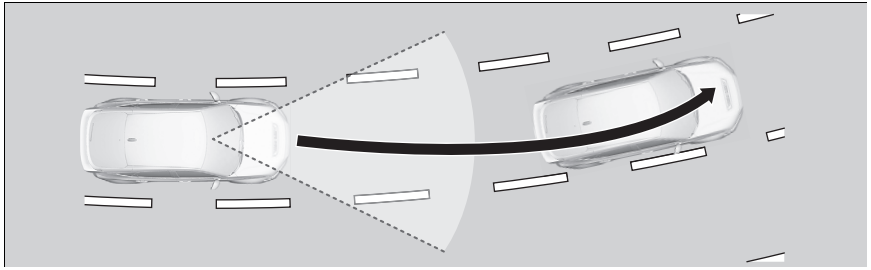
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



車線維持支援システム（LKAS）

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントワイドビューカメラ** P.306

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

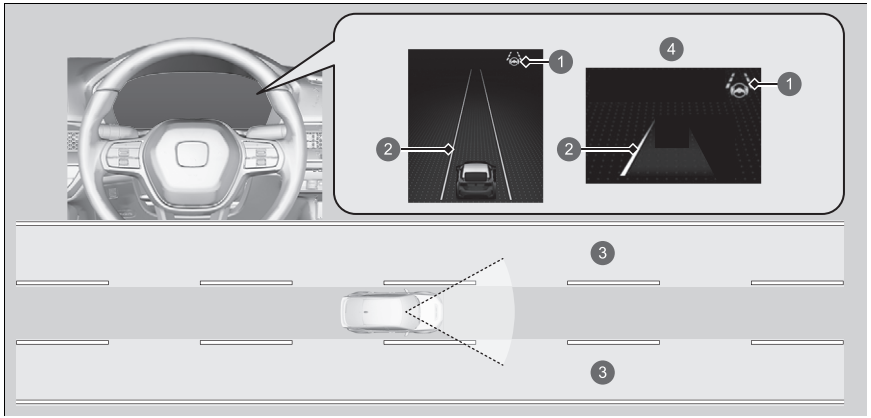
➔ **LKAS の条件と制限** P.291

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

次ページに続く

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（グリーン）
❷ 車線表示（オレンジ）
❸ 警報エリア
❹ +R メーターのとき

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき
- 急ブレーキをかけていないとき

LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止しHonda 販売店で点検を受けてください。

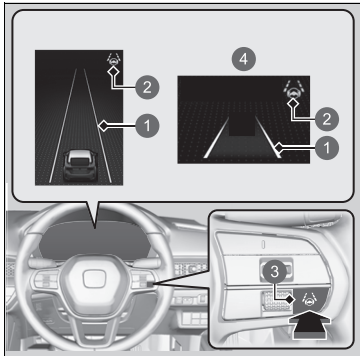
VSAの機能を完全に停止させた場合、LKASは使用できません。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.291

次ページに続く

■システムの作動方法



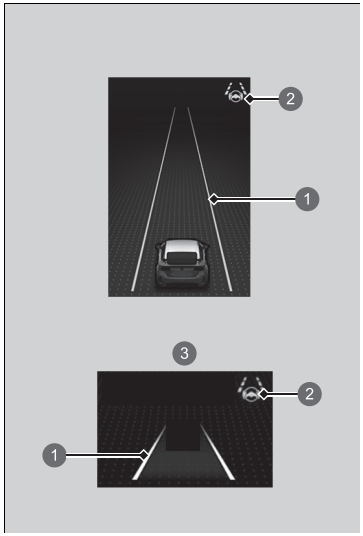
❶ 車線表示（ホワイト）
❷ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト）
❸ 車線維持支援システム（LKAS）スイッチ
❹ +R メーターのとき

1. LKAS スイッチを押す。
▶ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト）が点灯します。
システムが待機状態になります。
▶ カメラが両側の白線（黄線）を検知すると、メーターに車線表示（ホワイト）が点灯します。

LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

システムが作動可能状態のときにLKASスイッチを押すと、LKAS は待機状態にはならずに制御を開始します。

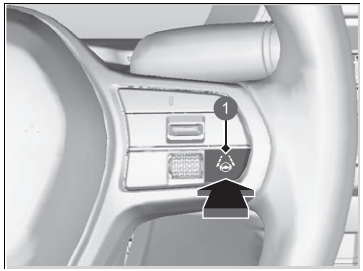


❶ 車線表示（グリーン）
❷ LKAS 表示灯（グリーン）
❸ +R メーターのとき

2. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、メーターの車線表示とLKAS表示灯がグリーンに切り替わり、LKAS の制御を開始します。

次ページに続く

■解除するには

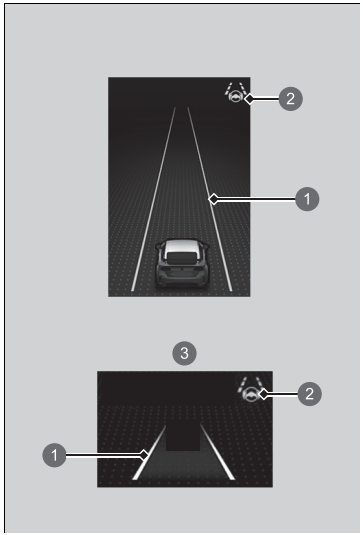


LKAS スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

❶ LKAS スイッチ

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターの車線表示と LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



- 車速が 50km/h 以下になったとき
  ▶車速が65km/h以上になると、LKASは復帰します。
- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- ABS、VSA が作動しているとき
- 急ブレーキをかけたとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

❶ 車線表示（ホワイト）
❷ LKAS 表示灯（ホワイト）
❸ +R メーターのとき

LKAS が自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

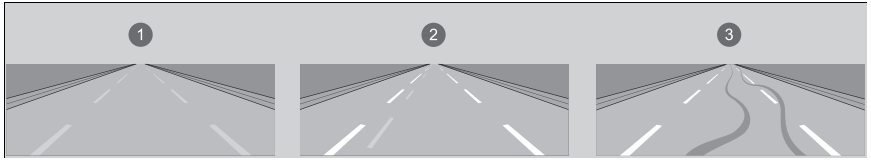
■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

次ページに続く

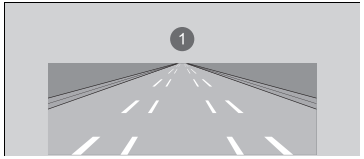
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき



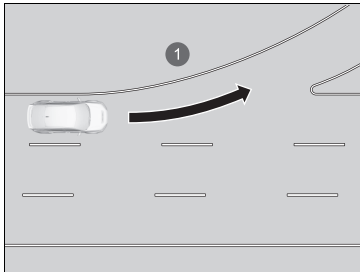
❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

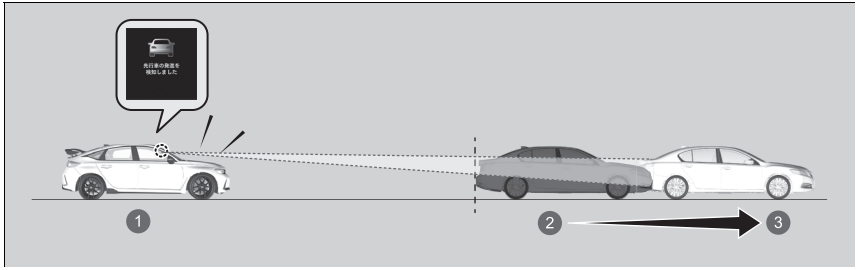
次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



❶ 停止
❷ 先行車停止
❸ 先行車発進

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■チェンジレバーがR以外の場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

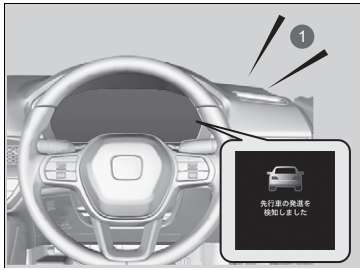
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.306

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

次ページに続く

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

❶ 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

≫先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

警告灯(オレンジ)が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。
➔ アダプティブクルーズコントロール(ACC)
P.260

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

次ページに続く

■先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

■その他、作動できない事例

- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

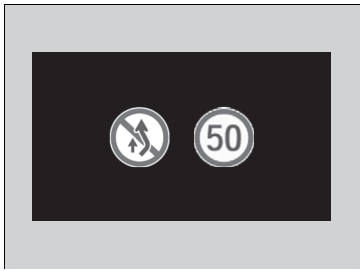
標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラや地図情報で特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。
運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

▨標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

エンジンを始動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.306

標識認識機能表示は、表示する / 表示しないの設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度は、標識を通過してから一定の距離を走行したとき(ただし地図情報が取得できている場合は表示を継続します。)、または終了を示す補助標識を認識したとき
- はみ出し通行禁止は、標識を通過してから一定距離を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

≫標識認識機能

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

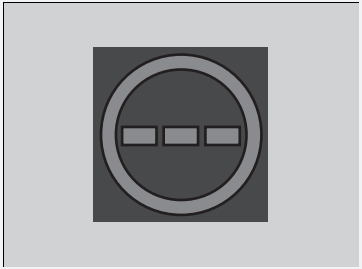
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はメーターに⊖が表示されます。
⊖のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識 (終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

■走行区域などにより正しい速度標識情報を提供できない事例

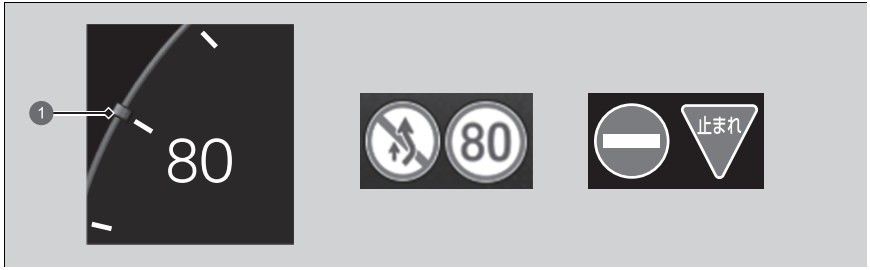
以下の場合は、自車の走路に対する規制情報とは異なる表示をすることがあります。

- 新しい道路が建設された場合
- 制限速度が変更された場合
- ナビゲーションのデータベースに保存されている制限速度情報が古いもしくは不正確な場合
- 情報を活用できない地域または標識が設置されていない細街路など(法定速度区間)
- 車載センサーが検知した自車の経路と実際の車両の経路が異なる場合
- 自車の走路に対して、隣接した速度の異なる道路が存在する場合
- カメラが一時的な速度標識を認識することができない場合
- トンネル内やビル群周辺など、GPS の受信精度が低下する場所を走行したとき
- 低速で停止 / 発進が続いたとき
- ナビゲーションの案内と異なるルートを走行したとき
- 急勾配 / カーブが続くとき
- 速度規制情報があるとき
- 道路交通情報(VICS)の通信遅れが発生したとき

■メーターの表示

同時に2つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例



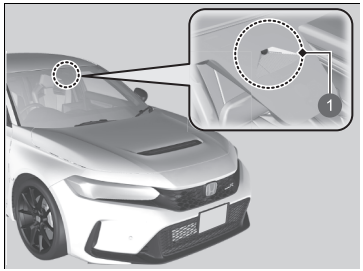
❶ 最高速度

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

メーターの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

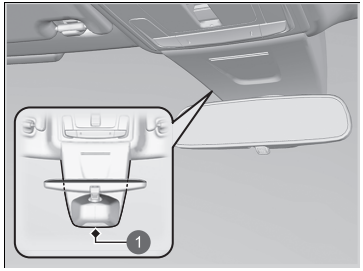
フロントワイドビューカメラ



❶ フロントワイドビューカメラ

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントワイドビューカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.371

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合はHonda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

フロントワイドビューカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

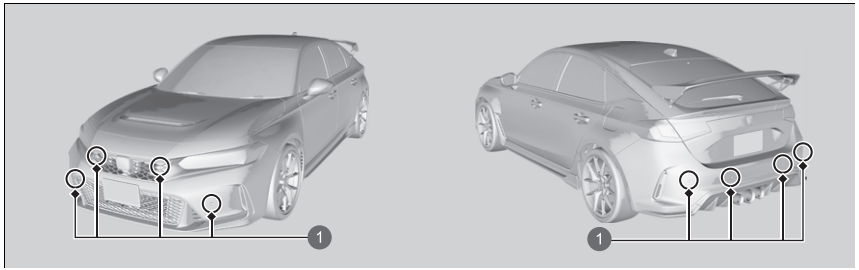
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

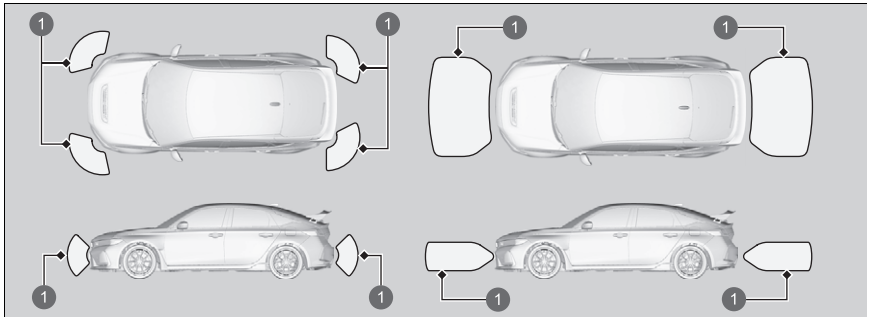
ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはフロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置されています。



❶ ソナーセンサー



❶ センサーの検知範囲

ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーおよびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

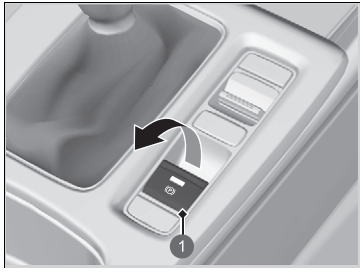
■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。

⨠電子制御パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。

これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。

これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

➡ **ジャンプスタートの方法** P.401

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

次ページに続く



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。

2. パーキングブレーキスイッチを押す。

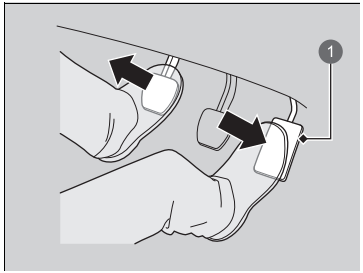
▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

≫電子制御パーキングブレーキ

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10 分以上オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でエンジンを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

■自動解除するとき



❶ アクセルペダル

クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、クラッチペダルを操作しながらアクセルペダルをゆっくり踏みこむとパーキングブレーキが解除されます。
クラッチペダルを操作しながらアクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

次の条件がそろったときに、パーキングブレーキが自動解除されます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンが始動しているとき
- チェンジレバーが N (ニュートラル)以外のとき
- クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、クラッチペダルを操作しながらアクセルペダルをゆっくりと踏みこんだとき

≫自動解除するとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、アクセルペダルをゆっくり踏み込み、クラッチペダルから足を離します。

次ページに続く

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させるブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.318

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.317

■ブレーキ鳴き

ブレーキをかけた時、ブレーキの鳴きが発生する事がありますが、高性能ブレーキシステムの特徴であり、故障ではありません。

▶フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

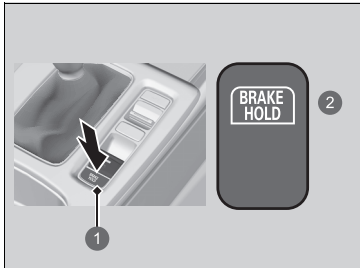
■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にシフトポジションを N (ニュートラル)以外の位置にして次の操作をすると、自動でブレーキが解除され発進することができます。

- 平坦路や下り坂でクラッチペダルから足を離す
- 上り坂でクラッチペダルを操作しながらアクセルペダルをゆっくり踏み込む

信号待ちや渋滞などの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

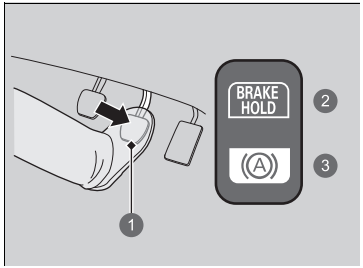
オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

次ページに続く

■ブレーキを保持させるには



❶ ブレーキペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯点灯

ブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

≫オートマチックブレーキホールド

システムが作動していても通常と同じ手順でエンジンの停止が行えます。

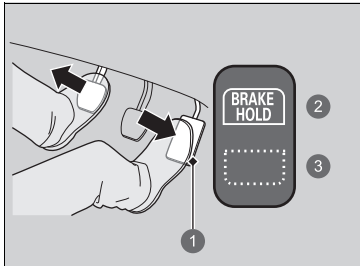
➡ **駐停車操作** P.319

パワーモードを OFF モードにすると、システムは自動的に OFF になります。

システムがONのとき、またはオートマチックブレーキホールドが作動しているときにエンストすると、システムは自動的に OFF になります。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■車両を発進させるには



❶ アクセルペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

シフトポジションが[N](ニュートラル)以外のときに：
- 平坦路や下り坂でクラッチペダルから足を離す
- 上り坂でクラッチペダルを操作しながらアクセルペダルをゆっくり踏み込む

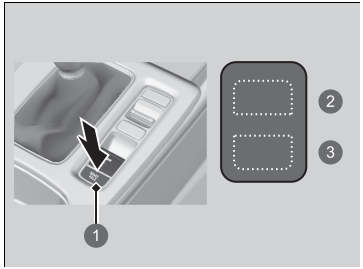
オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。
- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- エンジンを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき
- エンストしたとき

次ページに続く

■機能を OFF させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯消灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯のみ点灯しているとき：

- オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が同時に点灯しているとき：

- ブレーキペダルを踏みながら、オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯およびオートマチックブレーキホールド表示灯が消灯します。

▶機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.212

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. チェンジレバーを[N](ニュートラル)に入れる。
4. エンジンを停止し、チェンジレバーを[R]または[1]に入れる。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車操作

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

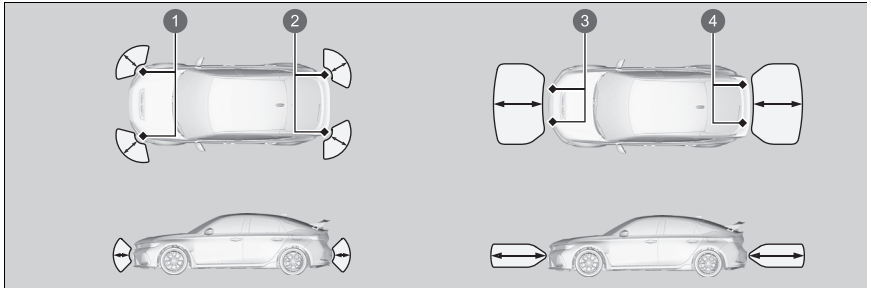
寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとマルチインフォメーションディスプレイとオーディオ / インフォメーション画面で知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.308

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



❶ フロントコーナーセンサー
❷ リヤコーナーセンサー
❸ フロントセンターセンサー
❹ リヤセンターセンサー

パーキングセンサーシステム

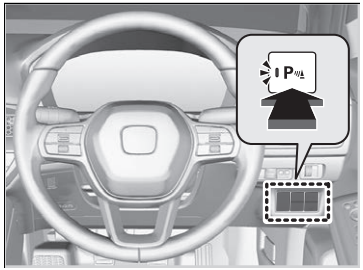
駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムをONにしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが R 以外で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

▶パーキングブレーキを解除する必要があります。

パーキングセンサーシステム

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知してシステムが作動するおそれがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

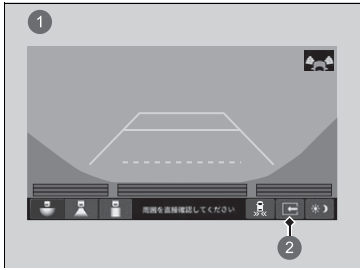
➔ **リヤセンサーの OFF** P.324

パーキングセンサーの ON と OFF

エンジンを始動したときは、パワーモードをOFFする前の状態(ONまたはOFF)を保持します。

次ページに続く

■画面操作



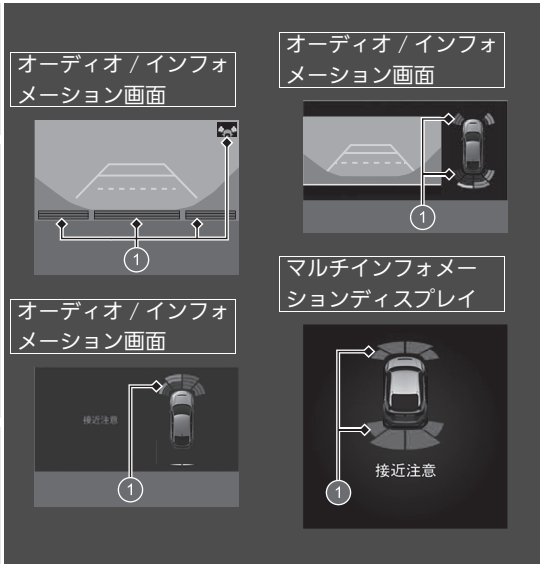
❶ 通常表示
❷ アイコン

アイコンをタッチして、ディスプレイを通常表示または分割表示に切り替えることができます。



❶ 分割表示

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ オーディオ / インフォメーション画面
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	約 110-60 cm	点灯※1/ 点滅※2 (イエロー※3)	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点灯※1/ 点滅※2 (オレンジ)	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点灯※1/ 点滅※2 (レッド)	

※1 ：マルチインフォメーションディスプレイ
※2 ：オーディオ / インフォメーション画面
※3 ：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。
❶ 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

次ページに続く

■リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムスイッチを押しながら、パワーモードを ON モードにする。
3. パーキングセンサーシステムスイッチを 10 秒間押し続け、スイッチのインジケーターが点滅したら手を離す。
▶ このときブザーが 1 回鳴ります。
4. 再度パーキングセンサーシステムスイッチを押すと、スイッチのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度ONにするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

リヤセンサーの OFF

シフトポジションが R のとき、パーキングセンサーシステムスイッチのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

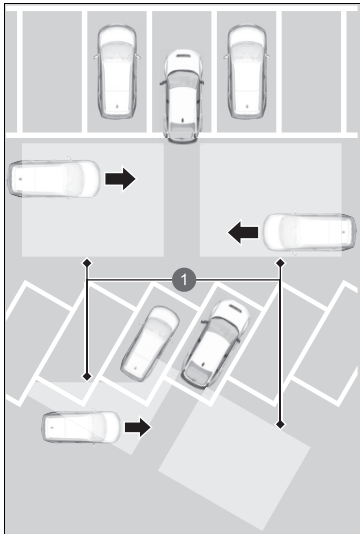
パーキングセンサーシステム使用時にリヤセンサーを OFF にしている場合、後退中の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

踏み間違い衝突軽減システム P.238

後退出庫サポート*

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパーのコーナーの低い位置にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

■作動条件と作動タイミング



パワーモードがONモードでシフトポジションがRのときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また、接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

❶ 検知範囲

後退出庫サポート*

⚠注意

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

後退出庫サポート*

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

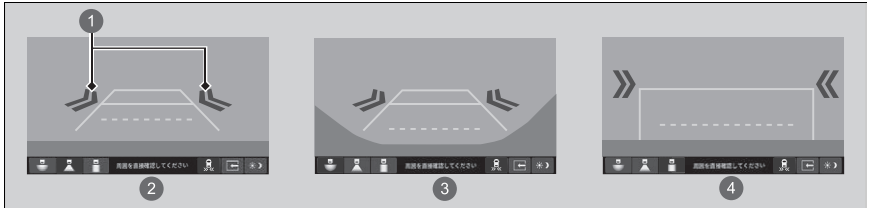
リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■画面表示について

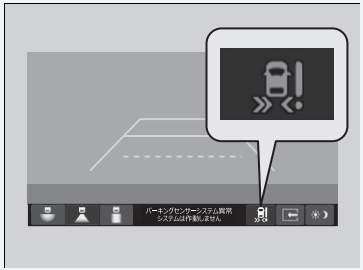
接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。



❶ 接近方向矢印
❷ リヤビュー
❸ リヤワイドビュー
❹ トップダウンビュー

≫画面表示について

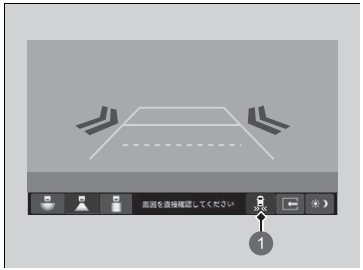
画面右下のアイコンが から (オレンジ) に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■後退出庫サポートの ON と OFF



後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの作動 / 非作動を切り換えることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

❶ 後退出庫サポートアイコン

≫画面表示について

シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

リアワイドカメラシステムについて

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛プレミアムガソリン
プレミアムバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

47 リットル

≫指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンが入手できない場合にはレギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合、エンジンの性能を十分に発揮できません。さらにエンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだ時に、異音が聞こえることがあります。

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
➔ **車内での施錠 / 解錠** P.131

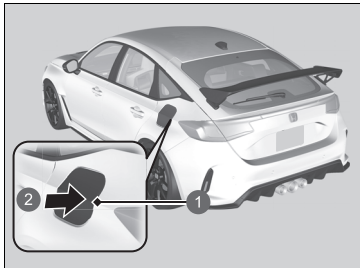
給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

次ページに続く



❶ フューエルリッド
❷ 押す

4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。



❶ キャップ

5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

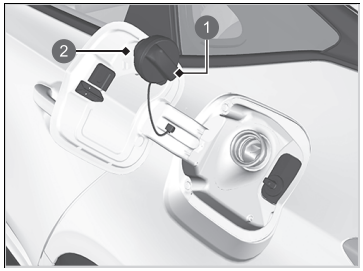
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。



❶ キャップ
❷ ホルダー

6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠注意

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

次ページに続く

給油のしかた

降車時オートドアロック機能を使用すると、フューエルリッドも施錠されます。 フューエルリッドを開ける前に、必ず運転席ドアとフューエルリッドの両方が解錠されていることを確認してください。

施錠するには(降車時オートドアロック機能) P.126

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 ℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。
➔ **オイルモニターシステム** P.340
➔ **エンジンオイル** P.426

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると水温計の目盛が H まで上がることがありますが、機能的に問題はありません。
約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行すると水温計の目盛は下がります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 337
- メンテナンスを安全に行うために 338
- メンテナンスに関する注意事項..... 339

オイルモニターシステム
- オイルモニターシステムの表示..... 341

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 346
- ボンネットを開ける..... 347
- 推奨エンジンオイル..... 349
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 350

電球の交換..... 351

ワイパーブレードラバーの点検と整備 359

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 362
- タイヤとホイールの交換 364
- タイヤのローテーション 365
- 冬期のタイヤ 366

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 367

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 369

清掃
- 車内の清掃 371
- 車外の清掃 374

アクセサリーと改造 377

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ 車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしていても冷却ファンが作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

メンテナンスに関する注意事項

アドバイス

エンジンカバーを強く押さないでください。

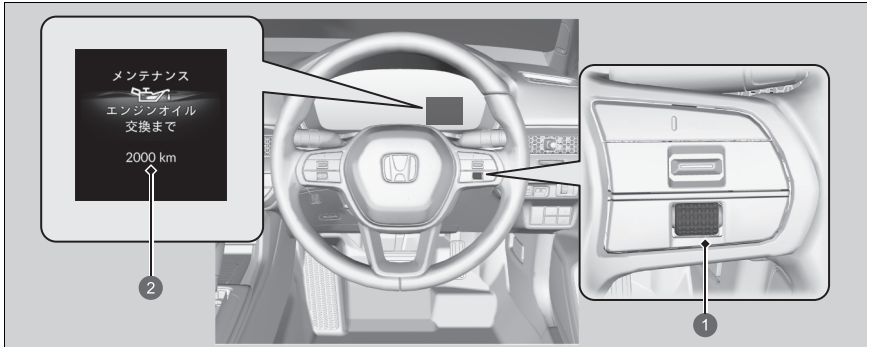
エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

オイルモニターシステム

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。メッセージが表示されたときは、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示

1. パワーモードを ON モードにする。
2. オイルモニターシステム画面が表示されるまでライトセレクターホイールを回す。
▶ マルチインフォメーションディスプレイにエンジンオイルライフが表示されます。



❶ ライトセレクターホイール
❷ 次回メンテナンスまでの残距離

オイルモニターシステムの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換からの経過時間に応じてメンテナンスが必要です。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージとオイルモニターシステム情報

警告メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
—	 	エンジンオイル交換後、リセット操作を行うと表示されます。 走行状態に応じた適切な走行距離が計算されるまで継続します。

警告メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
—	 	メンテナンス時期までの走行距離が表示されます。
 	 	メンテナンス時期が近くなっています。

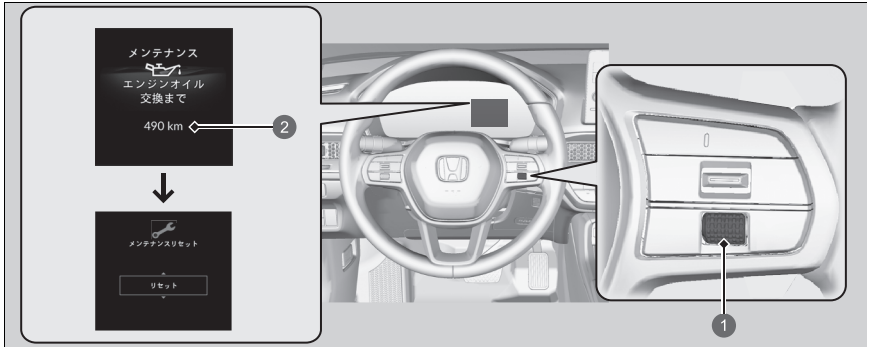
次ページに続く

警告メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
 	 	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
 	 	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。

1. パワーモードを ON モードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されるまで、ライトセレクターホイールを回す。
3. リセットモードになるまでライトセレクターホイールを約 10 秒以上押す。
4. ライトセレクターホイールを回し「リセット」を選択する。
5. リセットが選択された状態でライトセレクターホイールを押すとリセットされる。
   ▶ オイルモニターシステム情報がリセットされ、走行距離表示が「- - - - -」になります。



❶ ライトセレクターホイール
❷ 次回メンテナンスまでの残距離

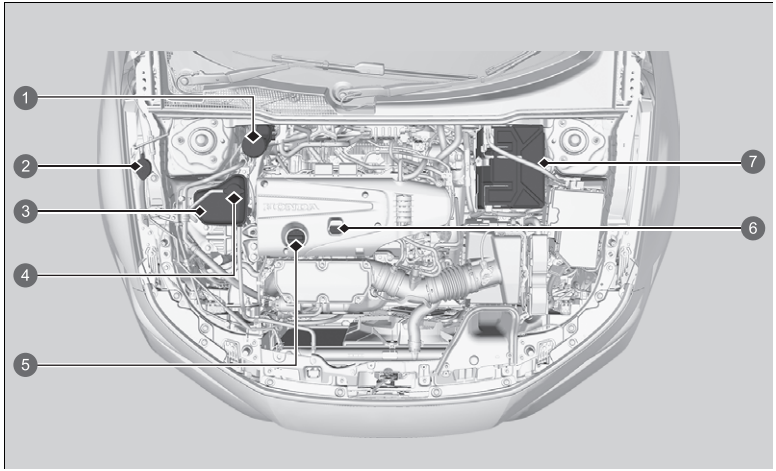
リセットのしかた

アドバイス

メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

カスタマイズ機能でもオイルモニターシステムの表示をリセットできます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

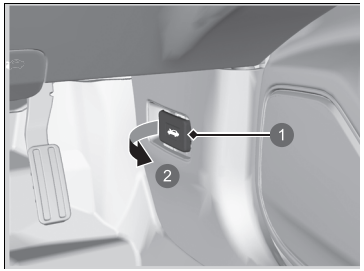
エンジンルーム内のメンテナンス項目



❶ ブレーキフルードリザーブタンク※
❷ ウィンドウォッシャー液注入口
❸ 冷却水リザーブタンク※
❹ 冷却水リザーブタンクキャップ※
❺ エンジンオイル注入口※
❻ エンジンオイルレベルゲージ※
❼ バッテリー※

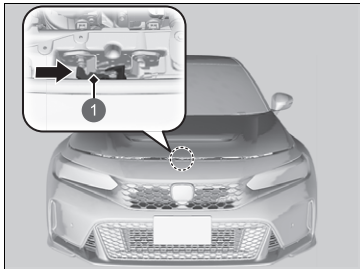
※：点検整備については、メンテナンスノートをご覧ください。

ボンネットを開ける



❶ ボンネット解除ノブ
❷ 引く

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



❶ レバー

3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

ボンネットを開ける

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。
やけどを負うおそれがあるので、必ずグリップを持って使用する。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

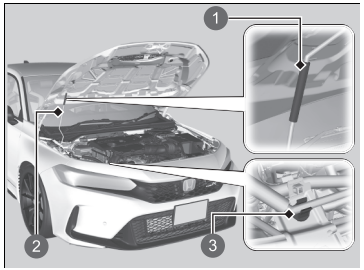
ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

アドバイス

エンジンカバーを強く押さないでください。
エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

次ページに続く



❶ グリップ
❷ ステー
❸ クランプ

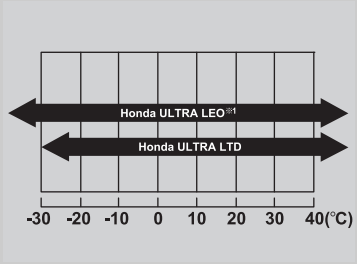
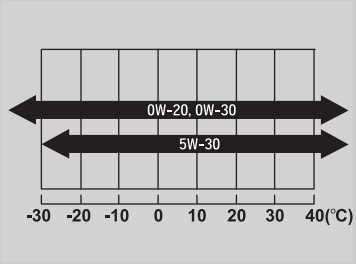
4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について以下の表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO※1 • Honda ULTRA LTD	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル ACEA A5/B5
 外気温	 外気温

※1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

推奨エンジンオイル

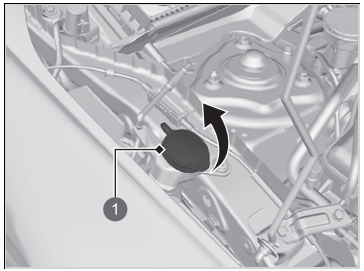
冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャータンクに補給します。

❶ キャップ

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

デイタイムランニングライト / 車幅灯電球

デイタイムランニングライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

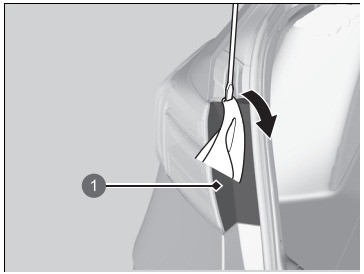
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

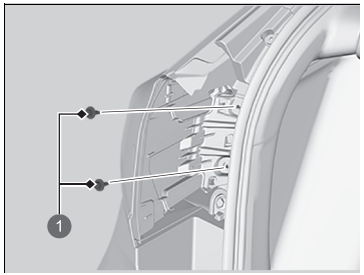
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 ：12V－21W(橙色)



❶ カバー

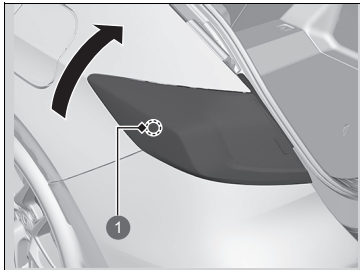
1. カバー上部のすき間にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。

▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



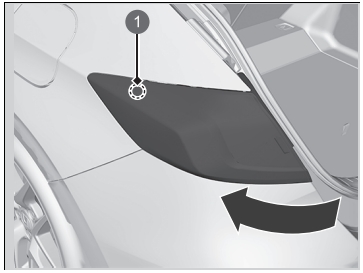
❶ ボルト

2. プラスドライバーまたはソケットレンチを使い、ボルトを外す。



3. ライトの下部をつかみ上側に回し、下部のスナップピンを外す。

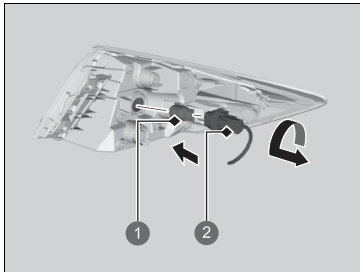
❶ 下部のピン



4. ライトを外側に回し、上部のスナップピンを外す。
5. ライト本体を 後部ピラーから取り外す。

❶ 上部のピン

次ページに続く



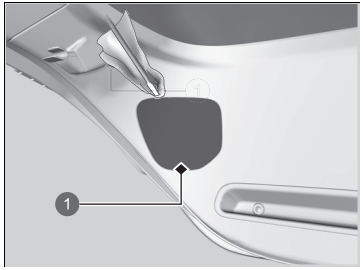
❶ 電球
❷ ソケット

6. ソケットを左に回して外す。
7. 古い電球を抜き取り、新しい電球を差し込む。
8. 車体のガイドに沿って、ライト本体をスライドさせる。
9. ピンを車体のグロメットに合わせてから、しっかり固定されるまで押す。

後退灯電球

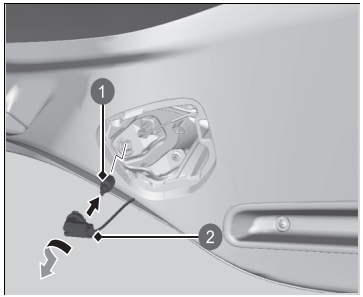
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯	：12V−16W



❶ リッド

1. リッドの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



❶ 電球
❷ ソケット

2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

尾灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

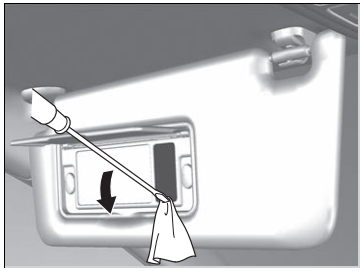
■バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V−2W

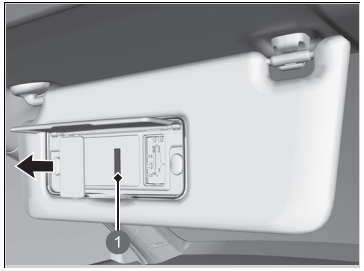
1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。



❶ 電球

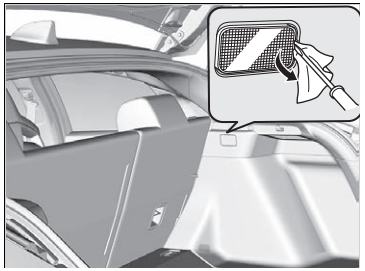
■カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯：12V−5W

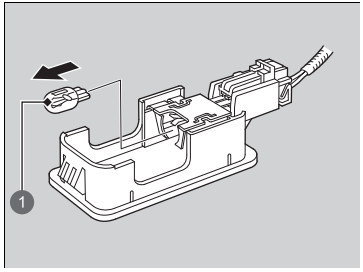
1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



次ページに続く

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

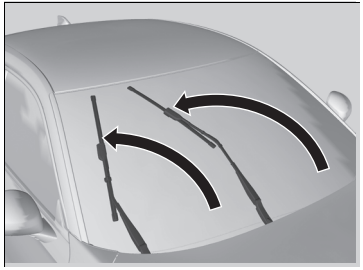


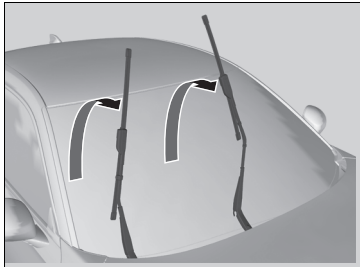
❶ 電球

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーアームの起こしかた





1. パワーモードを OFF モードにする。

2. パワーモードを OFF モードにしてから 10 秒以内にワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置へ 2 秒以上押し上げる。

▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。

3. 両方のワイパーアームを起こす。

» フロントワイパーアームの起こしかた

アドバイス

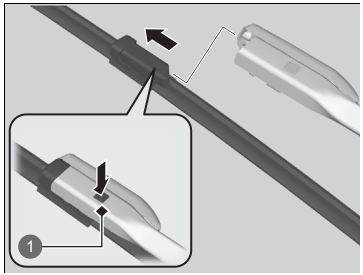
ワイパーアームを起こす際は、必ず手順にしたがってワイパーメンテナンスポジションへ動かしてください。

手動でワイパーアームを動かすと、故障の原因となります。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

フロントワイパーブレードの交換



❶ タブ

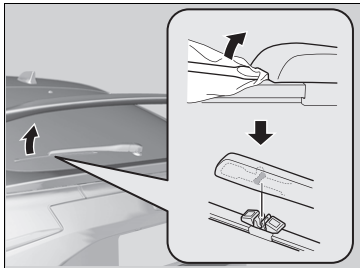
1. ワイパーアームを起こす。
   ➡ **フロントワイパーアームの起こしかた** P.359
2. タブを押しながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。
3. 新しいブレードをワイパーアームへスライドさせて取り付ける。
   ▶「カチッ」と音がするまで差し込み、確実に固定します。
4. 両方のワイパーアームを戻す。
5. パワーモードを ON モードにする。
6. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

≫フロントワイパーブレードの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

リヤワイパーブレードの交換



1. ワイパーアームを持ち上げる。
2. ワイパーアーム先端の切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、ワイパーブレードを取り外す。
▶ ワイパーアームが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。
3. 新しいワイパーブレードを取り付け、ワイパーアームを戻す。

リヤワイパーブレードの交換

アドバイス

ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

▶タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

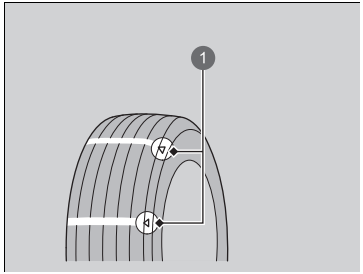
タイヤの指定空気圧は、下記を参照してください。

仕様 P.426

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

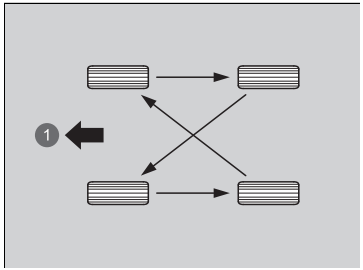
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

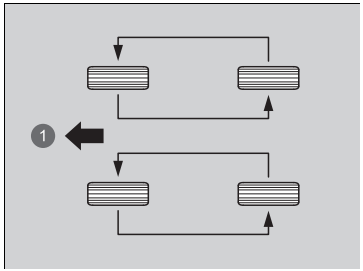
■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

■回転指示マークがあるタイヤの場合

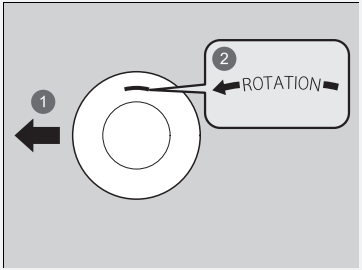


図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



❶ 前
❷ 回転指示マークの代表例

ホイールナット締め付けトルク
127 N・m(13 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンは使用できません。
タイヤチェーンを使用すると、ボディやサスペンション、ブレーキ配管などを破損するおそれがあります。

冬期のタイヤ

純正タイヤはハイグリップタイヤを装備しています。
外気温度が約7℃以下のときは、制動力の低下など本来の性能を発揮できません。
外気温が -10 ℃以下のときは純正タイヤを使用しない。
タイヤの表面(トレッド)に、ヒビ割れなど損傷を負う可能性があります。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

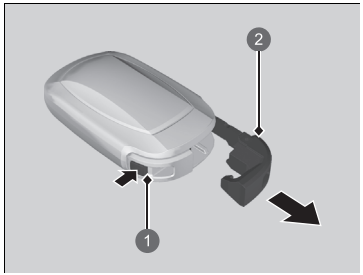
■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



❶ ボタン
❷ 内蔵キー

ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠警告

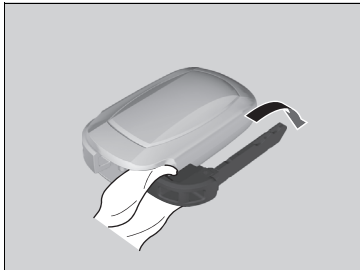
ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

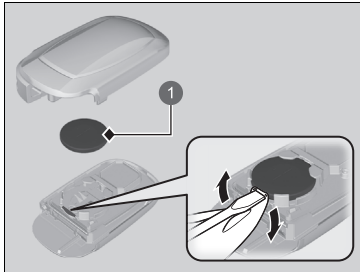
電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

次ページに続く



2. ボタンを下にしてカバーを外す。
- ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
- ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



3. 電池を取り出す。
- ▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。

4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

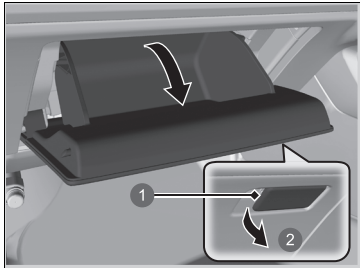
❶ 電池

エアクリーンフィルター

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



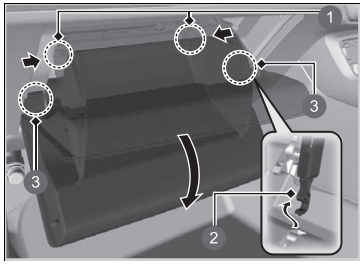
1. グローブボックスを開ける。

❶ ノブ
❷ 引く

» エアクリーンフィルター

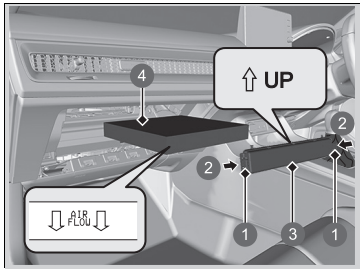
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

次ページに続く



❶ ストッパー
❷ ダンパー
❸ ツメ

2. ダンパーを外す。
3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
4. グローブボックスのツメを引き抜き、グローブボックスを外す。



❶ ツメ
❷ 押す
❸ カバー
❹ エアクリーンフィルター

5. 左右にあるツメを押しながら、カバーを外す。
6. エアクリーンフィルターを引き出す。
7. 新品と交換する。
▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット /IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

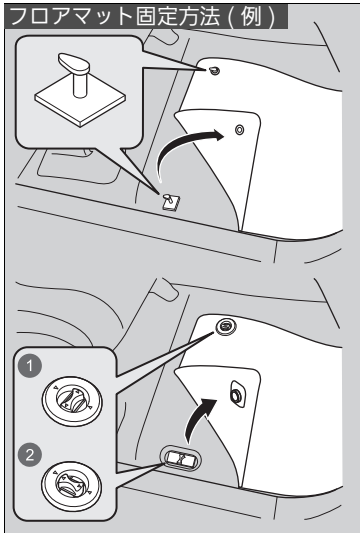
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

■フロアマット



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

❶ 解錠
❷ 固定

■アルカンターラ® ・ ウルトラスエード® のお手入れ

塵やほこりを取り除き、ぬるま湯を含ませた柔らかい布を固く絞って、軽くたたいて汚れを落とします。乾いたら柔らかいブラシなどで軽くブラッシングしてください。

フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

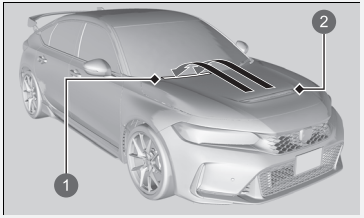
- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

洗車について

故意にエンジンルームや空気取り入れ口、ボンネットの通気口に水をかけないでください。
電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



❶ 空気取り入れ口
❷ ボンネットの通気口

洗車するときは、運転席ドア（フューエルリッド）を施錠してください。
フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。
➡ **フロントワイパーアームの起こしかた** P.359

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。
ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

▶▶アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

アクセサリーと改造

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

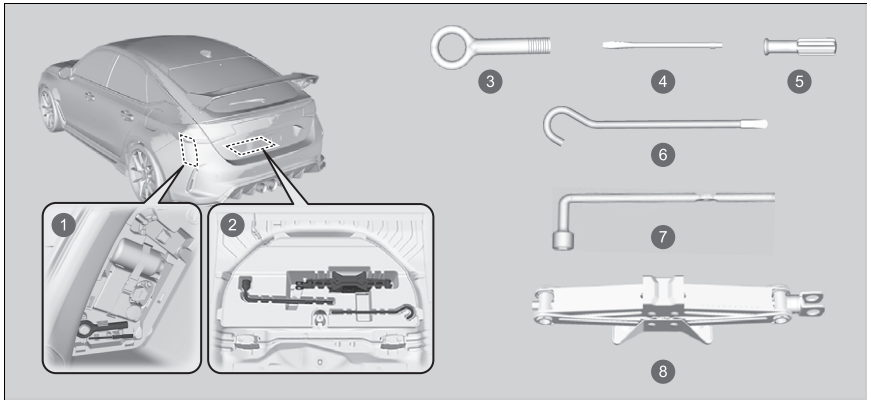
無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....380
パンクしたとき.....382
パンクしたタイヤの応急修理.....382
ジャッキの取り扱い.....395
エンジンが始動しない
エンジンの状態の確認.....398
Honda スマートキーの電池が切れたとき ...399
緊急時のエンジン停止方法 400
バッテリーがあがったとき.....401
オーバーヒート.....404
警告灯の点灯 / 点滅.....406
ヒューズ
ヒューズの設置場所 411
ヒューズの点検と交換..... 415
けん引..... 418
フューエルリッドが解錠できないとき .. 419
テールゲートが開かないとき..... 420
緊急時や車両トラブルのとき
緊急通報 421
トラブルサポート 424

工具の種類



❶ 工具(カーゴスペース左側カバー内)
❷ 工具(カーゴリッド内)
❸ アイボルト
❹ マイナスドライバー
❺ グリップ
❻ ジャッキハンドルバー(別売り)
❼ ホイールナットレンチ(兼ジャッキハンドル)(別売り)
❽ ジャッキ(別売り)

≫工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発煙筒** P.2

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

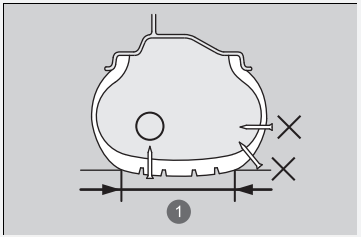
スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. チェンジレバーを R に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▶▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



❶ 接地面

釘やネジなど	直径 4mm 以下 ○
	直径 4mm より大きい ×

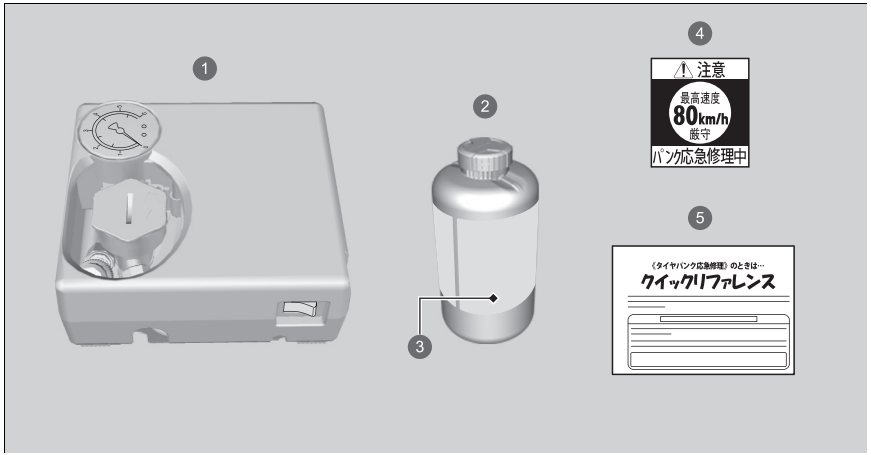
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

次ページに続く

■タイヤ応急修理の準備



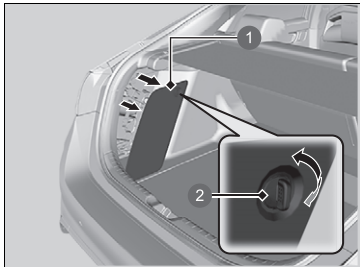
❶ コンプレッサー
❷ タイヤパンク応急修理剤
❸ 有効期限年月
　〇〇月 / 〇〇〇〇年
❹ 制限速度シール
❺ 説明書

▶▶タイヤ応急修理の準備

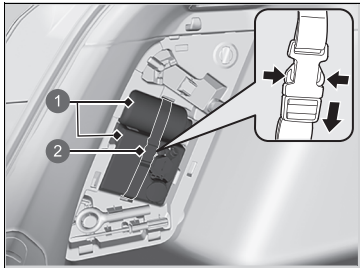
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。

- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。



❶ カバー
❷ ノブ

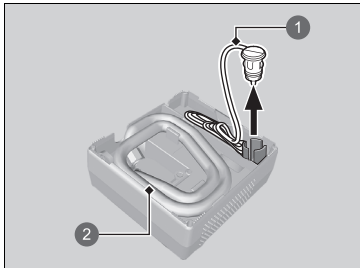


❶ パンク修理キット
❷ バックル

1. ノブを回してカーゴスペース左側のカバーを取り外す。
2. バックルを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

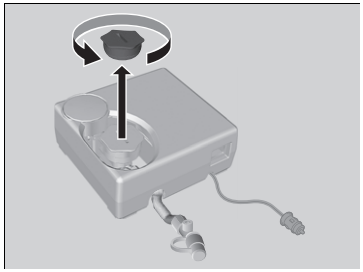
次ページに続く

■応急修理剤とエアの注入



❶ 電源プラグ
❷ コンプレッサーホース

1. コンプレッサーからコンプレッサーホースと電源プラグを取り出す。



2. コンプレッサーキャップを外す。

▶応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

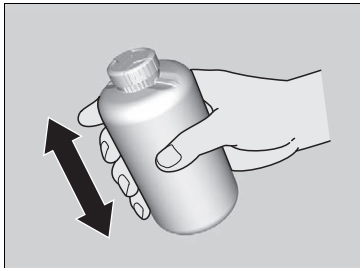
目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

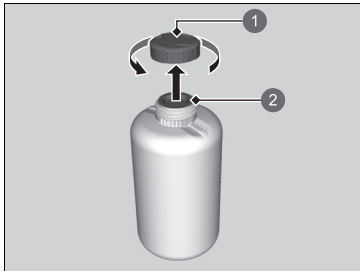
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

注入が終わった空ボトルはコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。



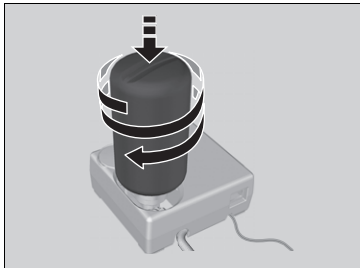
3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

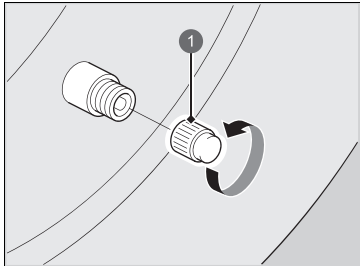


4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。

❶ キャップ
❷ 内ブタは外さずに

次ページに続く





❶ バルブキャップ

5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをコンプレッサーにねじ込む。

▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

6. バルブからバルブキャップを取り外す。

≫応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

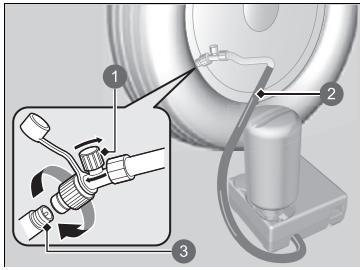
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

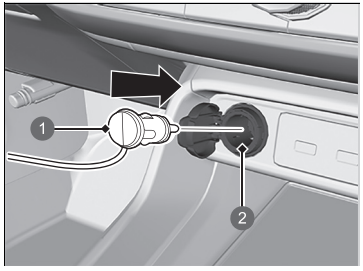
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



❶ 排気バルブ
❷ コンプレッサーホース
❸ バルブ



❶ 電源プラグ
❷ アクセサリーソケット

7. コンプレッサーホースをバルブにねじ込む。
▶ 排気バルブが閉まっていること、コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認してください。

8. コンプレッサーの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➡ **アクセサリーソケット** P.177

9. エンジンを始動する。
➡ **一酸化炭素について** P.70

応急修理剤とエアの注入

コンプレッサーホースを取り付けるときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

コンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえます。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

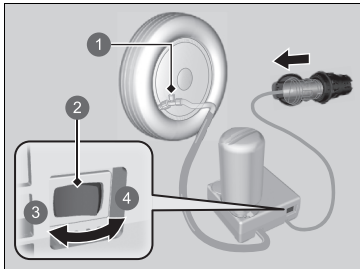
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。

正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

次ページに続く



❶ 排気バルブ
❷ スイッチ
❸ OFF
❹ ON

10. コンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧まで高める。

11. コンプレッサーのスイッチをOFFにする。
▶ コンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

12. コンプレッサーの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。

13. コンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
▶ コンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

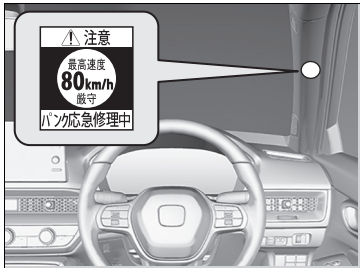
14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。
▶ ボトルはコンプレッサーから外さないでください。

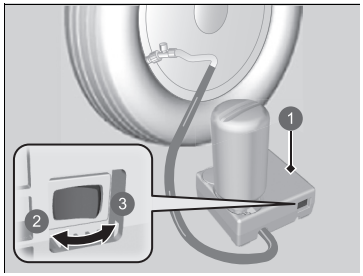
応急修理剤とエアの注入

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。10 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

■点検走行





❶ コンプレッサー
❷ OFF
❸ ON

1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。
5. コンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
▶コンプレッサーのスイッチをONにしないでください。
- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧の場合：応急修理は完了です。
- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合：

次ページに続く

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

コンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。

▶ 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。

▶ 速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

6. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。

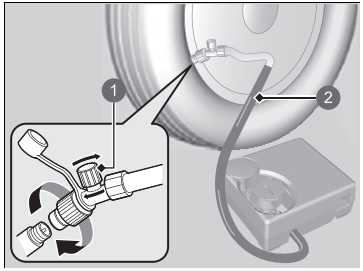
7. キットを車両に戻す。

点検走行

走行前に、コンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

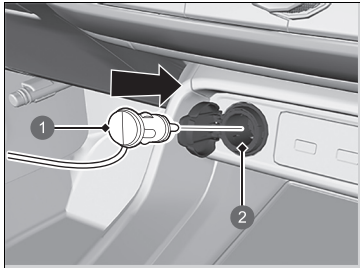
■タイヤ空気圧の補充

装備されているコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



❶ 排気バルブ
❷ コンプレッサーホース

1. コンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにコンプレッサーホースを確実に取り付ける。
   ▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。



❶ 電源プラグ
❷ アクセサリーソケット

5. コンプレッサーの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.177
6. エンジンを始動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.70

次ページに続く

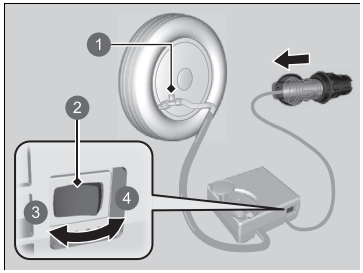
タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

コンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえます。



❶ 排気バルブ
❷ スイッチ
❸ OFF
❹ ON

7. コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
8. コンプレッサーのスイッチをOFFにする。
▶ コンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。
9. エンジンを止め、コンプレッサーの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
▶ 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。
10. コンプレッサーホースを外す。
11. コンプレッサーをカーゴスペースに収納する。

タイヤ空気圧の補充

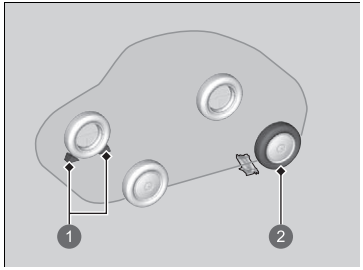
アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。10 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

ジャッキのかけかた



❶ 輪留め
❷ 交換タイヤ

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. チェンジレバーを R に入れる。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

≫ジャッキのかけかた

⚠警告

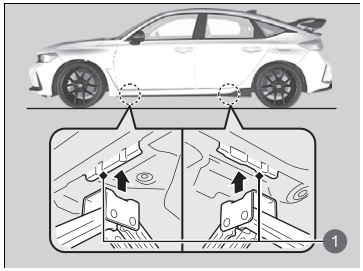
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

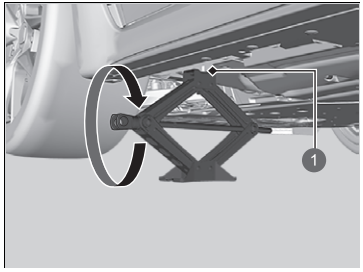
この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

次ページに続く



❶ ジャッキポイント

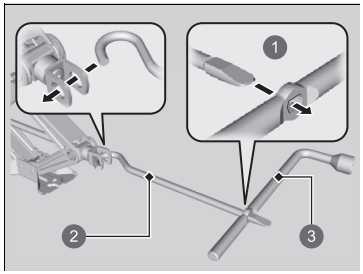
6. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキ（別売り）を置く。



❶ ジャッキポイント

7. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



❶ 奥まで差し込む
❷ ジャッキハンドルバー(別売り)
❸ ジャッキハンドル(別売り)

8. ジャッキハンドル(別売り) とジャッキハンドルバー(別売り) を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する** 「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき ➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.399 ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.399 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ヒューズの点検と交換** P.415
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➔**エンジンの始動** P.195 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➔ **イモビライザーシステム** P.137 ➔ **イモビライザーシステム表示灯** P.82 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 ➔**燃料計** P.87 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 ➔**ヒューズの点検と交換** P.415

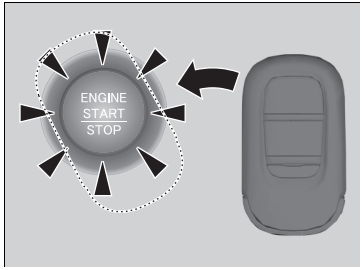
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
➔ **ジャンプスタートの方法** P.401

Honda スマートキーの電池が切れたとき

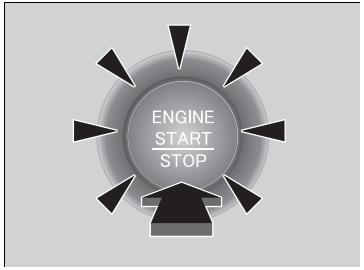
ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、 ENGINE START/STOP が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。

以下の手順でエンジンを始動してください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
▶ブザーが鳴り、ENGINE START/STOP が約30秒間点滅します。

2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、HondaスマートキーのHondaエンブレムをスイッチに接触させる。
▶ブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、クラッチペダルを踏みながら、 ENGINE START/STOP を押す。
▶エンジンが始動します。
▶クラッチペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP スイッチは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す。
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す。

このとき、ハンドルはロックしません。

パワーモードは OFF モードになります。

緊急時のエンジン停止方法

アドバイス

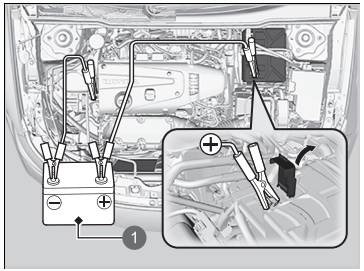
緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

走行中に ENGINE START/STOP を押すとブザーが鳴ります。

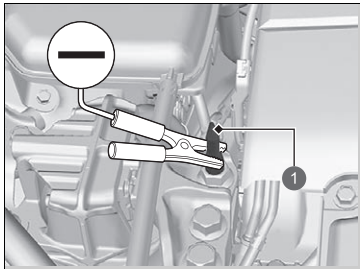
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



❶ 救援車のバッテリー



❶ スタッドボルト

1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

次ページに続く

» ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

エンジン始動後の作業

バッテリーを外して再接続した後、
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを ON にすると、VSA 警告灯、安全支援情報警告灯、アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯、衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。
このとき車速20km/h以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。
消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温計が H の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し　運転を停止してください」とメッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶ **蒸気が出ていない場合**：エンジンをかけたままボンネットを開ける。
▶ **蒸気が出ている場合**：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

≫オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

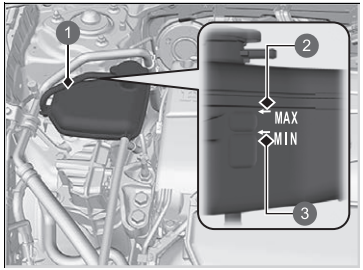
蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずエキスパンションタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス
水温計が H の目盛まで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

アドバイス
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し　運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

■次にすること



❶ エキスパンションタンク
❷ 上限
❸ 下限

1. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の目盛が下がってからエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し水温計を確認する。水温計が H の目盛より下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

オーバーヒートしたときの対処方法

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。

2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。

2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。

▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

3. エンジンを始動する。

▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：
運転を再開してください。

▶「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない：
エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

»「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由
- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは
高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは
枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは
PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは
エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した P.410

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

EPS システム が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)


(レッド)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.309

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、チェンジレバーを 1 または R にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

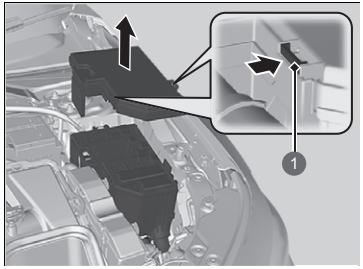
ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

電子制御パーキングブレーキを短時間にくり返し操作するとシステムの過熱防止のために作動が停止し警告灯が点滅します。
約 1 分経過すると元に戻ります。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



❶ タブ

■ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側にあります。

1. タブを押してフタを開ける。

» エンジンルーム内のヒューズボックス

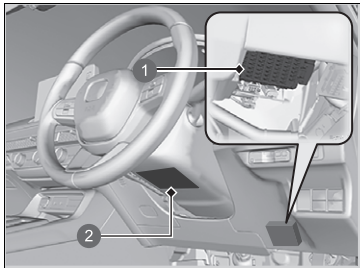
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		バッテリー	125A
2	—	—	40A
	—	—	40A
		ヒューズボックス オプション	60A
	—	—	40A
		ヒューズボックス オプション 2	40A
		—	(30A)
		ヒューズボックス メイン	60A
3	—	—	40A
	—	—	40A
	—	—	40A
		リヤデフロスター	40A
	—	—	40A
		ヒーターモーター	40A
	—	—	40A
	—	—	30A
4		ABS/VSA モーター	40A
		—	(30A)
	—	—	30A
		イグニッションメイン	30A
	—	—	30A
		リレーモジュール 2	30A
5		スターター マグネチックスイッチ	30A
		ワイパー	30A
		EPS	70A
		RFC	50A
		ABS/VSA FSR	40A
		リレーモジュール 1	30A
		ヒューズボックス メイン 2	40A
6	—	—	—
7		イグニッション メイン 2	30A
8		AEV	7.5A
9		—	(30A)
10		オーディオサブ	(7.5A)
11	—	—	—
12	—	—	—
13		—	(10A)
14	—	—	—
15		—	(10A)
16		MG クラッチ	(10A)
17		ウォッシャー	15A
18		ホーン	10A
19		バックアップ	15A
20		オーディオ	(15A)
21		RFC RLY CL+	7.5A
22		DBW	15A
23		—	(20A)
24		バックアップ FI-ECU	10A
25		IGP	15A
26		—	(15A)
27		LCM L	(15A)
28	—	—	—
29		制動灯	10A
30		LCM R	(15A)
31		イグニッションコイル	15A
32	—	—	—
33		非常点滅表示灯	15A
34		—	(7.5A)
35	—	—	—
36		—	(30A)
38	—	—	—
39	—	—	—
40		—	(10A)
41		IGPS[LAF]	10A
42		—	(7.5A)
43	—	—	—
44		—	(30A)

■室内運転席側のヒューズボックス



❶ ヒューズボックス
❷ ヒューズラベル

インストルメントパネルの奥にあります。
▶ 下から確認できます。

≫室内運転席側のヒューズボックス

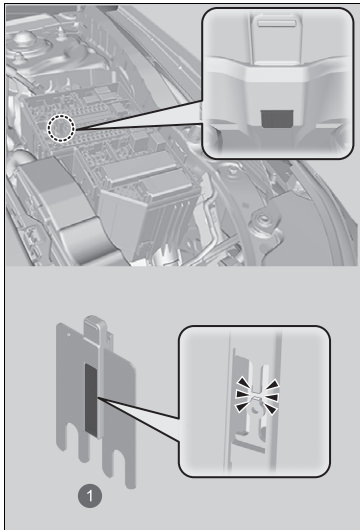
コラムカバー下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

表示		装備	容量
1		運転席パワーウィンドー	20A
2		助手席パワーウィンドー	20A
3		後席右側パワーウィンドー	20A
4		後席左側パワーウィンドー	20A
5		オプション	10A
6		SRS	10A
7		テールゲートモーター	10A
8	—	—	—
9		フロントアクセサリーソケット（フロントコンソール）	20A
10		ドアロック	20A
11		メーター	10A
12		オプション３（スターターカット）	10A
13		オプション２（リヤワイパー）	(10A)
14		オプション６（VB ソレノイド）	10A
15		—	(10A)
16		—	(20A)
17		—	(10A)
18	—	—	—
19	—	—	—
20		—	(10A)
21		—	(20A)
22		HONDA スマートキーシステム	10A
23		—	(10A)
24		—	(7.5A)
25		IMG	10A
26		SRS	10A
27		IG1 スターターカット	20A
28		オプション５	10A
29		フューエルポンプ	15A
30		左側ドアアンロック	10A
31		右側ドアアンロック	10A
32	—	—	—
33	—	—	—
34	—	—	—
35	—	—	—
36		—	(20A)
37		—	(15A)
38	—	—	—
39		右側ドアロック	10A
40		—	(20A)
41		—	(20A)
42		バックライト	(10A)
43		エアコン	10A
44		デイタイムランニングライト	10A
45		ACC	10A
46		ACC キーロック	10A
47		左側ドアロック	10A
48		—	20A
49		—	(20A)
50		—	(10A)
51		—	(10A)
52		—	(20A)
53		—	(20A)
54		オプション１／フューエルリッド	10A
55		—	(30A)
56		ADS	(30A)

ヒューズの点検と交換



❶ メインヒューズ

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. 図の位置からメインヒューズを点検する。
▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ヒューズの点検と交換

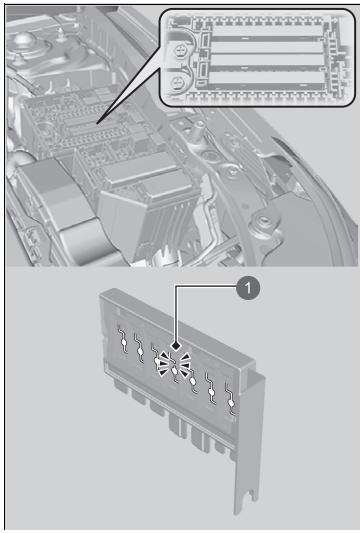
アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
ヒューズの設置場所 P.411

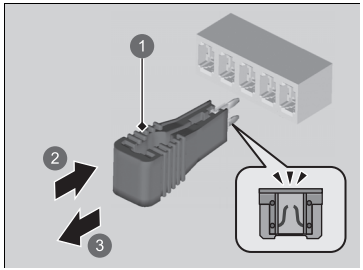
エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

次ページに続く



❶ 切れているヒューズ

4. メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。
▶ヒューズが切れている場合は、Honda販売店に修理を依頼してください。



❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

5. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

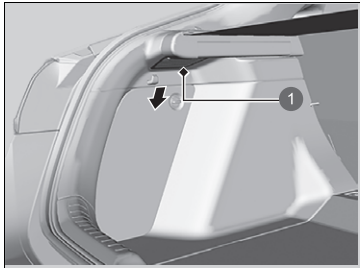
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.309

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。

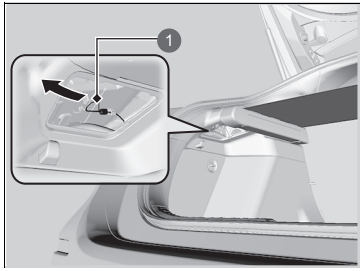


❶ カバー

1. テールゲートを開け、カーゴスペース左側のカバーを開ける。

2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。

▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが解錠されます。



❶ 解錠ケーブル

3. フューエルリッドを開ける。

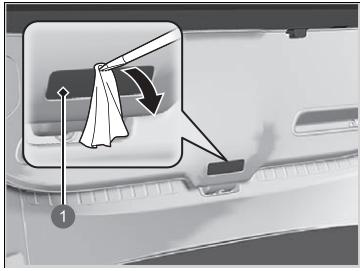
➡ **給油のしかた** P.331

≫解錠できないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

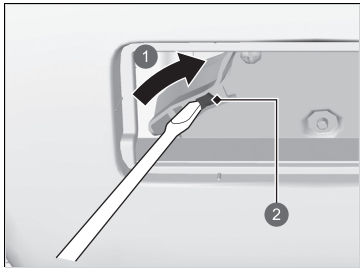
■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



❶ テールゲートのリッド

1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



❶ 解錠
❷ レバー

2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

≫開かないときの対処方法

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

緊急通報

緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

緊急通報

ご利用には、Honda Total Careプレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

緊急通報はパワーモードがONモードのときに利用可能です。

オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

次ページに続く

緊急通報

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

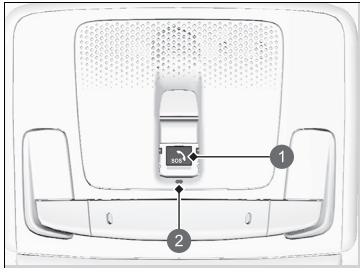
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

■自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報(場所、車両の状態など)がオペレーターに送信されます。

■手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



❶ 緊急通報ボタン(カバー付き)
❷ インジケーター

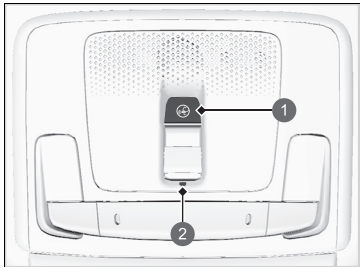
1. 緊急通報ボタンのカバーを開ける。
2. 緊急通報ボタンを押す。
▶ オペレーターに接続されます。
▶ オペレーターに接続中はインジケーターが緑色に点滅します。

≫自動通報機能

エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときにHonda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



❶ トラブルサポートボタン
❷ インジケーター

パワーモードがONモードのときにトラブルサポートボタンを押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。

▶ 接続中はインジケーターが緑色に点滅します。
▶ 再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

トラブルサポート

ご利用には、Honda Total Careプレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 426
オープンソースライセンス 427

仕様

■仕様

名称	シビック
排気量	1,995 cm³
車体形状	4 ドアハッチバック
乗車定員	4 名

■点火プラグ

NGK	ILZKAR8J8SY

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1.9 - 6.3 mm
	床板とのすき間	139 mm 以上 [約 196 N (20 kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛プレミアムガソリン プレミアムバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	47 L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	48 Ah(5)60A h(20)/LN2

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 L

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯 / デイタイムランニングライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12 V-21 W 橙色 (WY21W)
後退灯	12 V-16 W (W16W)
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
室内灯	LED
マップランプ	LED
バニティミラー照明灯	12 V-2 W
グローブボックス照明灯	LED
カーゴスペース照明灯	12 V-5 W
フロントコンソール照明灯	LED
前席フットランプ	LED
アンビエントランプ	LED

■ブレーキ / クラッチフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ MTF-III	2.2 L (交換時)

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SN 級以上または、ACEA A5/B5, 0W-20, 0W-30, 5W-30	
規定量	オイル交換時	5.0 L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	5.4 L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	6.63 L (交換時：リザーブタンク 0.75 L 含む)

■タイヤ

サイズ	265/30ZR19 93Y	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	240 (2.4)
	後輪	230 (2.3)
リムサイズ	19 X 9 1/2J	

オープンソースライセンス

■TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software (FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/

■メーター オープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

A

A/C(エアコン) 183, 369
ABS(アンチロックブレーキシステム) 317
ABS警告灯 76, 317
ACC
(アダプティブ・クルーズ・コントロール) .. 260
ACC警告灯 77
ACC表示灯 85

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 227
CMBS警告灯 78
CMBS表示灯 85

E

ENGINE START/STOPスイッチ 142
パワーモードの切り換えかた 142
EPS(電動パワーステアリング)システム
警告灯 76, 409

G

Gメーター 112

H

Honda SENSING 14, 223
Honda Total Care プレミアム 5
Hondaスマートキー 121, 122
緊急時のエンジン停止方法 400
電池交換のしかた 367

I

ISOFIX/i-Size 63

L

LKAS(車線維持支援システム) 282
LKAS警告灯 78
LKAS表示灯 85

M

MIST 152

P

PGM-FI警告灯 75, 407

S

SRSエアバッグ 35
エアバッグシステム警告灯 47, 76

U

USBジャック 182

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 212
VSA OFF警告灯 77
VSA警告灯 77, 213

W

W(ワット)数 426

ア

アームレスト 169
アクセサリー 377
アクセサリーソケット 177
アクセル開度計／ブレーキ圧計 111
アジャイルハンドリングアシスト 216
アダプティブクルーズコントロール
(ACC) 260
アダプティブクルーズコントロール
(ACC)警告灯(オレンジ) 77
アダプティブクルーズコントロール
(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン) 85
安全支援情報 114
安全支援情報警告灯(オレンジ) 79, 80
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) ... 86
安全なドライブのために 25
安全に関する表示 21
安全のための確認事項 25
アンチロックブレーキシステム(ABS)
ABS警告灯 76, 317

イ

一酸化炭素の危険性 70
イモビライザーシステム 137
イモビライザーシステム表示灯 82
イルミネーションコントロール 156
インフォメーション表示灯 84

ウ

ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 350
ウィンドウォッシャースイッチ 152
ウィンドーの開閉 139
ウェアインジケーター 363
運転
エンジンの始動 195
シフト操作 201
ブレーキ操作 309

エ

エアクリーナーエレメント 426
エアコン 183, 369
エアクリーンフィルター 369
オートエアコンの使いかた 184
窓の曇りや霜の取りかた 186
エアバッグ 35
SRSエアバッグ 35
エアバッグシステム警告灯 47, 76
エアバッグのお手入れ 48
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 45
ニーエアバッグ 39
エンジンオイル 349
推奨エンジンオイル 349, 426
油圧警告メッセージ 406
エンジンの始動 195
エンジンが始動しない 398
バッテリーがあがったとき 401
エンジンルーム内のメンテナンス 346
ウィンドウォッシャー液の補給 350
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 346
推奨エンジンオイル 349
ボンネットを開ける 347
冷却水の点検と補給 404, 405
エンジン冷却水 426

オ

追越合図(パッシング) 147
オイルモニターシステム 340
応急修理剤(タイヤパンク) 382
オーディオ 189
オートエアコン 184
オートハイビーム 149
オートマチックブレーキホールド 313
オートマチックブレーキホールド
システム表示灯 84
オートマチックブレーキホールド
表示灯 84
オートワイパー 154
オーバーヒート 404
オープンソースライセンス 427
オドメーター 102, 105

カ

カーゴフック 174
カーゴスペース照明灯
電球の交換 357
外気温表示 89
鍵(かぎ) 120
ガソリン 330, 426

キ

キー 120
Hondaスマートキー 121, 122
Hondaスマートキーの電池が
切れたとき 399
キー閉じ込み防止装置 130
キーナンバータグ 121
キーレスエントリー 128
後席ドアが開かない 18
電池交換のしかた 367
ドアが開かない 19
内蔵キー 121
キー閉じ込み防止装置 130

キーナンバータグ 121
キーレスエントリー 128
給油 330
給油のしかた 331
指定燃料 330, 426
燃料計 87
燃料残量警告灯 76
緊急通報 421

ク

空気圧 426
空気圧測定器による点検 363
グラブレール 3
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン） 84
車の改造 378
グローブボックス 171

ケ

経過時間表示 105
計器 71
警告灯 74
ABS警告灯 76, 317
EPSシステム警告灯 76, 409
PGM-FI警告灯 75, 407
VSA OFF警告灯 77
VSA警告灯 77
アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ） 77
安全支援情報警告灯（オレンジ） 79, 80
エアバッグシステム警告灯 76
シートベルト非着用警告灯 75
車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ） 78
充電警告灯 75, 407
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） 78
燃料残量警告灯 76
ブレーキ警告灯（レッド） 74, 408
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 74
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） 78
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 78
警告灯の点灯/点滅 406
警告メッセージ 117
けん引 418

コ

コートフック 173
交換
カーゴスペース照明灯電球 357
後退灯電球 355
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 352
車幅灯電球 351
制動灯/尾灯電球 356
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 351
デイタイムランニングライト 351
ハイマウントストップランプ電球 356
バニティミラー照明灯電球 357
番号灯電球 356
尾灯 356
ヘッドライト電球 351
ワイパーブレードラバー 359
工具 380
航続可能距離 102
後退出庫サポート 325
後退灯 355
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 352
コンソールボックス
センターコンソールボックス 171

サ

サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 45
サンバイザー 3

シ

シートの調節 163
フロントシート 163
シートベルト 27
アンカーポイント 34
シートベルト使用状況表示 113

シートベルトの着用 31
シートベルトの点検 34
シートベルト非着用警告灯 75
シートベルトプリテンショナー 29
シートベルトリマインダー 28
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 33
シートベルト使用状況表示 113
時刻の設定 119
室内灯 170
指定燃料 330, 426
シフト操作 201
車外の清掃 374
車線維持支援システム(LKAS) 282
車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ) 78
車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン) 85
車速/経過時間 104
ジャッキ 395
車内の清掃 371
車幅灯 351
充電警告灯 75, 407
充電専用USBジャック 182
収納装備 171
瞬間燃費表示 103
仕様 426
衝撃感知ドアロック解除システム 134
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 227
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) 78
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) 85
ショルダーアンカー 32

ス

水温計 87
スイッチ
ENGINE START/STOPスイッチ 142
イルミネーションコントロール 156
パーキングブレーキスイッチ 309
リヤデフロスタースイッチ 157
ワイパー/ウォッシャー 152
ワイヤレス充電器 178
ステアリング 158
ストップウォッチ 94
スパークプラグ 426
スピードメーター 87

セ

清掃 371
制動灯 356
セキュリティシステム 137
イモビライザーシステム 137
セキュリティアラームシステム 137
先行車発進お知らせ機能 295
センターコンソールボックス 171

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 351
ソナーセンサー 308

タ

ターボ車 335
タイヤ 362
ウェアインジケーター 363
指定空気圧 426
タイヤの点検 362
タイヤのローテーション 365
タイヤパンク応急修理キット 382
冬期のタイヤ 366
パンク 382
タコメーター 88

チ

チェンジレバーの操作 201
チャイルドシート 52
ジュニアシート 68
乳児のチャイルドシート 54
幼児のチャイルドシート 55
チャイルドプルーフ 133
駐停車操作 319

テ

デイタイムランニングライト 148, 351
テールゲートの開閉 135
　テールゲートが開かないとき 420
デフロスター 186
　リヤデフロスター 157
点火プラグ 426
電子制御パーキングブレーキ 309
電子制御ブレーキアシスト 318
電池交換 367

ト

ドアの施錠と解錠 120
　キー閉じ込み防止装置 130
　キーナンバータグ 121
　キーの種類と機能 120
　キーレスエントリー 128
　後席ドアが開かない 18
　車外でのドアの施錠/解錠 123
　車内での施錠/解錠 131
　衝撃感知ドアロック解除システム 134
　チャイルドプルーフ 133
　ドアが開かない 19
ドアミラー 161
冬期のタイヤ 366
時計 93, 119
トップテザー取付金具 63
ドライバー注意力モニター 107
ドライブモードスイッチ 205
トラブルサポート 424
トラブルシューティング
　運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 19
　エンジンが始動しない 398
　オーバーヒートした 404
　緊急時や車両トラブルのとき 421
　警告灯が点灯/点滅した 406
　けん引してもらいたい 418
　後席ドアが開かない 18
　走行するとブザーが鳴る 19
　ドアが開かない 19
　バッテリーがあがったとき 401
　パンクした 382
　ヒューズが切れた 411
　ブレーキを踏むと音がする 20
　ブレーキを踏むと振動する 18
トランスミッションフルード 426
トリップメーター 102, 105
ドリンクホルダー 172

ナ

ナビゲーション 106

ニ

ニーエアバッグ 39

ネ

燃料 330, 426
　燃料計 87
　燃料残量警告灯 76

ハ

パーキングセンサーシステム 320
排気ガスの危険性 70
ハイビーム 147
　電球の交換 351
　ハイビーム表示灯 81
ハイマウントストップランプ 356
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 2, 381
パッシング 147
バッテリー
　充電警告灯 75, 407
　バッテリーがあがったとき 401
　容量/タイプ 426
バッテリーがあがったとき 401
バニティーミラー 3
パワーウィンドーの開閉 139
パワーモード
　パワーモードオートオフ機能 143
　パワーモード警告ブザー 143
　パワーモードの切り換えかた 142
パンク 382
番号灯 356

ハンドル 158
ハンドル位置調整レバー 158

ヒ

ヒーテッドドアミラー 157
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 356
ヒューズ 411
ヒューズの設置場所 411
ヒューズの点検と交換 415
標識認識機能 299
標識認識機能表示 90
表示設定 96, 116
表示灯 81
+Rモード表示灯 84
COMFORTモード表示灯 83
INDIVIDUALモード表示灯 83
SPORTモード表示灯 83
アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン） 85
安全支援情報表示灯（グリーン/グレー） 86
イモビライザーシステム表示灯 82
インフォメーション表示灯 84
オートハイビーム表示灯 81
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 84
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 84
ギヤポジション表示灯 83
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン） 84
シフトアップ表示灯 83
シフトダウン表示灯 83
車間距離設定表示灯 85
車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト/グリーン） 85
衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー） 85
セキュリティアラームシステム作動表示灯 82
ハイビーム表示灯 81
方向指示器/非常点滅表示灯 81
ライト点灯表示灯 81
路外逸脱抑制機能表示灯（グレー） 85

フ

ブースターケーブル 401
ブースト圧計 111
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 19
走行するとブザーが鳴る 19
踏み間違い衝突軽減システム 238
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき ... 419
フューエルリッドの開けかた 331
フューエルリッドの開けかた 331
ブラインドスポットインフォメーション ... 218
ブレーキシステム 309
ABS（アンチロックブレーキシステム） 317
オートマチックブレーキホールド 313
電子制御パーキングブレーキ 309
電子制御ブレーキアシスト 318
フットブレーキ 312
ブレーキ警告灯（レッド） 74, 408, 410
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 74, 410
ブレーキを踏むと音がする 20
ブレーキを踏むと振動する 18
ブレーキフルード 426
ブレーキ警告灯（レッド） 74, 408
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 74
フロントシート 163
フロントワイドビューカメラ 306

ヘ

平均車速表示 105
平均燃費表示 103
ヘッドライト 146, 376
オートハイビーム 149
追越合図（パッシング） 147
電球の交換 351
ハイビーム表示灯 81
ライト点灯表示灯 81

ホ

ホイールサイズ..... 426
方向指示器(ウィンカー)
方向指示器/非常点滅表示灯 81
ホーンスイッチ..... 1
歩行者事故低減ステアリング 252
ポップアップフードシステム 49

マ

マスタードアロックスイッチ 132
マップランプ..... 170
マルチインフォメーション ディスプレイ 93, 99
表示の切り換えかた 99

ミ

ミラー 159
自動式防眩ミラー..... 160
ドアミラー..... 161
ルームミラー 159

メ

メーター..... 87
アダプティブクルーズコントロール (ACC)/車線維持支援システム(LKAS) 表示 91
外気温表示..... 89
車両情報..... 92
水温計 87
スピードメーター 87
タコメーター 88
燃料計 87
標識認識機能表示 90
マルチインフォメーション ディスプレイ 93, 99
レブインジケーター..... 91
メンテナンス..... 113, 336
Hondaスマートキー..... 367
エアコンのお手入れ..... 369
エンジンルーム内のメンテナンス 346
清掃..... 371
タイヤの点検と整備..... 362
メンテナンスに関する注意事項..... 339
メンテナンスを安全に行うために 338
ライト類の点検と整備 351
ワイパーブレードラバーの点検と整備 ... 359

ユ

油圧警告メッセージ 406

ラ

ライトスイッチ
オートハイビーム 149
追越合図(パッシング) 147
ハイビーム表示灯 81
ライト点灯表示灯 81
ライト類の点検と整備..... 351
カーゴスペース照明灯電球 357
後退灯電球 355
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球..... 352
車幅灯電球 351
制動灯/尾灯電球..... 356
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球..... 351
ハイマウントストップランプ電球..... 356
バニティミラー照明灯電球 357
番号灯電球 356
ヘッドライト電球..... 351

リ

リアシートリマインダー 168
リアワイドカメラシステム..... 329
リザーブタンク..... 346
リミテッドスリップデフ(LSD) 217
リムサイズ..... 426
リヤシート..... 166
リヤデフロスタースイッチ..... 157
リヤワイパー 155

ル

ルームミラー 159

レ

冷却水 404, 405, 426
オーバーヒート 404
補給 404
レブマッチシステム 202

ロ

ロービーム
電球の交換 351
路外逸脱抑制機能 243
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) 78
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 78
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 85

ワ

ワイパー/ウォッシャー 152
ワイパーブレードラバー 359
ワイヤレス充電器 178

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名